

# 理工系女子学生の キャリア展望調査報告書



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University

## はじめに

---

国立大学法人お茶の水女子大学は、2014年12月～2015年3月にかけて、リーディング大学院推進センターが中心となり、全国の国公私立大学を対象に「理工系女子学生のキャリア展望調査」を実施しました。この調査結果を分析し、このたび、報告書を作成しましたので、ここにお届けします。

本学は、2013年度に大学院博士課程教育リーディングプログラムに採択され、本学が拠点となって、産学官が協働し、イノベーションを創出し続けることのできる高い柔軟性をもった、グローバルに活躍できる女性人材の育成に取り組んでいます。

本プログラム（「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成）は、教育内容、教育手法、教育評価いずれにおいても理工系分野の博士人材育成のための教育モデルを提案することを目的としています。私達はこの博士課程教育モデルを広く社会に発信することにより、わが国の大学院教育全体の改革や推進に役立たいと考えています。また、本学の女性リーダー育成に関するこれまでの実績を踏まえ、「2020年までに指導的立場に立つ女性の比率を30%に高める」というわが国が掲げる数値目標の達成に対し、特に女性人材の少ない理工系分野のグローバルリーダーを育成することで貢献していきたいと希望しています。

一方、理工系女性人材をいかに育てていくかという点は、本学をはじめ、多くの大学にとっても重要な課題であるといえるでしょう。今回実施した調査は、このような目的のもと、理工系女子学生が、自身のキャリアについてどのように考えているのか、博士課程進学を自身のキャリアの中にどのように位置づけているか、それはどのような理由かといったキャリア展望について把握し、人材育成に役立てるために実施したものです。

本調査には、全国21大学576名の、理学系、工学系、農学系の学士課程、博士前期課程（修士課程）、博士後期課程（博士課程）に所属している女子学生の皆さまからご回答いただきました。ご回答いただいた女子学生の皆さまをはじめ、本調査の実施にあたりご協力いただいた各大学の教職員の皆さまには、この場をお借りして心よりお礼申し上げます。どうも有り難うございました。

本学は、将来にわたって、社会をリードし時代を作る女性たちを育て、卒業生達が、周囲の人々や社会に対して未来への希望と勇気を呼び起こす活躍をすることができるよう、140年の歴史と伝統を持つ高等教育機関としての役割を果たしていく所存です。

引き続きご指導を賜りたく、どうか宜しく願い申し上げます。

博士課程教育リーディングプログラム責任者  
国立大学法人お茶の水女子大学 理事・副学長  
小川 温子

# 目次

はじめに

目次

執筆担当者

1	調査の概要	1
1	1. 調査の目的	
2	2. 調査期間と方法	
3	3. 回答者の属性	
2	キャリア志向	5
1	1. 卒業・修了後のキャリア	
2	2. 希望する就職先・職種	
3	3. 進路選択で重視する条件	
4	4. まとめ	
3	大学院進学	15
1	1. 修士課程の進学	
2	2. 博士課程の進学	
3	3. 学費の免除	
4	4. 博士号の取得	
5	5. まとめ	
4	博士号のキャリアと進路選択	33
1	1. 博士号のキャリアイメージ	
2	2. 修士・博士課程への進学可能性	
3	3. 相談相手	
4	4. 獲得したい能力	
5	5. まとめ	
5	海外研修、留学、インターンシップ、キャリア支援	41
1	1. 社会的状況	
2	2. 海外研修	
3	3. 留学	
4	4. インターンシップ	
5	5. キャリア支援	
6	6. まとめ	

6 理工系女子学生の博士課程のイメージと進学行動・・・・・・・・・・ 61

1. 博士課程への進学理由と懸念事項
2. 自身に欠けており、今後、身につけたい能力
3. 進路選択にあたってのアドバイス
4. 博士号のキャリア（進路）についてのイメージ
5. まとめ

付 表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71

1. 調査依頼状（調査の概要）
2. 調査票
3. 基礎集計表
4. 自由回答一覧

<b>執筆担当者</b>
--------------

小川 温子 お茶の水女子大学 理事・副学長	はじめに
中島 ゆり 長崎大学 大学教育イノベーションセンター 准教授	1, 6 章
木村 祐子 お茶の水女子大学 グローバルリーダーシップ研究所 特別研究員	2, 3, 4, 5 章, 基礎集計表, 自由回答一覧



# 1 調査の概要

## 1. 調査の目的

2014 年度学校基本調査によれば、全国の大学の理工農系に属する女子学生の比率は学士課程（以下、学部）で 19.3%、博士前期（修士）課程（以下、修士課程）で 15.3%、博士後期（博士）課程（以下、博士課程）では 20.1%である。ただし、理工農系のうち、農学系の女性比率は高く、これを除くと、理学系では学部で 26.4%、修士課程で 22.1%、博士課程で 19.1%、工学系では学部で 12.9%、修士課程で 11.2%、博士課程で 16.7%にすぎない。人文科学では学部で 65.6%、修士課程で 59.9%、博士課程で 53.4%、社会科学では学部で 34.0%、修士課程で 39.8%、博士課程で 36.4%が女性であることを鑑みると、理学系、工学系の女性比率は非常に小さい。

図表 1－1 全国の大学の理工農系学部・専攻の女性比率（2014 年度）

	学部			修士課程(博士前期課程)			博士課程(博士後期課程)		
	合計	女性	女性比	合計	女性	女性比	合計	女性	女性比
理学	80,684	21,309	26.4%	13,655	3,023	22.1%	5,237	1,002	19.1%
工学	388,276	50,275	12.9%	66,541	7,468	11.2%	13,297	2,216	16.7%
農学	75,593	33,485	44.3%	8,707	3,098	35.6%	3,638	1,243	34.2%
合計	544,553	105,069	19.3%	88,903	13,589	15.3%	22,172	4,461	20.1%

出所：文部科学省「平成 26 年度学校基本調査」より著者が再集計

「理工系女子学生のキャリア展望に関する調査」は、全国の大学に所属する理工系女子学生および大学院生のキャリア展望と、それを達成する上での問題点を明らかにし、女性が理工系分野で活躍し続けるために必要な支援を検討する上での基礎的資料を得ることを目的に実施した。

## 2. 調査期間と方法

### 1) 対象

全国の理学系、工学系、農学系の大学の学部 3、4 年生以上、修士課程、博士課程、5 年一貫制の博士課程（以下、5 年一貫制）に在籍する女子学生・大学院生を対象とした。

本調査では、全国の理工農系女子学生が所属している大学の学部・研究科に調査を依頼する必要があったが、いずれの大学に理工農系学部・研究科があるのか、また、いずれの学部・研究科に何人、女性が所属しているかについては、民間のウェブサイト（「蛍雪時代パスナビ」および「ナレッジステーション」）および各大学のウェブサイトを参考に調べ、リスト化した上で、調査対象学部・専攻を選定した。

### 2) 調査時期

2014 年 12 月 22 日～2015 年 2 月 28 日

### 3) 調査協力依頼と調査方法

日本にある大学のうち、理学系、工学系、農学系の大学院をもつ大学 34 校 116 学部・研究科の学部長または研究科長に調査協力依頼状を郵送し、郵送またはウェブ上で調査協力の諾否を得た。

調査協力学部・研究科には学生または大学院生に対して調査協力を呼びかけるメールの文章、または紙媒体の調査協力依頼状を送り、学生と大学院生にメール転送または配布してもらった。調査はウェブ調査を主としたが、紙媒体の調査票を必要とする場合には、各学部・研究科の担当者に郵送した。

最終的に、21 大学 39 学部・研究科に所属する学生から、576 票の回答を得た。

### 4) 調査企画主体

お茶の水女子大学リーディング大学院推進センター

### 5) 調査委託先

株式会社サーベイリサーチセンター

### 6) 調査内容

質問項目は以下のとおりである。

所属課程、所属分野、学生種別、生まれ年、学位、所属課程卒業／修了後予定進路、希望する仕事、大学院への進学希望とその理由、博士号に対するイメージ、進路選択における相談先、親の期待、身につけたい能力、海外研修・留学・インターンシップの経験、所属大学・大学院におけるキャリア教育、結婚・育児・介護の状況、社会人経験、大学院選択理由、経済状況、大学院に進学して良かった点・悪かった点。

調査項目は主として『我が国の博士課程修了者の就職意識・活動に関する調査研究』(2012) を参照にした。

詳細な質問文については、資料の調査票を参照のこと。

## 3. 回答者の属性

以下では回答者の属性について確認していく。

まず、所属課程を見ると、学部は 39.9%、修士課程 44.3%、博士課程 14.8%、5 年一貫制 0.9%であった。ただし、所属課程について、無回答の者が 1 人いたため、所属課程別の分析では 1 名除いて、N=575 名で分析した。

博士課程の学生数が他の課程に比べると少ないが、博士課程の学生は相対的に人数が少ないため、やむを得ないだろう。5 年一貫制については、回収数が 5 件しかなかったため、分析では博士課程のカテゴリーに統合させた。

図表 1-2 所属課程別の比率

	N	%
学部	230	39.9%
修士課程	255	44.3%
博士課程	85	14.8%
5年一貫制	5	0.9%
無回答	1	0.2%
合計	576	100.0%

所属課程への在籍年数を見ると、学部では3年目、4年目が9割以上、修士課程では1年目と2年目で9割以上、博士課程では、1年目が38.6%、2年目が30.1%、3年目が19.3%であった。また、5年一貫制に在籍している学生のうち1年目、2年目の前期課程と同等と思われる者が3人、3年目、6年目の後期課程と同等と思われる者が2人であった。

図表 1-3 所属課程への在籍年数

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	合計	N
学部	1.8%	1.3%	34.7%	58.2%	2.7%	0.0%	1.3%	100.0%	225
修士課程	51.4%	46.6%	1.2%	0.0%	0.4%	0.4%	0.0%	100.0%	249
博士課程	38.6%	30.1%	19.3%	6.0%	4.8%	1.2%	0.0%	100.0%	83
5年一貫制	40.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	100.0%	5

次に、回答者の所属分野を見ると、理学系が47.2%、工学系46.0%、農学系6.8%であった。農学系の学生数が少ないことに留意しておきたい。

図表 1-4 分野別の比率

	N	%
理学系	272	47.2%
工学系	265	46.0%
農学系	39	6.8%
合計	576	100.0%

学生種別については、9割以上が社会人学生や留学生を除いた一般学生であった。

図表 1-5 学生種別の比率

	N	%
一般学生(社会人学生・留学生を除く)	541	94.1%
社会人学生	6	1.0%
日本政府国費留学生	7	1.2%
外国政府国費留学生	1	0.2%
私費留学生	20	3.5%
合計	575	100.0%



回答者の年齢は、学部では 20 代前半が 99.2%、後半が 0.9%、修士課程では 20 代前半が 88.9%、後半が 10.7%、博士課程では 20 代前半が 10.6%、後半が 73.0%、30 代が 11.9%であった。

図表 1 - 6 生まれ年の比率

	1969-1979年 生まれ	1980-1984年 生まれ	1985-1989年 生まれ	1990-1994年 生まれ	合計	N
学部	0.0%	0.0%	0.9%	99.1%	100.0%	228
修士課程	0.4%	0.0%	10.6%	89.0%	100.0%	254
博士課程	4.7%	11.8%	72.9%	10.6%	100.0%	85
5年一貫制	0.0%	20.0%	60.0%	20.0%	100.0%	5

<参考文献>

文部科学省科学技術政策研究所第一調査研究グループ（2012）『我が国の博士課程修了者の就職意識・活動に関する調査研究』

## 2 キャリア志向

### 1. 卒業・修了後のキャリア

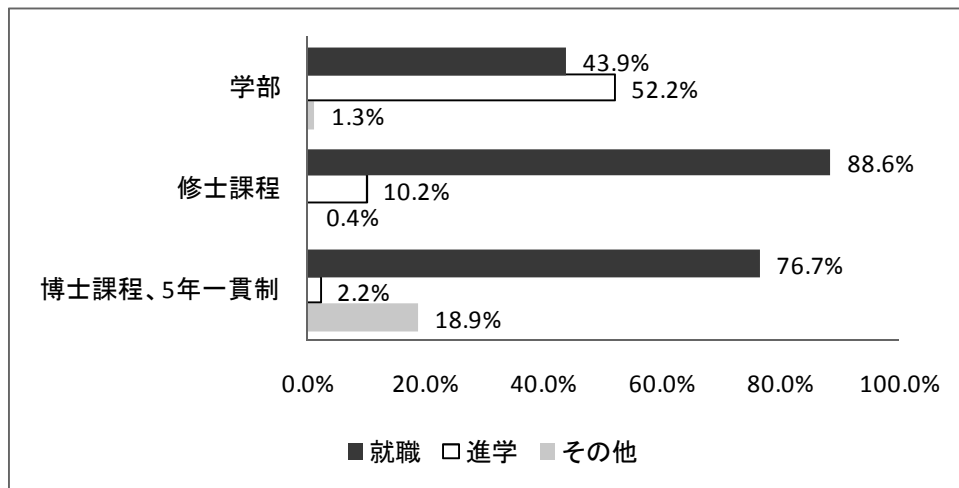
理工系女子学生は、どのような進路を希望しているのだろうか。本調査では、学部、修士課程、博士課程の学生を対象に、現在、所属している課程を卒業・修了後に予定している進路についてたずねている。

学部生で、進学を予定（希望）している者は52.2%と若干多く、就職予定者は43.9%であった。修士課程では、就職予定者が88.6%と圧倒的に多く、進学予定者は10.2%のみであった。学部生の約半数が進学を希望するのに対して、修士課程の学生の9割は、就職を予定していた。修士課程への進学を希望する学生は多いが、博士課程への進学を希望する学生は著しく少ないことが明らかになった。

博士課程の学生の進路予定は、76.7%が就職であり、その他が18.9%であった。その他のうちわけは、「今の時点で進路のことは考えていない」が11.4%、「その他（自由回答）」が8.0%であった。自由回答では、ポスドク<sup>(注)</sup>職、研究員職に就く予定であることが書かれていた。

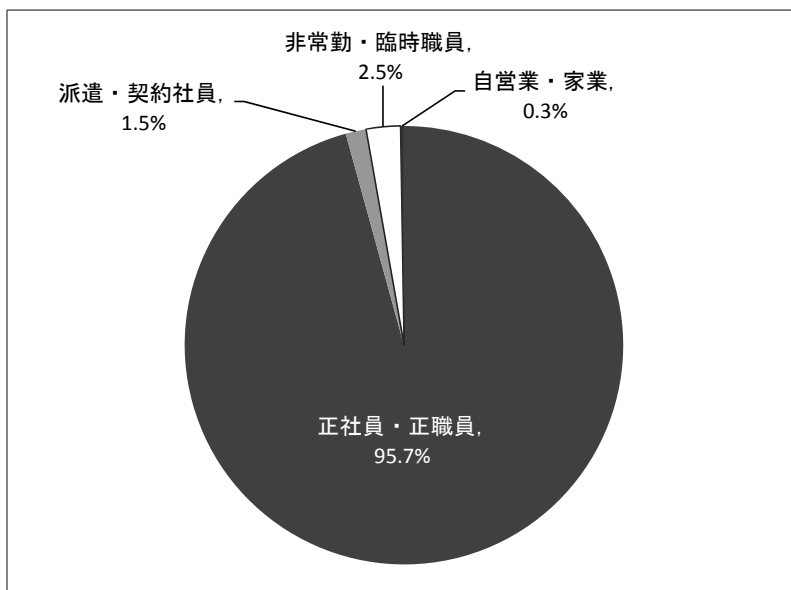
また、就職を希望する学生（396名）のうち、9割強が正社員・正職員としての就職を望んでいた（図表2-2）。

図表2-1 卒業・修了後に予定している進路



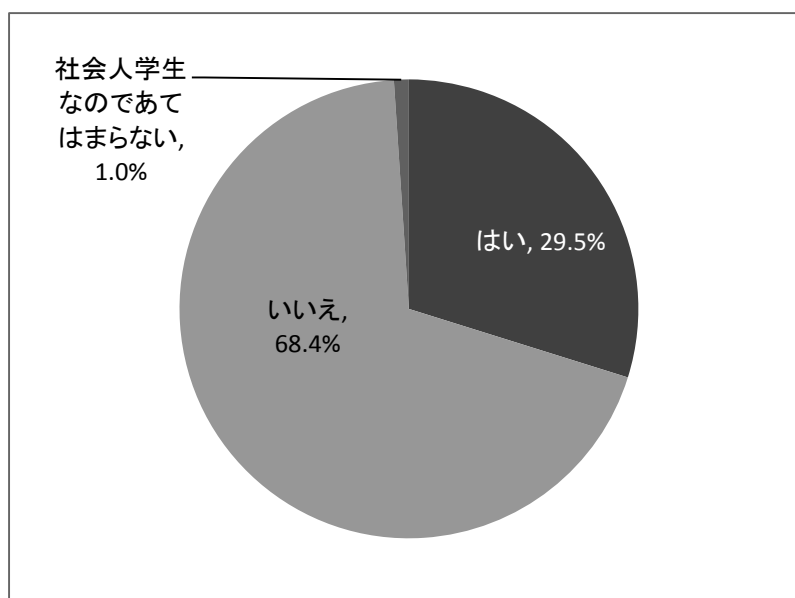
無回答の割合はグラフから省略した

図表 2-2 就職予定者の希望する職業形態



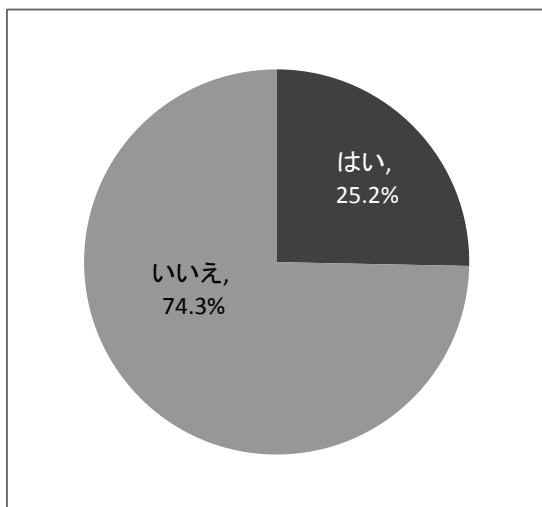
調査時にすでに内定をとっていた学生は3割であった。内定者のうち、修士課程の学生が40.8%と一番多く、続いて学部生が25.2%であった。博士課程の学生の8割は内定を受けておらず、他の課程に比べて就職が難しい状況にあった。

図表 2-3 調査時の内定状況

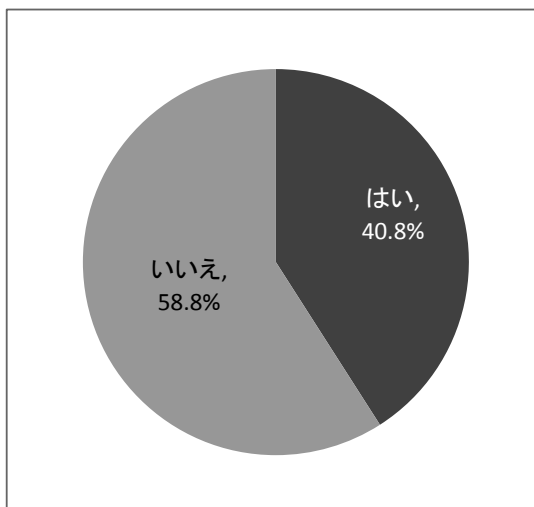


無回答の割合はグラフから省略した

図表 2-4 学部の内定状況

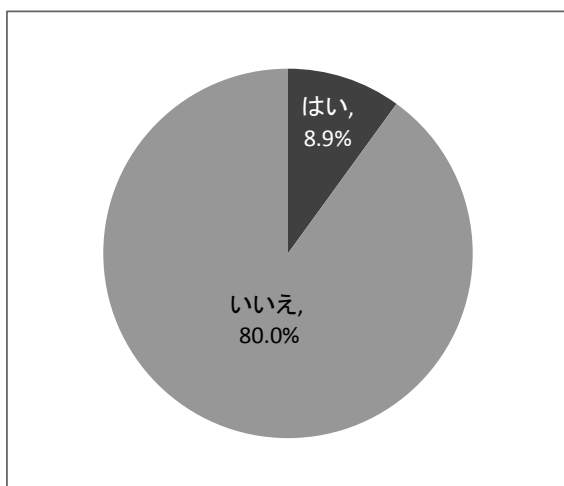


図表 2-5 修士課程の内定状況



「社会人学生なのであてはまらない」「無回答」の割合はグラフから省略した

図表 2-6 博士課程の内定状況



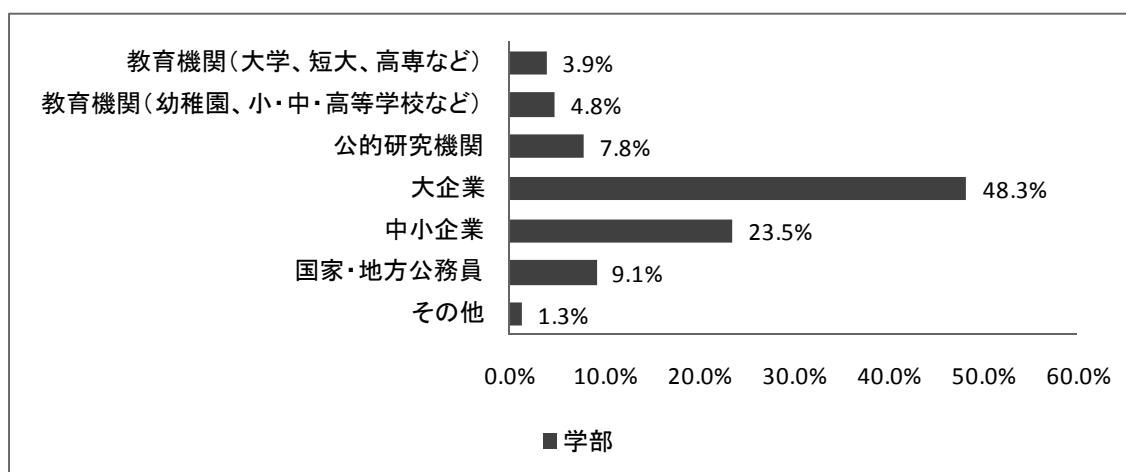
「社会人学生なのであてはまらない」「無回答」の割合はグラフから省略した

博士課程の就職が困難である背景には、博士課程修了後のキャリアの特性と関連している。浦田によれば、大学教員の採用は、毎年、各分野博士課程修了者数と比べると少なく、また現状として、大学教員になるためには、博士課程修了や学位取得に加えて、その後の研究経験や実務経験など多様な経験を積んでいることが求められる傾向にある（浦田 2015）。博士課程を修了後、任期付きのポストや非常勤講師の職を経て、常勤職に就くことが通常だと考えられている。したがって、博士課程修了直後に大学教員として就職することは極めて困難であることがわかる。

## 2. 希望する就職先・職種

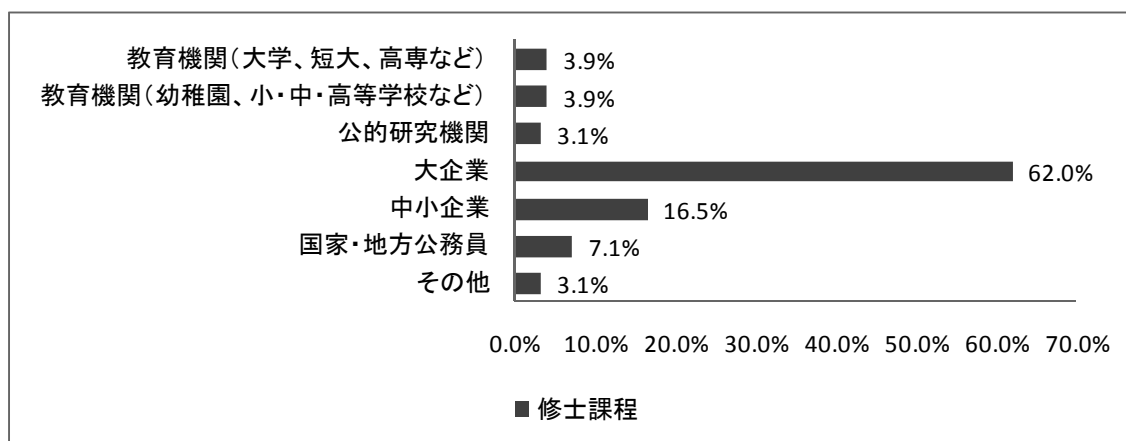
続いて、希望する就職先は、学部と修士課程の学生の多くが大企業への就職を希望していた。博士課程の学生で、大企業への就職を希望する者は3割程度いたが、大学などの教育機関への就職を望む学生の方が多かった。大学などの教育機関への就職を希望する学生は、博士課程において顕著であった（図表2-9参照）。

図表2-7 学部生の希望する就職先



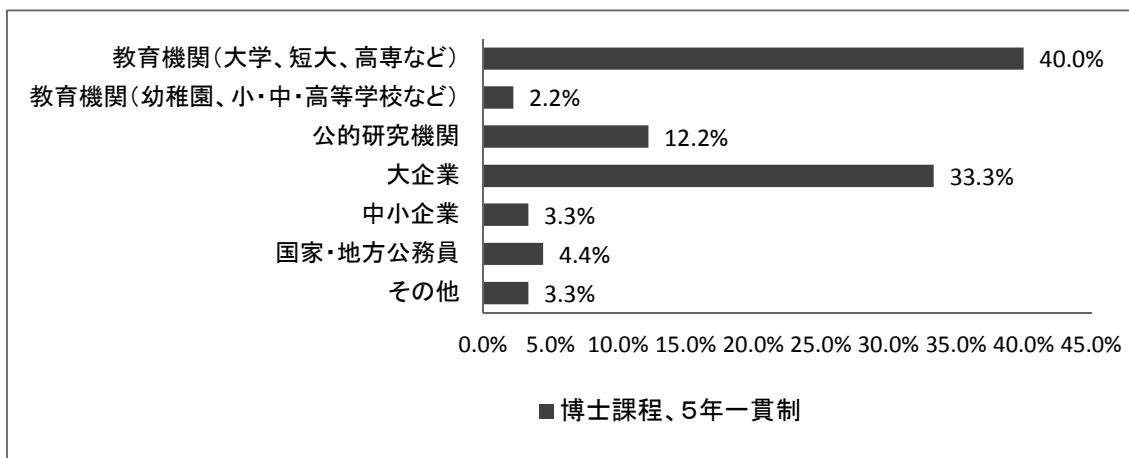
無回答の割合はグラフから省略した

図表2-8 修士課程の学生が希望する就職先



無回答の割合はグラフから省略した

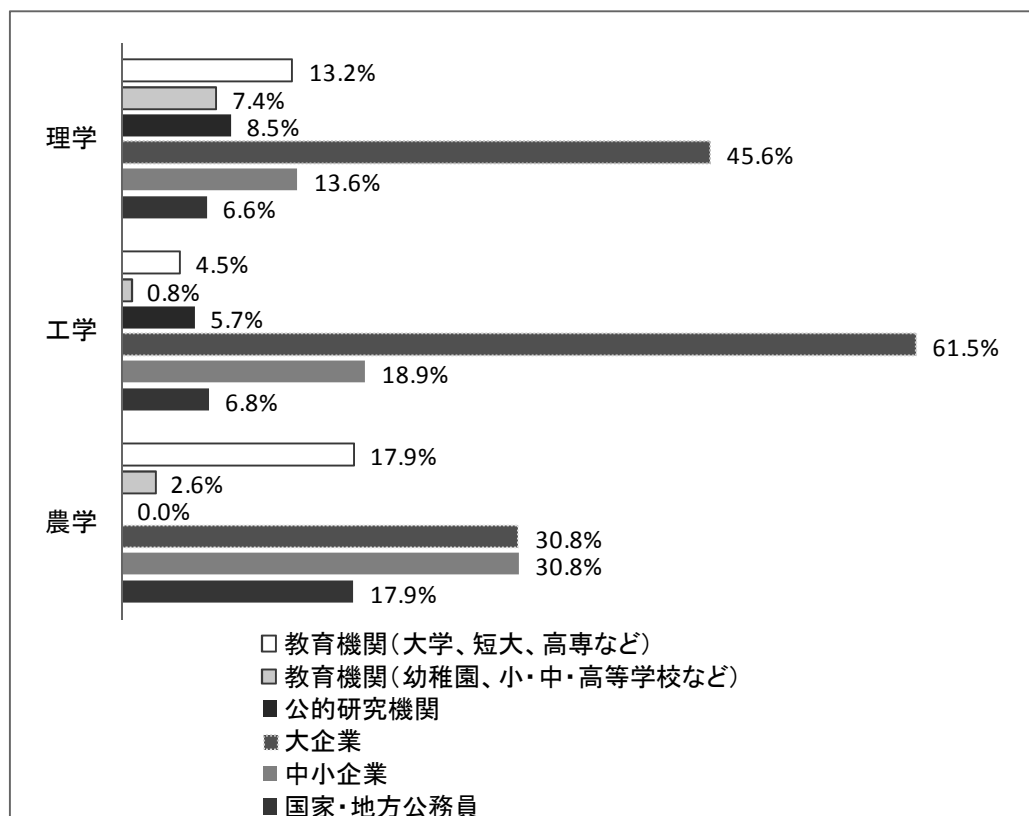
図表 2-9 博士課程の学生が希望する就職先



無回答の割合はグラフから省略した

希望する就職先を分野別で見ると、理学と工学分野の学生は、大企業への就職を希望する者が多かった。一方で、農学系の学生（39名）は、大企業の他にも、中小企業や国家・地方公務員、教育機関（大学、短大、高専など）への就職を希望しており、幅広い職種を選択する傾向にあった。

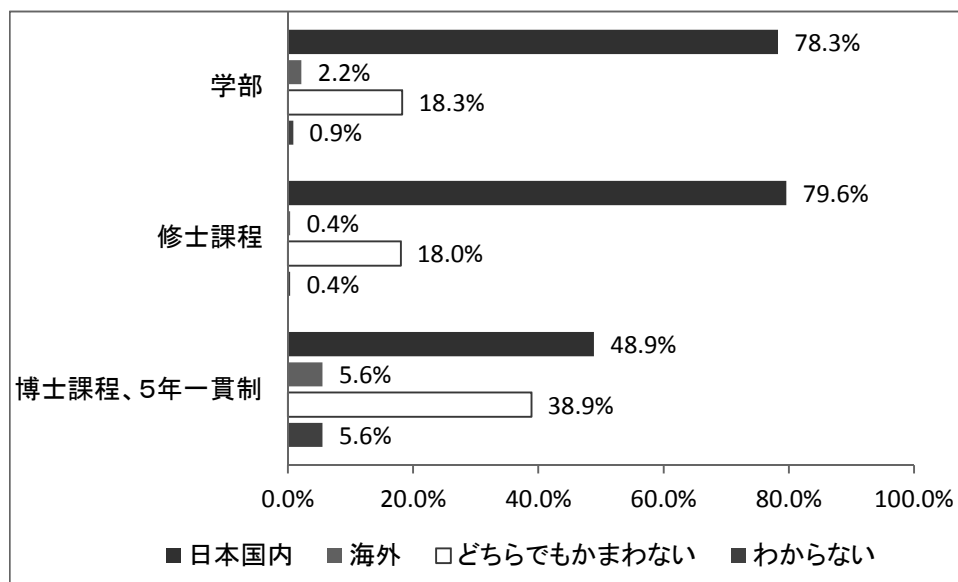
図表 2-10 希望する就職先（分野別）



無回答の割合はグラフから省略した

就職先の場所については、学部、修士課程の学生ともに、日本国内を希望している者が約8割となった。博士課程の学生のうち、半数は国内を希望していたが、「どちらでもかまわない」と回答した者が約4割いた。博士課程の学生は、他の課程の学生よりも海外での就職を視野にいれていることがうかがえる。

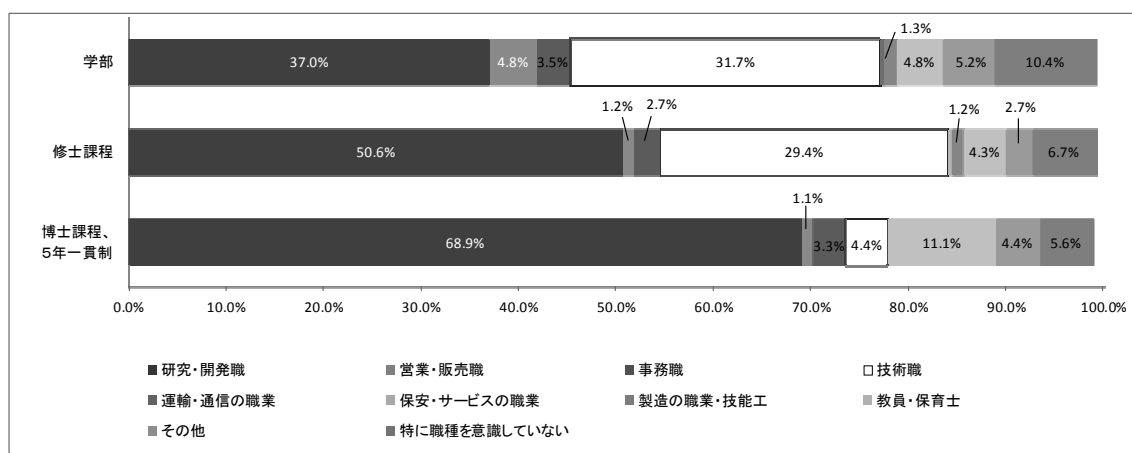
図表 2-11 就職先の場所（課程別）



無回答の割合はグラフから省略した

希望する職種は、どの課程においても「研究・開発職」が多いが、博士課程・5年一貫制においてその傾向は顕著であった。学部、修士課程では、「研究・開発職」に続いて、「技術職」が多かった。

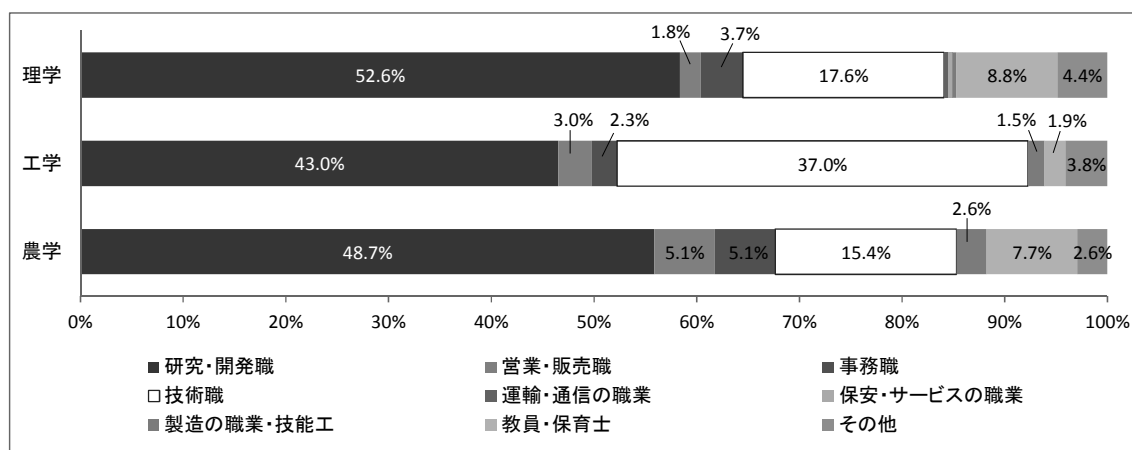
図表 2-12 希望する職種（課程別）



無回答の割合はグラフから省略した

分野別では、「研究・開発職」がどの分野でも半数近くおり、人気であることがわかった。工学分野では、「研究・開発職」(43.0%)に続いて、「技術職」を希望する者が37.0%と多かった(図表2-13)。

図表2-13 希望する職種(分野別)



無回答の割合はグラフから省略した

### 3. 進路選択で重視する条件

次に、理工系女子学生は進路選択の際に、どのような条件を重視しているのだろうか。この質問は、進路選択の際に重視する条件を選択肢のなかから選ぶ形式になっている。加えて、重視する条件に1位から3位までの順位をつけて答えてもらっている。1位から3位までに選ばれた上位5項目の条件についてみてみよう。

図表2-14 進路選択の条件(1位)

1位	%
業種・仕事内容	31.9%
自分の能力や適性と合っていること	20.7%
大学・大学院での専門分野との関連	12.0%
ワークライフバランス	10.6%
正社員かどうか	7.6%

上位5項目以外の項目は省略した

図表2-15 進路選択の条件(2位)

2位	%
ワークライフバランス	21.0%
業種・仕事内容	18.8%
自分の能力や適性と合っていること	17.9%
大学・大学院での専門分野との関連	10.9%
企業・機関の将来性・安定性	9.5%

上位5項目以外の項目は省略した



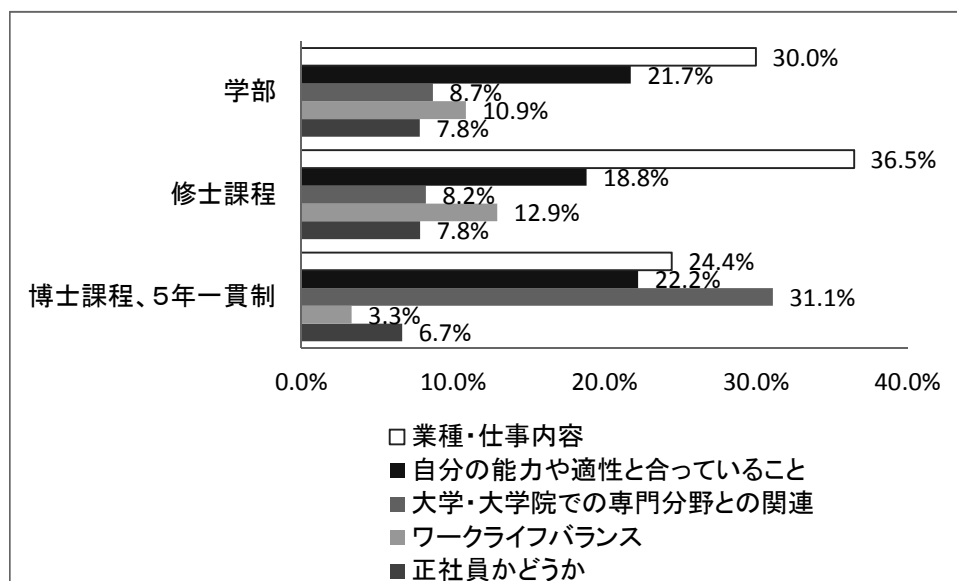
図表 2-16 進路選択の条件（3位）

3位	%
ワークライフバランス	18.6%
企業・機関の将来性・安定性	15.5%
業種・仕事内容	13.2%
自分の能力や適性と合っていること	11.6%
大学・大学院での専門分野との関連	11.5%

上位5項目以外の項目は省略した

図表で塗りつぶされている項目は、1位から3位のいずれにおいても選択された項目を示している。学生は、進路を決める際に、自分の能力や適性に応じて、業種や仕事内容を選択しようとしていた。そして、大学や大学院で学んだ専門性をいかしながら、ワークバランスがはかれる仕事を望んでいた。さらに、「進路選択の条件」1位の上位5項目を課程別にみると、博士課程の学生は、他の課程に比べて「大学・大学院での専門分野との関連」（31.1%）を重視する傾向にあった。研究を継続していることの表れであろう。

図表 2-17 課程別、進路選択時の条件（1位）



上位5項目以外の項目は省略した

#### 4. まとめ

理工系女子学生の卒業・修了後の進路は、学部生の場合、進学を希望する者の方が就職を希望する者よりも若干多かった。一方で、修士課程の学生のほとんどは就職を望んでおり、博士課程への進学希望は極めて少なかった。多くの学生が修士課程には進学し

たいが、博士課程には進学しないと考えていることが明らかになった。また、調査時にすでに内定をとっていた学生は3割おり、課程別では修士課程の学生に多かった。

希望する就職先は、学部生と修士課程の学生は大企業を希望する傾向にあった。博士課程においても、大企業への就職希望者は多かったが、それ以上に大学、短大、高専などの教育機関に就職したいと考える学生が多かった。希望する職種は、「研究・開発職」に続いて「技術職」が多かった。

進路を選択する際に、学生は「業種・仕事内容」、「自分の能力や適性」、「ワークバランス」を重視する傾向にあった。特に、博士課程の学生は、「大学・大学院での専門分野との関連」を重視していた。

#### <注>

『学校基本調査』の定義によれば、ポスドク（ポストドクター）とは「博士の学位を取得後、任期付で任用される者であり、①大学等の研究機関で研究業務に従事している者であって、教授・准教授・助教・助手等の職にない者、②独立行政法人等の研究機関において研究業務に従事している者のうち、所属する研究グループのリーダー・主任研究員等でない者を指す」。

#### <参考文献>

浦田広朗 2015, 「大学院の変容と大学教員市場」『日本労働研究雑誌』660, pp4-15.



### 3 大学院進学

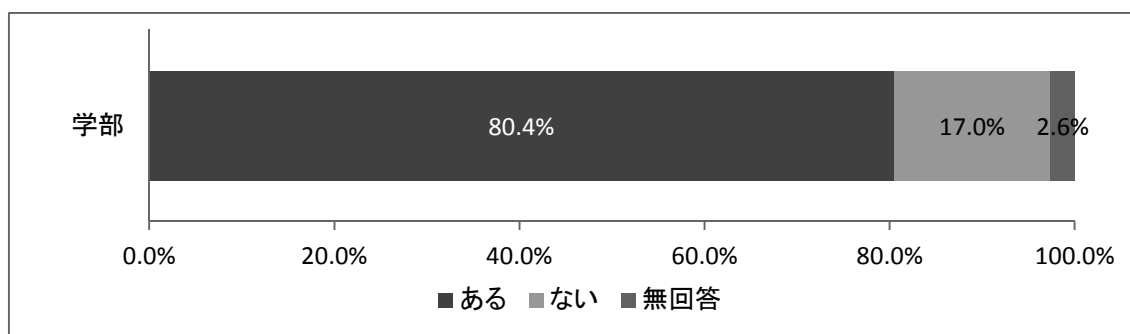
#### 1. 修士課程の進学

##### 1) 進学希望と理由

理工系女子学生は、大学院への進学をどのように考えているのだろうか。調査では、「実際に進学するかどうかは別にして、あなたは博士前期（修士）課程への進学を考えたことがありますか」とたずねている。

学部生の8割が大学院進学を希望していた。理工系大学において、修士課程への進学は、望ましいものとして受けとめられていることがわかる。

図表 3-1 修士課程への進学希望（学部）



では、学生はなぜ修士課程に進学しようとするのだろうか。「進学することを考えた理由」の質問（選択肢）では、1番目と2番目の進学理由をたずねている。下記に、進学理由1番目と2番目で選択された上位5項目を示した。1番目の理由として、圧倒的に多かったのは「専門をさらに深めたい」（50.5%）であった。

図表 3-2 修士課程への進学理由（1番目）

1番目	割合
専門をさらに深めたい	50.5%
修士号を取得したい	8.2%
大学の教員や研究者として働きたい	7.6%
新たな知識の発見を通じて社会に貢献したい	7.4%
就職先での昇進や昇給が期待される	7.2%

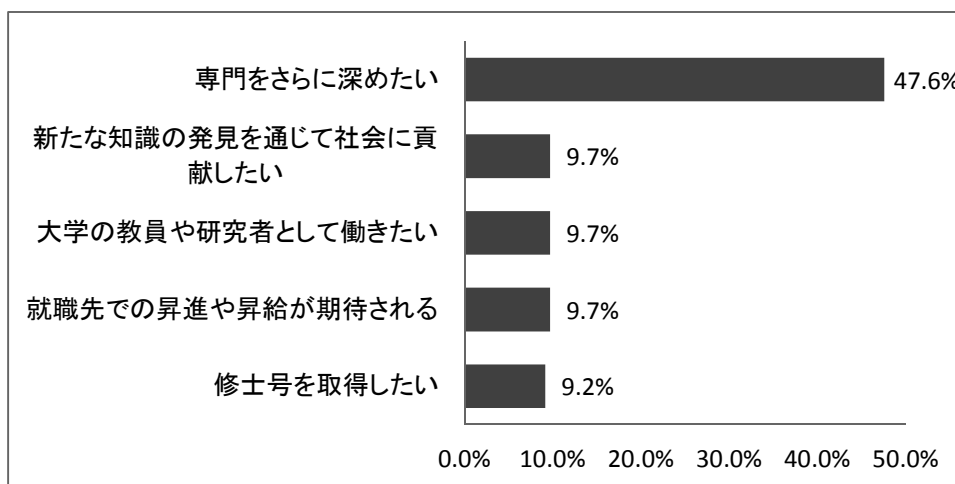
図表 3-3 修士課程への進学理由（2番目）

2番目	割合
専門をさらに深めたい	16.4%
新たな知識の発見を通じて社会に貢献したい	15.8%
周りに進学する人が多かった	15.2%
修士号を取得したい	12.2%
就職する時期を先に延ばしたい	10.5%

さらに、進学理由を課程別に分析すると、進学理由は課程ごとに少々異なるようであった。以下に、課程別に、進学理由（1番目）の上位5項目を多い順に図表（図表3-4、3-5、3-6）に示した。どの課程においても「専門をさらに深めたい」が最も多いのは変わらなかった。変化がみられた項目は、「大学の教員や研究者として働きたい」、「就職先での昇進や昇給が期待される」であった。

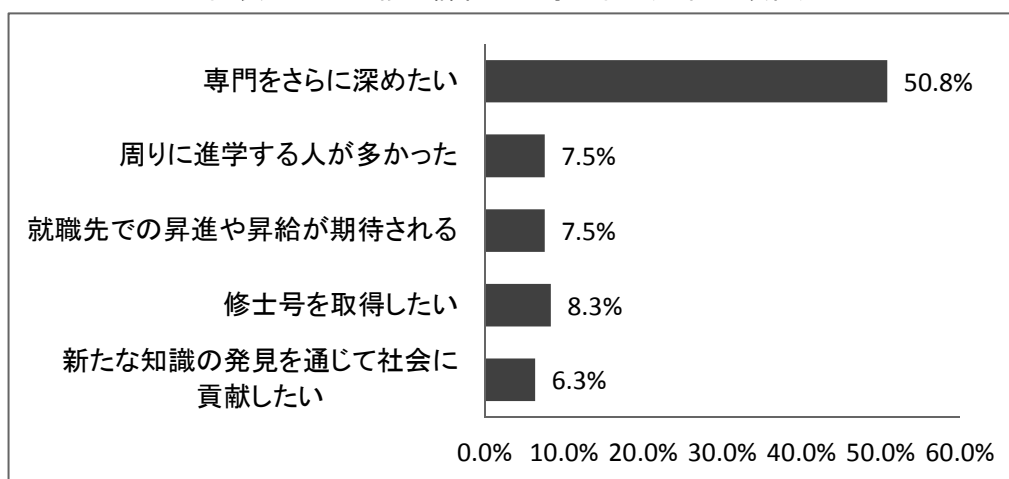
「大学の教員や研究者として働きたい」の項目では、学部の場合 9.7%、修士課程では 3.6%と少なく、博士課程では 14.9%と多かった。専門的な知識を有する博士課程の学生がなんらかの研究職に就こうとするのは当然の結果であろう。また、「就職先での昇進や昇給が期待される」の項目では、学士 9.7%、修士課程 7.5%、博士課程 1.1%であった。

図表 3-4 学部の進学理由（上位 5 項目）



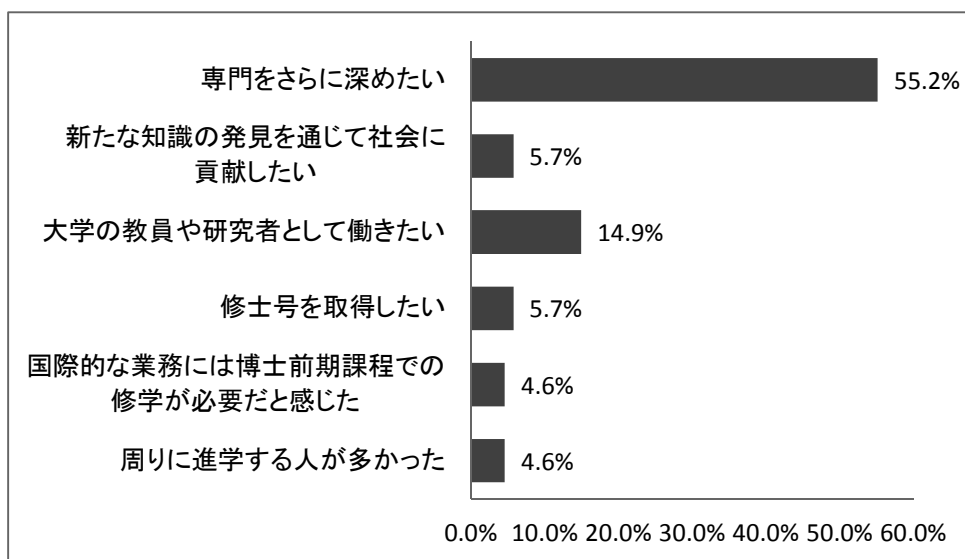
上位 5 項目以外の項目は省略した

図表 3-5 修士課程の進学理由（上位 5 項目）



上位 5 項目以外の項目は省略した

図表 3-6 博士課程の進学理由（上位 5 項目）



上位 5 項目以外の項目は省略した

## 2) 修士課程の進学で懸念される点

ここまで、理工系女子学生は修士課程への進学を肯定的に捉えていることを明らかにしてきたが、否定的な側面はなかったのだろうか。「博士前期（修士）課程への進学を検討した際に、懸念された事項」（1 番目、2 番目）についての質問では、「経済的状况」、「自身の能力や資質」、「就職状況」が上位 3 項目を占めた。

図表 3-7 懸念される事項（1 番目）

1 番目	
経済的状况	33.7%
自身の能力や資質	32.6%
就職状況	16.8%

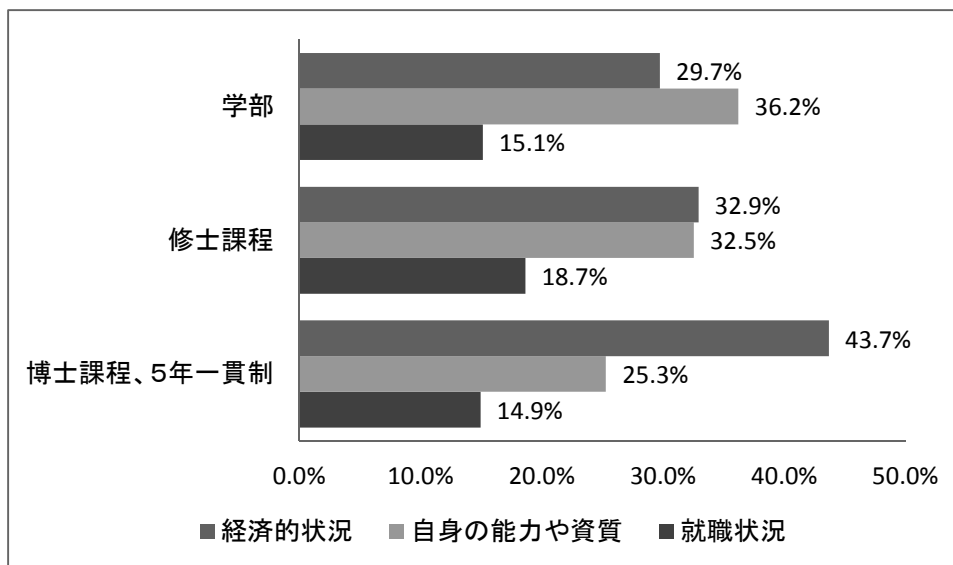
図表 3-8 懸念される事項（2 番目）

2 番目	
自身の能力や資質	25.7%
就職状況	20.0%
経済的状况	17.1%

「経済的状况」と「就職状況」は、修士課程への進学を後押しするうえで見逃せない項目である。進学を希望し、進学する能力がありながら、経済的事情や就職の難しさゆえに、進学を断念せざるをえない状況があると推察される。

次に、懸念事項を課程別にみてみよう。注目すべき点は、課程があがるにつれて、「経済的状况」の項目が大きな問題となっていることである。特に、博士課程の学生は 43.7% となっており、学生生活が長期化することで経済的状况が懸念事項として大きな割合を占めていくことが読み取れる。

図表 3-9 修士課程進学懸念事項（課程別）



上位3項目以外は省略した

以上のように、修士課程の進学は、「経済的状況」という不安材料はあるものの、学部生の8割が進学を望んでいた。

### 3) 大学院選択で重視した点

修士課程に進学した学生は、大学院選択において何を重視したのだろうか。この質問では、大学院の選択で重視した項目を選択肢のなかから1位～3位までをたずねている。以下に、1位から3位の上位3項目を図表にした。

図表 3-10 修士課程の選択で重視したこと（1位）

1位	人数	%
現在、所属している機関(大学、大学院)と同じ	173	50.9%
研究したい分野があること	82	24.1%
指導してもらいたい教員がいること	31	9.1%

図表 3-11 修士課程の選択で重視したこと（2位）

2位	人数	%
研究したい分野があること	100	29.4%
指導してもらいたい教員がいること	60	17.6%
国立であること	45	13.2%

図表 3-12 修士課程の選択で重視したこと（3位）

3位	人数	%
指導してもらいたい教員がいること	58	17.1%
国立であること	52	15.3%
研究したい分野があること	49	14.4%

修士課程の選択（1位）で重視したことは、「現在、所属している機関と同じ」（50.9%）が最も多く、同じ大学内で進学することが重視されていた。続いて、「研究したい分野があること」（24.1%）、「指導してもらいたい教員がいること」（9.1%）が選択された。また、2位と3位の上位項目では、「国立であること」、「学費が安い」が上位に取り上げられた。前述した「修士課程の進学で懸念される事項」にもあったように、経済的状況の厳しさをふまえた選択がなされていた。

#### 4) 修士課程における学生の評価

学生は、修士課程の進学をどう評価しているのだろうか。まず、修士課程に進学して良かった点1位から3位までの上位3項目を取り上げ、図表にした（図表3-13、3-14、3-15）。ただし、無回答については除いた。

修士課程に進学して良かった点は、「専門的知識・能力を身につけた」が41.2%（1位）と多かった。その他、「論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた」、「研究・学問的満足感を得た」、「学位を取得した」を選んだ人が多かった。

図表 3-13 修士課程、良かった点（1位）

1位	人数	%
専門的知識・能力を身につけた	140	41.2%
論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた	70	20.6%
研究・学問的満足感を得た	28	8.2%

図表 3-14 修士課程、良かった点（2位）

2位	人数	%
論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた	77	22.6%
専門的知識・能力を身につけた	58	17.1%
研究・学問的満足感を得た	42	12.4%

図表 3-15 修士課程、良かった点（3位）

3位	人数	%
論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた	49	14.4%
学位を取得した	46	13.5%
専門的知識・能力を身につけた	45	13.2%



修士課程の不満点は、「自分自身の問題や反省点が多かった」が最も多く、学生は自身に問題があったと解釈していた。続いて、「外部との接点が少なく閉鎖的であった」、「経済的支援の内容が不十分であった」、「就職に関するサポートが不十分だった」が多かった。前述した進学への懸念事項でも取り上げてきたように、経済的状況や就職の難しさは、大学院進学を躊躇させる要因となっているため、それらの充実した支援が必要となる。

図表 3-16 修士課程、不満点（1位）

1位	人数	%
自分自身の問題や反省点が多かった	115	33.8%
外部との接点が少なく閉鎖的であった	64	18.8%
経済的支援の内容が不十分だった	40	11.8%

図表 3-17 修士課程、不満点（2位）

2位	人数	%
自分自身の問題や反省点が多かった	68	20.0%
外部との接点が少なく閉鎖的であった	54	15.9%
経済的支援の内容が不十分だった	36	10.6%

図表 3-18 修士課程、不満点（3位）

3位	人数	%
自分自身の問題や反省点が多かった	51	15.0%
外部との接点が少なく閉鎖的であった	40	11.8%
就職に関するサポートが不十分だった	35	10.3%

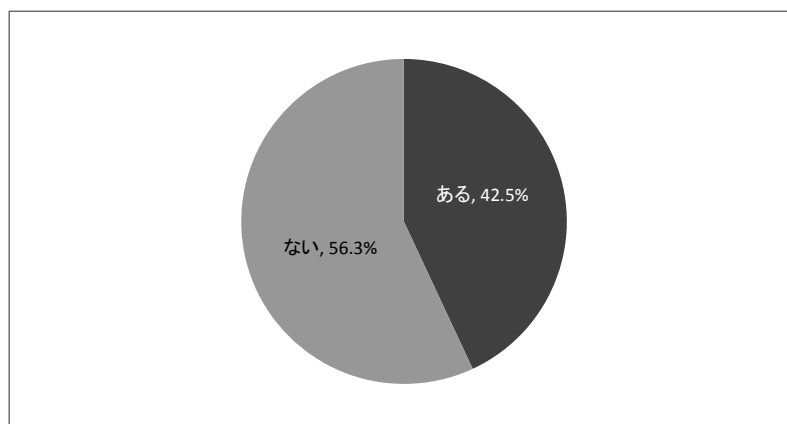
## 2. 博士課程の進学

### 1) 進学希望と理由

多くの学部生は修士課程への進学を望んでいたが、博士課程への進学はどうであろうか。

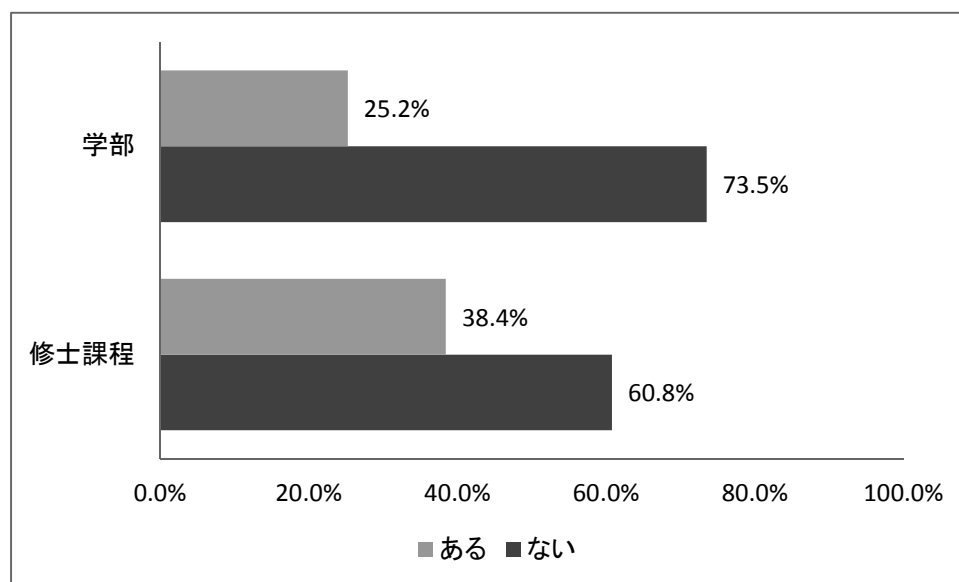
半数以上の学生は、博士課程への進学を考えていなかった。課程別にみると、博士課程への進学を考えていたのは、学部 25.2%、修士課程 38.4%であった。

図表 3-19 博士課程への進学希望



無回答の割合はグラフから省略した

図表 3-20 博士課程への進学希望（課程別）



無回答の割合はグラフから省略した

博士課程への進学を考えた理由は、「専門をさらに深めたい」(46.5%)が最も多く、続いて、「大学の教員や研究者として働きたい」、「新たな知識の発見を通じて社会に後継したい」、「博士号を取りたい」が上位項目としてあげられた。博士課程に進学し、専門性を深め、研究職に就きたいと考える学生が一定数いることが明らかになった。

図表 3-21 博士課程への進学希望理由（上位 5 項目）

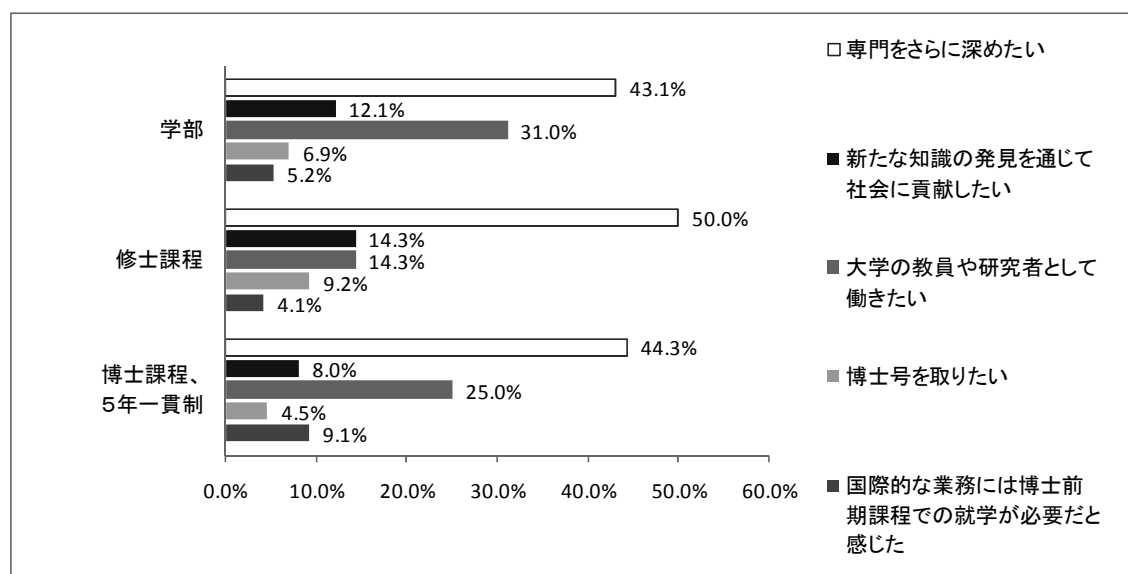
1 番目	
専門をさらに深めたい	46.5%
大学の教員や研究者として働きたい	22.0%
新たな知識の発見を通じて社会に貢献したい	11.4%
博士号を取りたい	6.9%
国際的な業務には博士前期課程での就学が必要だと感じ	6.1%

図表 3-22 博士課程への進学希望理由（上位 5 項目）

2 番目	
専門をさらに深めたい	25.3%
大学の教員や研究者として働きたい	21.2%
博士号を取りたい	18.8%
新たな知識の発見を通じて社会に貢献したい	14.3%
国際的な業務には博士前期課程での就学が必要だと感じ	9.4%

図表 3-23 では、課程別に進学を考えた理由（上位 5 項目）を分析したが、大きな変化はみられなかった。ただし、「大学の教員や研究者として働きたい」の項目では、学部や博士課程（学部 31.0%、博士課程・5 年一貫制 25.0%）に比べて、修士課程の学生は 14.3%と少なかった。

図表 3-23 課程別、博士課程への進学希望理由（上位 5 項目）



上位 5 項目以外の項目はグラフから省略した

## 2) 博士課程の進学で懸念される点

本調査では、博士課程の進学で懸念される事項（1 番目、2 番目）をたずねている。博士課程への進学で懸念された事項は、「経済的状況」、「就職状況」、「自身の能力や資質」が多かった。修士課程時の懸念事項と比べると、「就職状況」の割合が増加してい

た。図表 3-26 では、懸念事項（1 番目）を課程別に分析したが、大きな差はみられなかった。

博士課程の学生の就職は、近年、注目されている高学歴ワーキングプアやポストドク問題でも指摘されているように、極めて厳しい状況にある。多くの若手研究者が博士課程を修了した後も、任期付や非常勤の教員・研究者としての雇用しかなく、不安定な生活を余儀なくされている。これらの問題は、とりわけ人文系のポストドクターに焦点が当てられてきたが、理工系分野においても同様であった。高度な専門性を有しながら、不安定な雇用にさらされ続けることへの不安は、大学院進学を躊躇させる大きな要因となる。現状のように、博士課程修了後のキャリアパスが不透明なままであれば、博士課程の進学者はますます少なくなるだろうし、研究者をめざす道はますます敬遠されていくことになるだろう。

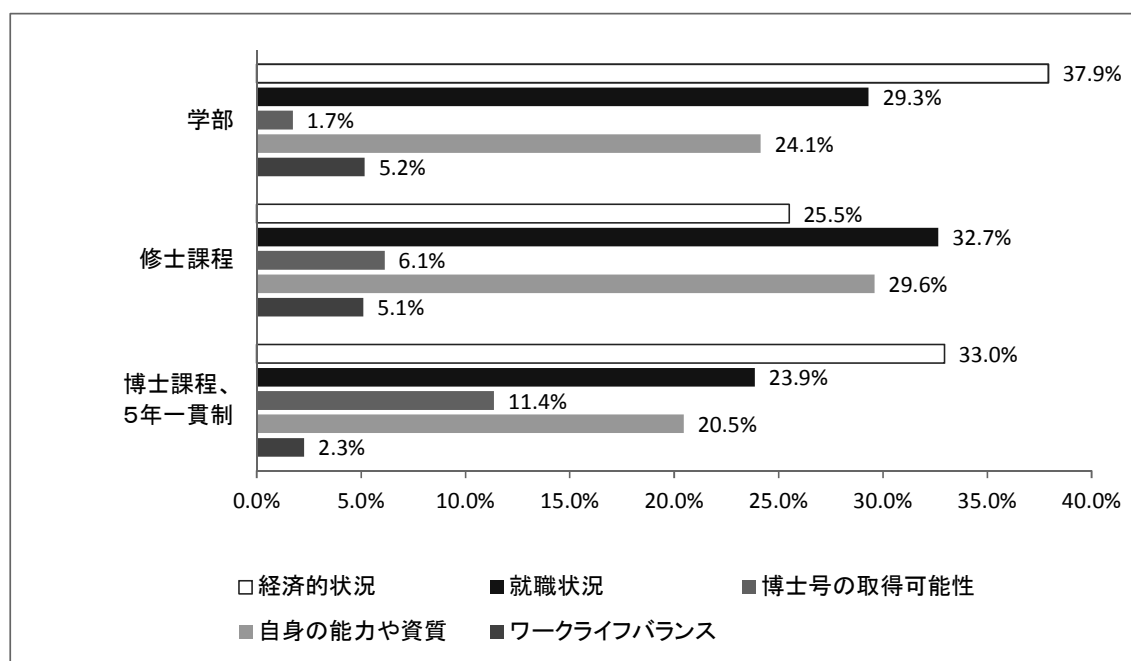
図表 3-24 懸念事項（1 番目）

1 番目	
経済的状況	31.4%
就職状況	28.6%
自身の能力や資質	24.9%
博士号の取得可能性	6.9%
ワークライフバランス	4.1%

図表 3-25 懸念事項（2 番目）

2 番目	
就職状況	26.5%
経済的状況	25.7%
自身の能力や資質	18.0%
博士号の取得可能性	9.0%
ワークライフバランス	6.1%

図表 3-26 課程別、博士課程の懸念事項（上位 5 項目）



上位 5 項目以外の項目はグラフから省略した

さらに、博士課程への進学は、学生の能力はもちろんのことであるが、研究を継続し続ける努力や熱意に加えて、研究費や生活費も必要になる。安定した「経済状況」がなければ、研究を継続させることは著しく困難になる。そのため、学生は、博士課程の厳しい「経済的状況」や「就職状況」を予測し、進学ではなく、就職を考える傾向にあった。この点について、より詳しく聞いたのが「博士後期(博士)課程への進学ではなく、就職することを考える理由」(1番目、2番目)についてたずねた質問である。

進学ではなく就職を選んだ理由は、「早くお金を稼ぎたい」(31.0%)が最も多く、続いて「研究を続ける能力や資質がない」が25.6%であった。特に注目すべき点は、学生が「博士後期(博士)課程に進学しないほうが就職に有利」(15.2%)だと感じている点である。進学の懸念事項として「就職状況」が上位に取りあげられていたが、ここでも学生は進学するとかえって就職が難しくなると認識していた。また、「早くお金を稼ぎたい」が最も多いことからわかるように、就職を選ぶ理由として、経済的要因が重視されていた。図表3-29では、課程別に就職理由(1番目)を分析したが、大きな差はみられなかった。

図表3-27 就職理由(上位5項目)

1番目	
早くお金を稼ぎたい	31.0%
研究を続ける能力や資質がない	25.6%
博士後期(博士)課程に進学しないほうが就職に有利	15.2%
企業・機関で研究を続けたい	10.2%
婚期が遅れそう	5.4%

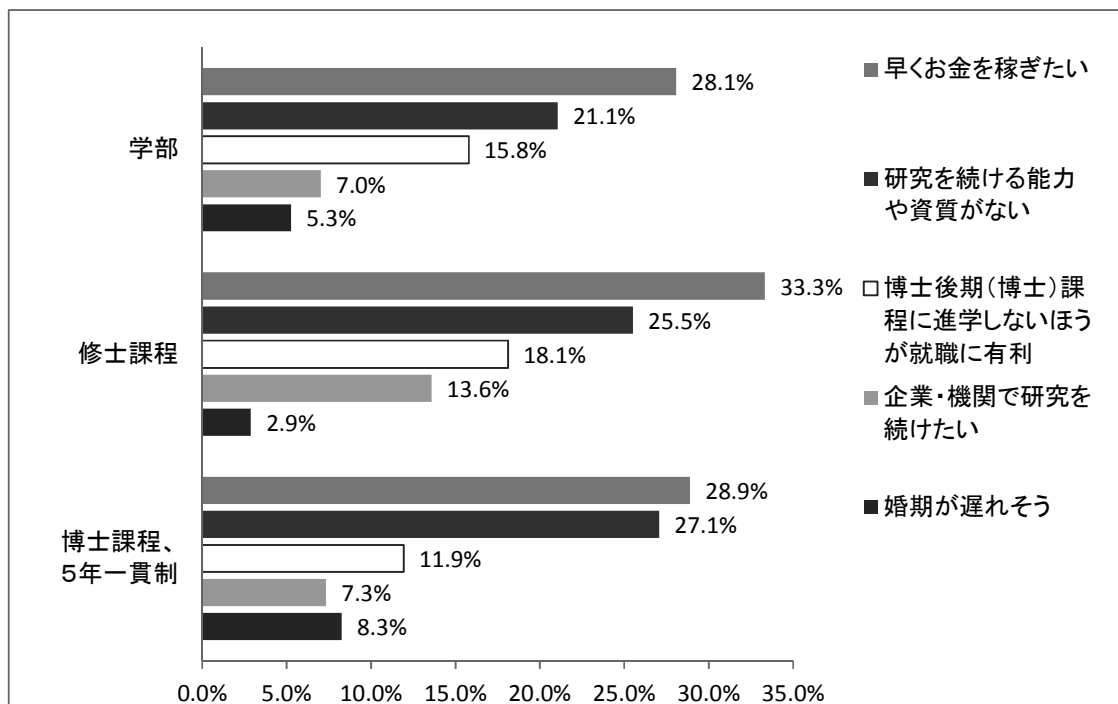
博士課程への進学を考えた者、無回答、上位5項目以外の割合は省略した

図表3-28 就職理由(上位5項目)

2番目	
研究を続ける能力や資質がない	21.9%
早くお金を稼ぎたい	19.4%
博士後期(博士)課程に進学しないほうが就職に有利	14.1%
婚期が遅れそう	12.8%
企業・機関で研究を続けたい	6.3%

博士課程への進学を考えた者、無回答、上位5項目以外の割合は省略した

図表 3-29 課程別、就職理由（上位 5 項目）



博士課程への進学を考えた者、無回答、上位 5 項目以外は表から除いた

### 3) 大学院選択で重視した点

では、博士課程に進学した学生は、何を重視して大学院を選択したのだろうか。この質問では、大学院選択で重視したこと 1 位から 3 位までをたずねている。以下に、1 位から 3 位の上位 3 項目を表にした。

1 位では「現在、所属している機関（大学、大学院）と同じ」（34.4%）が最も多く、同じ大学内で進学することが重視されていた。続いて、「研究したい分野があること」、「指導してもらいたい教員がいること」が上位になった。また、2 位や 3 位では、「学費が安い」、「国立であること」が上位項目にあり、学生は経済的状況をふまえて大学院を選択しているようであった。

図表 3-30 博士課程の選択で重視したこと（1 位）

1 位	人数	%
現在、所属している機関(大学、大学院)と同じ	31	34.4%
研究したい分野があること	27	30.0%
指導してもらいたい教員がいること	19	21.1%

図表 3-31 博士課程の選択で重視したこと（2 位）

2 位	人数	%
研究したい分野があること	27	30.0%
指導してもらいたい教員がいること	26	28.9%
現在、所属している機関(大学、大学院)と同じ	8	8.9%
学費が安い	8	8.9%

図表 3-32 博士課程の選択で重視したこと（3位）

3位	人数	%
国立であること	16	17.8%
指導してもらいたい教員がいること	16	17.8%
研究したい分野があること	13	14.4%

#### 4) 博士課程における学生の評価

博士課程に進学して良かった点1位は、「専門的知識・能力を身につけた」が44.4%と最も多く、「論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた」、「研究・学問的満足感を得た」の選択も多かった。これらの項目は、修士課程の評価でも同様であった。

図表 3-33 博士課程、良かった点（1位）

1位	人数	%
専門的知識・能力を身につけた	40	44.4%
論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた	19	21.1%
研究・学問的満足感を得た	9	10.0%

図表 3-34 博士課程、良かった点（2位）

2位	人数	%
論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた	31	34.4%
専門的知識・能力を身につけた	16	17.8%
研究・学問的満足感を得た	9	10.0%

図表 3-35 博士課程、良かった点（3位）

3位	人数	%
知人や友人など人脈形成に役立った	15	16.7%
論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた	13	14.4%
専門だけでなく幅広い知識を身につけた	11	12.2%
研究・学問的満足感を得た	11	12.2%

博士課程の不満点は、「自分自身の問題や反省点が多かった」が最も多く、続いて「外部との接点が少なく閉鎖的であった」、「経済的支援の内容が不十分だった」も多く選択されていた。

ここでは、最も回答が多かった「自分自身の問題や反省点が多かった」が具体的に何を意味しているのかわからないが、この項目は慎重に理解しなければならない。理系のなかでも就職が困難な理論物理学のポスドクについて研究している岩崎によれば、彼らは、研究のための時間や努力を惜しまず、競争に勝ち抜いてきたにもかかわらず、常勤職に就くことが極めて困難で、不安定な職にしか就けないまま、高齢化していき、自尊感情や自己効力感を著しく下げ、研究意欲も失ってしまうという悪循環に陥る傾向にあ

る（岩崎 2015）。学生はこうした研究意欲の喪失を「自分自身の自身の問題や反省点」としてとらえている可能性がある。博士課程のキャリア問題は、決して個人の問題としてとらえるべきではない。問題の所在は、個人にあるというよりは、将来のキャリアパスが描けず、不安定な雇用を強いられ、まともに研究を継続することすらできないという社会にあるといえよう。

図表 3-36 博士課程、不満点（1位）

1位	人数	%
自分自身の問題や反省点が多かった	31	34.4%
外部との接点が少なく閉鎖的であった	15	16.7%
経済的支援の内容が不十分だった	10	11.1%

図表 3-37 博士課程、不満点（2位）

2位	人数	%
自分自身の問題や反省点が多かった	19	21.1%
外部との接点が少なく閉鎖的であった	11	12.2%
就職に関するサポートが不十分だった	8	8.9%
経済的支援の内容が不十分だった	8	8.9%

図表 3-38 博士課程、不満点（3位）

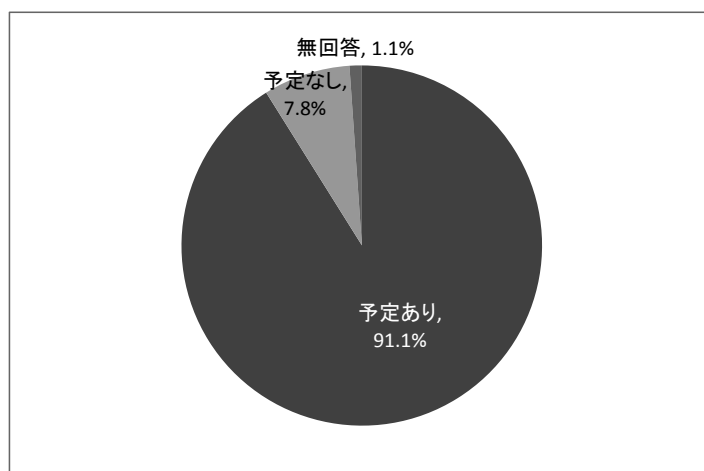
3位	人数	%
自分自身の問題や反省点が多かった	13	14.4%
進学時の期待が満足されなかった	9	10.0%
指導教員やその他関係する教員の指導が不十分だった	8	8.9%

## 5) 博士号の取得

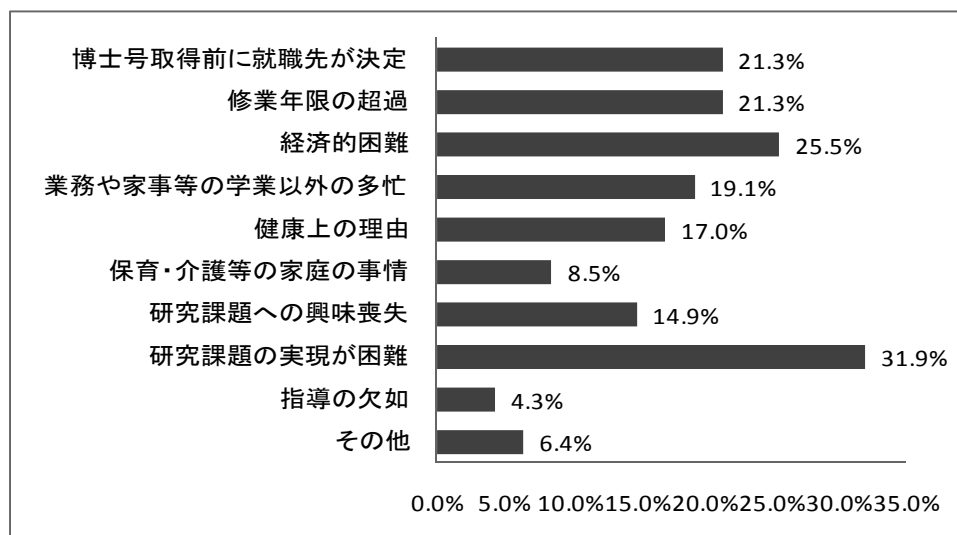
博士課程の学生の9割以上が、博士号を取得する予定であると回答した。ただし、「研究課題の実現が困難」、「経済的困難」、「博士号取得前に就職が決定」、「就業年限の超過」などの場合は、博士号を取得しないまま満期退学等で修了することがあると回答した。



図表 3-39 博士号の取得予定（博士課程の学生）



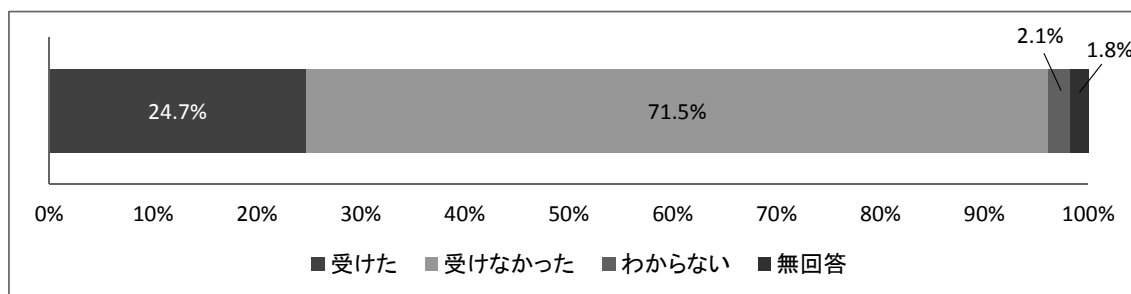
図表 3-40 博士号を取得せずに修了する理由（多重解答）



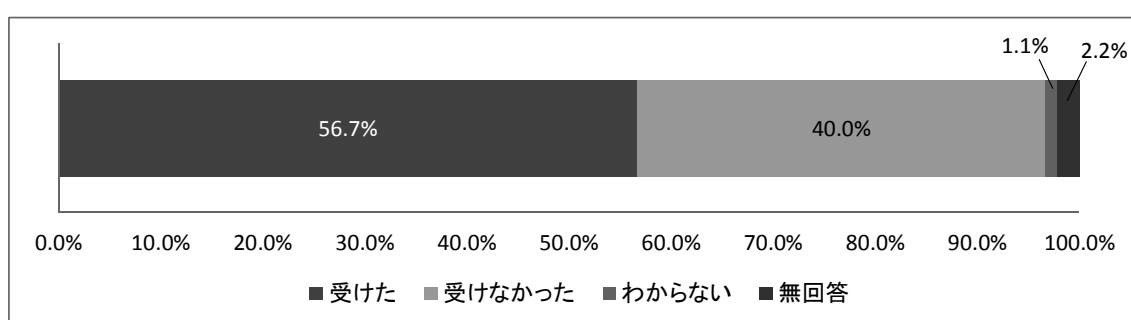
### 3. 学費の免除

大学院で学費の免除を受けた学生は、修士課程時では 24.7%であったのに対して、博士課程時では 56.7%と増加していた。課程があがるにつれて、経済的状況が厳しくなっていくことがうかがえる。

図表 3-41 修士課程時の学費免除



図表 3-42 博士課程時の学費免除



修士課程の学生が最も利用した資金種別は、「家族の援助」(51.5%)であった。残りの4割は奨学金を利用していた。加えて、アルバイトやTA(ティーチングアシスタント)で収入を得ていた。修士課程に進学する学生は、家族からの援助を受ける傾向にあり、比較的、経済的に安定した家庭環境にあると推察できる。

図表 3-43 修士課程で利用した資金種別(1位)

1位	人数	%
家族の援助	175	51.5%
奨学金(返済義務有)	113	33.2%
奨学金(返済義務無)	19	5.6%

図表 3-44 修士課程で利用した資金種別(2位)

2位	人数	%
課程中の上記以外の所得	68	20.0%
TA	60	17.6%
家族の援助	52	15.3%

図表 3-45 修士課程で利用した資金種別（3位）

3位	人数	%
TA	101	29.7%
課程中の上記以外の所得	68	20.0%
家族の援助	39	11.5%

博士課程の学生も家族からの援助を受けているが、「日本学術振興会」からの支援を受ける学生が増えていた。また、博士課程の学生はTAやRA（リサーチアシスタント）、アルバイトで得た収入など複数の資金を利用して、経済状況をカバーしていた。

図表 3-46 博士課程で利用した資金種別（1位）

1位	人数	%
家族の援助	19	21.1%
日本学術振興会からの支援	19	21.1%
奨学金（返済義務有）	19	21.1%
奨学金（返済義務無）	10	11.1%

図表 3-47 博士課程で利用した資金種別（2位）

2位	人数	%
TA	16	17.8%
RA	13	14.4%
あなた自身の個人資金	10	11.1%

図表 3-48 博士課程で利用した資金種別（3位）

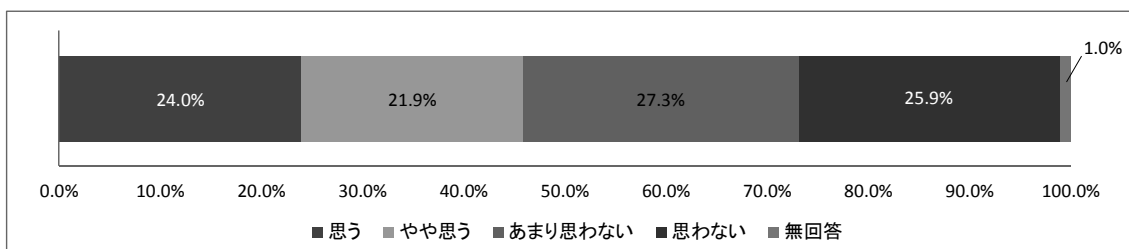
3位	人数	%
RA	14	15.6%
家族の援助	13	14.4%
TA	10	11.1%

文部科学省科学技術政策研究所の調査によれば、大学院に在籍するために最も多くの金額を利用した資金種別は自己資金が5割と多かった。自己資金とは、家族の援助、自身の個人資金、奨学金、借入金を含んでいる（文部科学省科学技術政策研究所 2012）。この傾向は、本調査でも確認できた。

#### 4. 博士号の取得

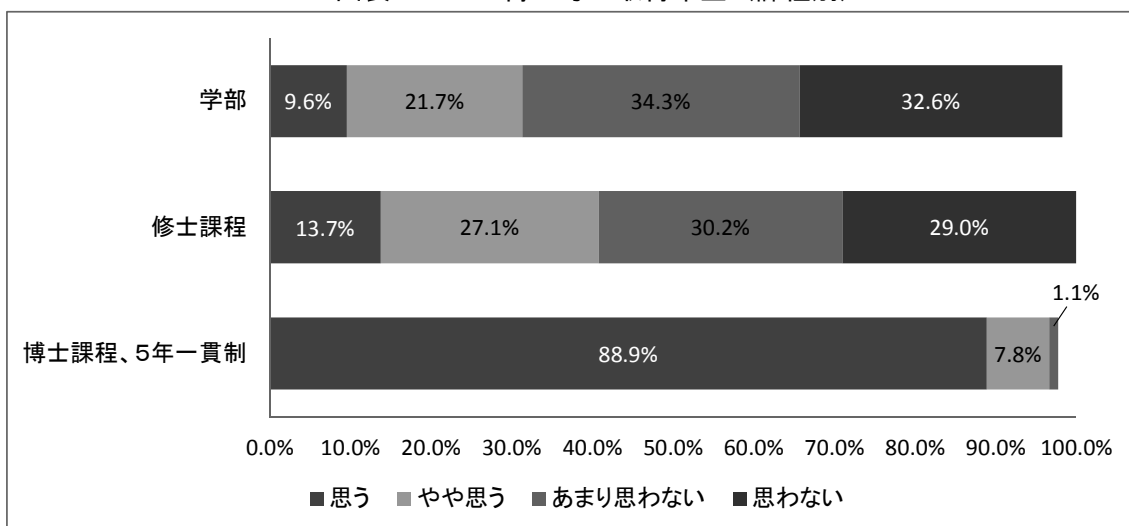
「博士号を取得したいと思いますか」の質問では、「思う」「やや思う」が45.9%、「あまり思わない」、「思わない」が53.2%であった。博士号の取得を希望しない学生の方がやや多い結果となった。

図表 3-49 博士号の取得希望



課程別にみると、学部（66.9%）、修士課程（59.2%）の学生が、博士号の取得を考えていなかった。一方で、博士課程の学生の約9割は博士号を取得したいと考えていた。

図表 3-50 博士号の取得希望（課程別）



無回答の割合はグラフから省略した

以上のように、博士課程への進学は、「経済的状況」や「就職状況」に対する不安が大きく、約6割の学生は進学ではなく、就職を考えていた。ただし、4割強の学生が博士号を取得したいと考えており、「経済的状況」や「就職状況」の問題をいかに解消していくかが課題となる。

## 5. まとめ

理工系女子学生にとって、修士課程への進学は、「経済的状況」、「自身の能力や資質」面において不安があるものの、専門的知識を深めるために望ましいこととして受けとめられていた。実際、進学を希望する学生は多かった。

一方で、博士課程への進学を希望する者は極めて少なかった。在学期間が長期化することによる「経済的状況」の悪化や博士課程の就職難が懸念事項としてあげられた。修士課程修了後、就職を希望する学生のなかには、「博士後期（博士）課程に進学しないほうが就職に有利だと思う」と答える者もあり、経済的状況や就職状況は博士課程の進

学を躊躇させる大きな要因となっていた。

大学院選択では、同じ大学・大学院であることが重視されており、それは修士課程において顕著であった。加えて、「研究したい分野があること」、「指導してもらいたい教員がいること」が重視されていた。

大学院の評価については、多くの学生が修士・博士課程に進学したことで、専門的知識や能力を身につけ、論理的思考力、問題解決能力などを習得できたと肯定的に捉える一方で、「自分自身の問題や反省点が多かった」と答えており、不満点を自身の問題として理解していた。今後、こうした個人的な問題を誰がどのようにサポートしていくかを考えていかなければならない。その他、外部との接点が少なく閉鎖的であることや経済的支援や就職のサポートが不十分であることが指摘されており、今後の課題として認識しておく必要があるだろう。

経済面においては、修士課程の学生が授業料免除をあまり受けていないため、修士課程の学生を対象にした授業料免除制度がもう少しあってもいいかもしれない。その他、学生は奨学金や TA や RA などの収入を利用しているが、最も多いのが家族の援助であった。学生の経済状況は、それぞれ異なるため、家族の援助以外の利用可能な資金を充実させていく必要がある。

#### <参考文献>

岩崎久美子 2015, 「理論物理学ポストドクターのキャリア形成の特徴と人材活用の方  
向性」『日本労働研究雑誌』 660, pp.41-50.

文部科学省・科学技術政策研究所（第1調査研究グループ） 2012, 「我が国の博士課  
程修了者の大学院における修学と経済状況に関する調査研究」 pp.1-122.

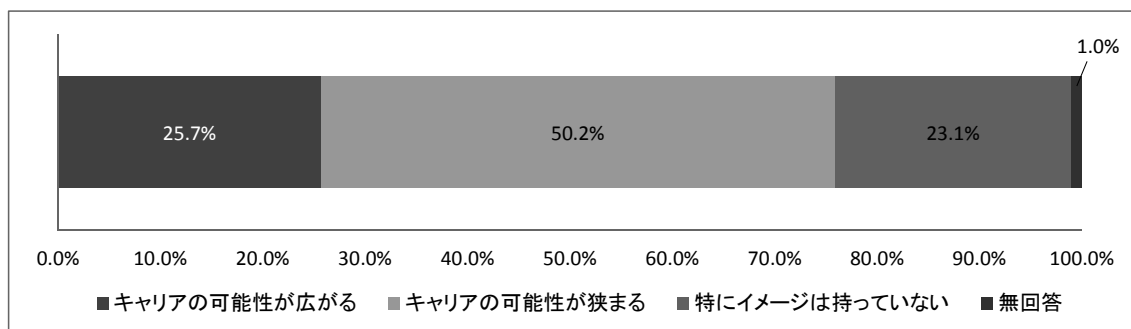
<http://www.nistep.go.jp/achiev/ftx/jpn/mat206j/pdf/mat206j.pdf> [2015.6.30.取得]

## 4 博士号のキャリアと進路選択

### 1. 博士号のキャリアイメージ

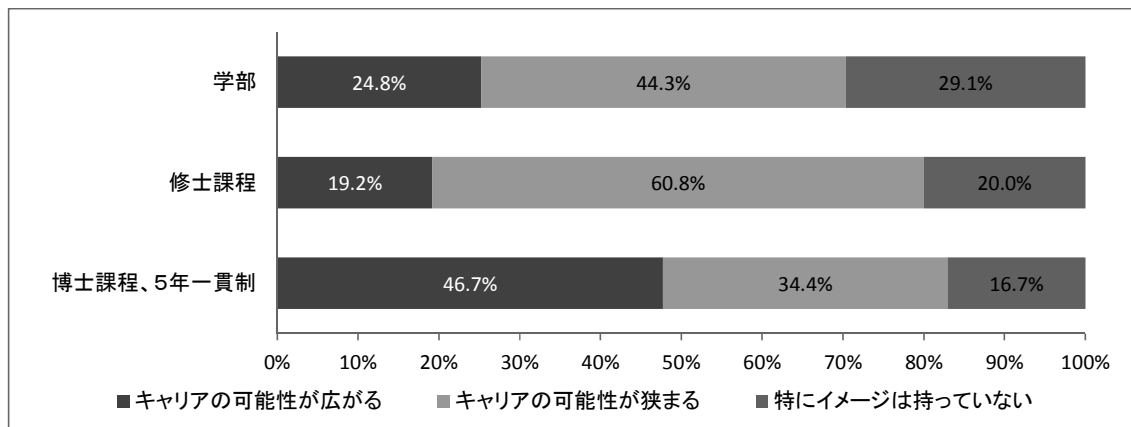
理工系女子学生は、博士号のキャリア（進路）をどのようなものとして理解しているのだろうか。図表4-1によると、博士号のキャリアイメージは、決して良いものではなかった。「キャリアの可能性が広がる」と評価した学生は約3割しかおらず、約半数の学生が「キャリアの可能性が狭まる」と答えていた。前章でも紹介したように、学生は博士課程への進学の際に懸念されることとして、「就職状況」をあげており、博士号取得後であっても進路は厳しくなると解釈していた。このように、学生は博士号のキャリア展望を否定的にとらえる傾向にあった。

図表4-1 博士号のキャリアイメージ



課程別では、とりわけ修士課程の学生の6割が「キャリアの可能性が狭まる」と答えており、博士号のキャリアに対して厳しいイメージを抱いている。一方で、博士課程の学生の約半数は、「キャリアの可能性が広がる」と評価しており、博士号のキャリアイメージを比較的肯定的にうけとめていた。

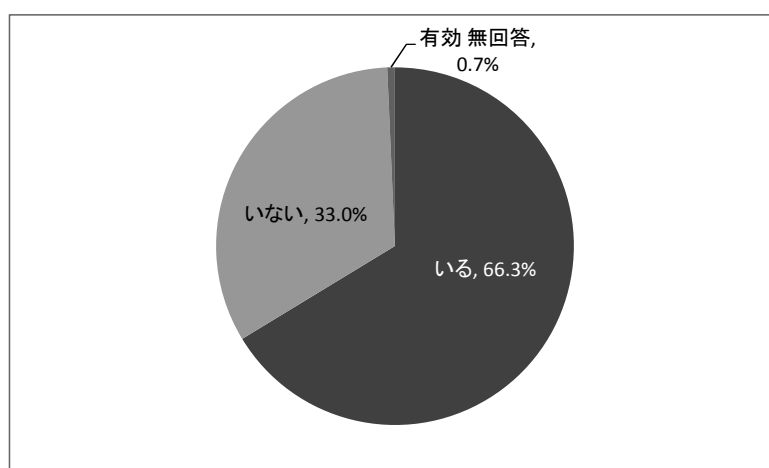
図表4-2 博士号のキャリアイメージ（課程別）



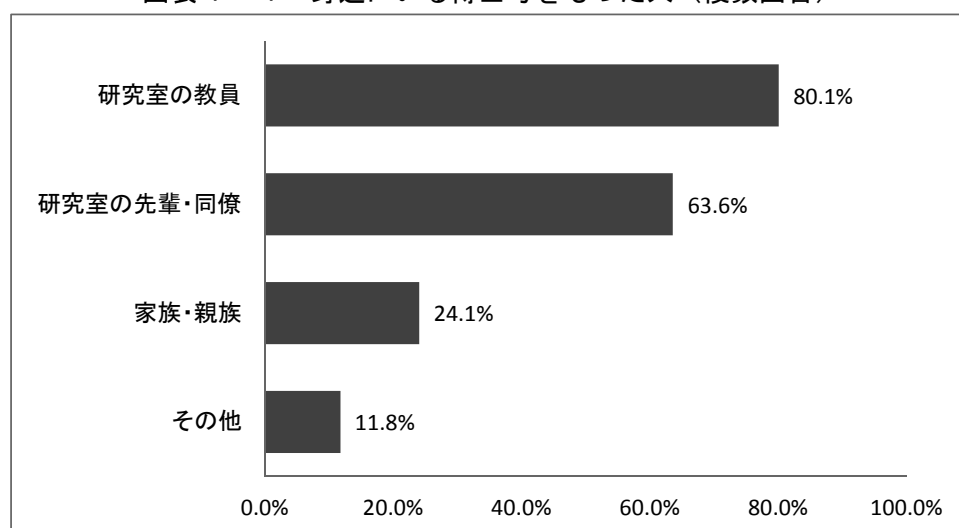
無回答はグラフから省略した

博士号のイメージが形成される背景には、身近にロールモデルがいるからであろう。「身近に博士号をもっている人はいますか」の質問では、約7割の学生が「身近にいる」と答えた。身近にいる博士号をもっている人とは、研究室の教員、研究室の先輩・同僚が多かった。「その他」の自由回答では、友人が多かった。

図表 4-3 身近に博士号をもっている人がいるか



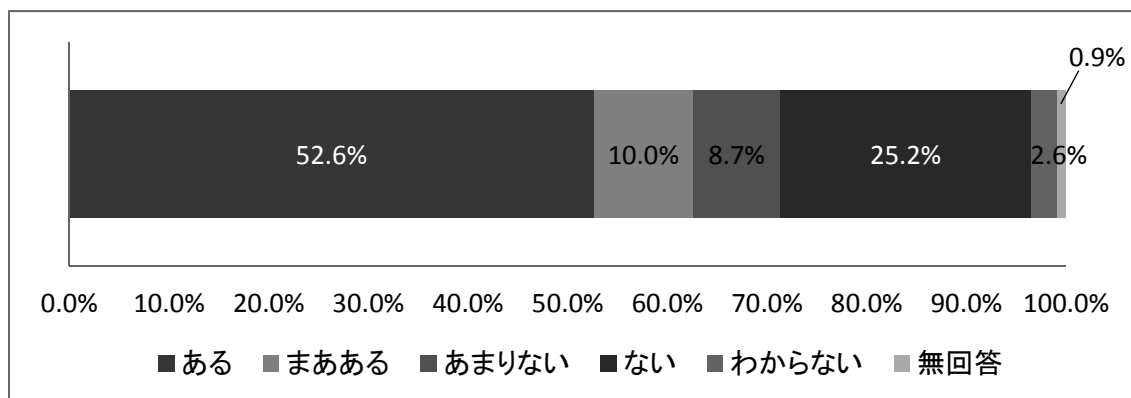
図表 4-4 身近にいる博士号をもった人（複数回答）



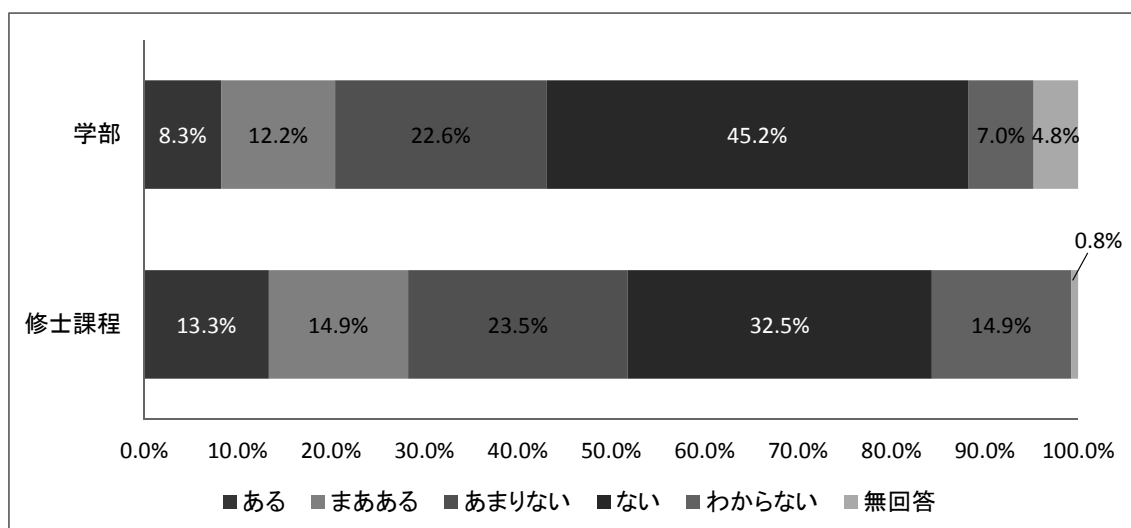
## 2. 修士・博士課程への進学可能性

学生が将来的に、大学院に進学する可能性はどの程度あるのだろうか。学部生の6割が将来的に修士課程に進学する可能性があるかと答えた。一方で、博士課程に進学する可能性がある学生は、学部生で2割、修士課程の学生で約3割と少なかった。このように、修士課程への進学可能性は、比較的高かったが、博士課程への進学可能性は極めて少なかった。

図表 4-5 修士課程への進学可能性（学部）



図表 4-6 博士課程への進学可能性（学部、修士課程）



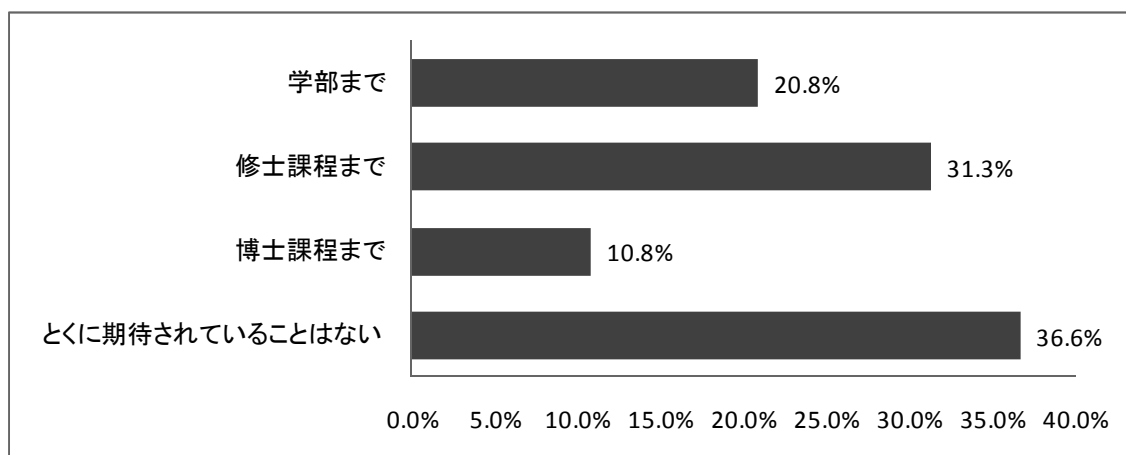
また、親が期待する教育段階は、「学部まで」20.8%、「修士課程まで」31.3%、「博士課程まで」10.8%であった。修士課程まで進学することを期待する親は多かったが、博士課程まで進学することを望む親は少なかった。

課程別にみると、学部、修士課程の学生の親3～4割は、修士課程までの進学を望んでいるが、博士課程までの進学を望む親は少なかった。ただし、博士課程の学生の親は、他の課程の親と異なり、一定数、博士課程までの進学を期待していた。

全体としては、「とくに期待されていることはない」を選んだ学生が36.6%おり、親の学歴期待が必ずしも高いとはいえない。とりわけ、博士課程の学生は「とくに期待されていることはない」（52.2%）を多く選んでいた。

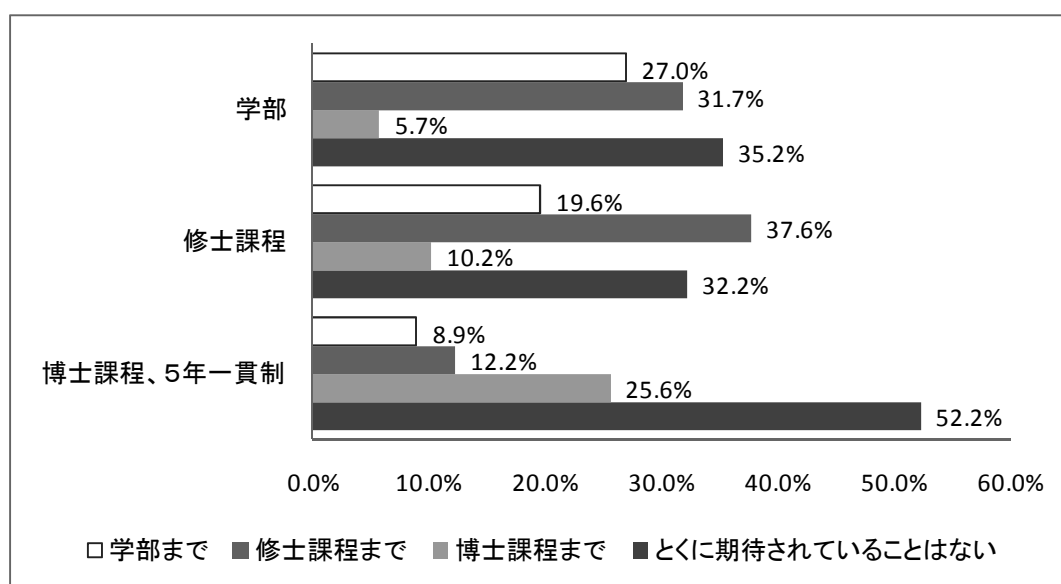


図表 4-7 親の期待



無回答の割合はグラフから省略した

図表 4-8 親の期待（課程別）



無回答の割合はグラフから省略した

### 3. 相談相手

進路選択の際に、誰のアドバイスを重視するのかについての質問では、「親などの保護者」が 34.4%と最も多く、続いて、「同じ大学の研究室の教員」、「同じ大学の研究室の先輩・同僚」が多かった。その他、「友だち」、「民間企業や公的研究機関に所属する方」も一定数いた。

図表 4-9 相談相手（上位 6 項目）

1位	
親などの保護者	34.4%
同じ大学の研究室の教員	16.7%
同じ大学の研究室の先輩・同僚	14.8%
友だち	6.3%
民間企業や公的研究機関に所属する方	5.2%
誰にも相談しない	5.2%

図表 4-10 相談相手（上位 5 項目）

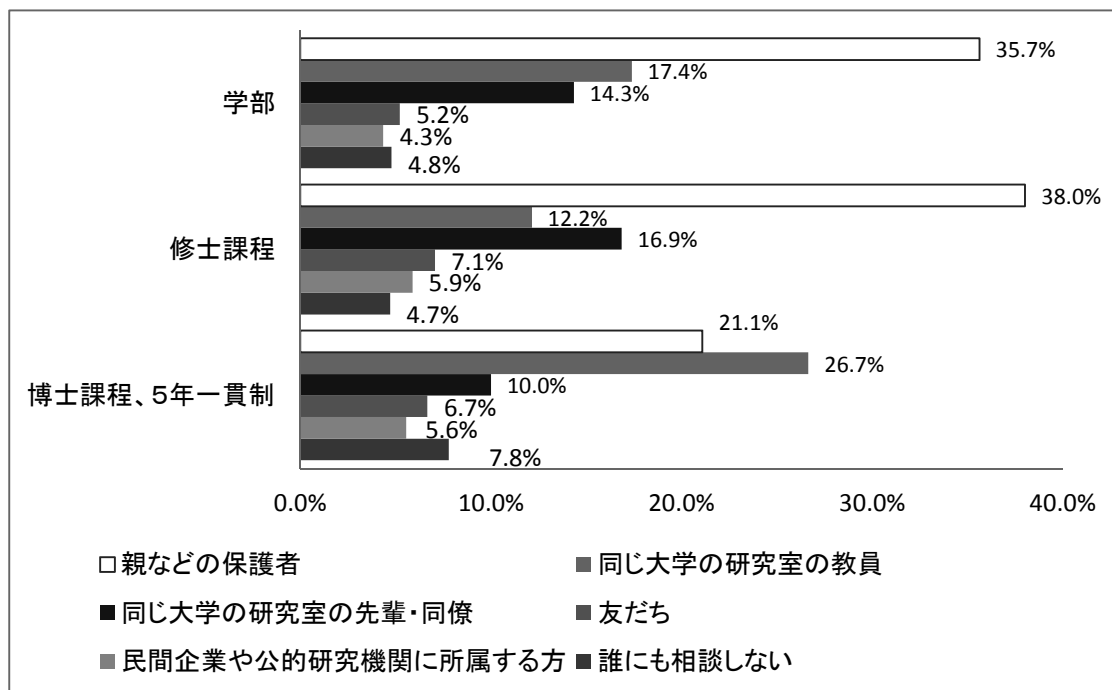
2位	
同じ大学の研究室の教員	19.3%
親などの保護者	16.1%
同じ大学の研究室の先輩・同僚	15.5%
友だち	13.2%
民間企業や公的研究機関に所属する方	6.3%

図表 4-11 相談相手（上位 5 項目）

3位	
親などの保護者	17.7%
友だち	16.8%
同じ大学の研究室の先輩・同僚	15.1%
同じ大学の研究室の教員	11.3%
配偶者・恋人	6.8%

課程別にみると、学士、修士課程の学生は、保護者のアドバイスを最も重視していたが、博士課程の学生は、同じ研究室の教員のアドバイスを最も重視していた。

図表 4-12 課程別、相談相手（1 位）



上位 6 項目以外の項目はグラフから省略した

## 4. 獲得したい能力

図表で塗りつぶされた項目は、1位～3位のすべてにおいて選ばれた項目である。これらの項目が質問紙でどのように説明されていたのかを紹介しておこう。学生は、とりわけ「発信力」、「創造力」、「主体性」を身につけたいと考えていた。

図表 4-13

獲得したい能力（1位）

1位	
発信力	16.7%
創造力	15.6%
主体性	12.8%
実行力	10.1%
働きかけ力	9.7%
課題発見力	9.7%

図表 4-14

獲得したい能力（2位）

2位	
発信力	16.1%
創造力	13.0%
働きかけ力	11.6%
計画力	10.9%
実行力	9.7%
課題発見力	9.7%

図表 4-15

獲得したい能力（3位）

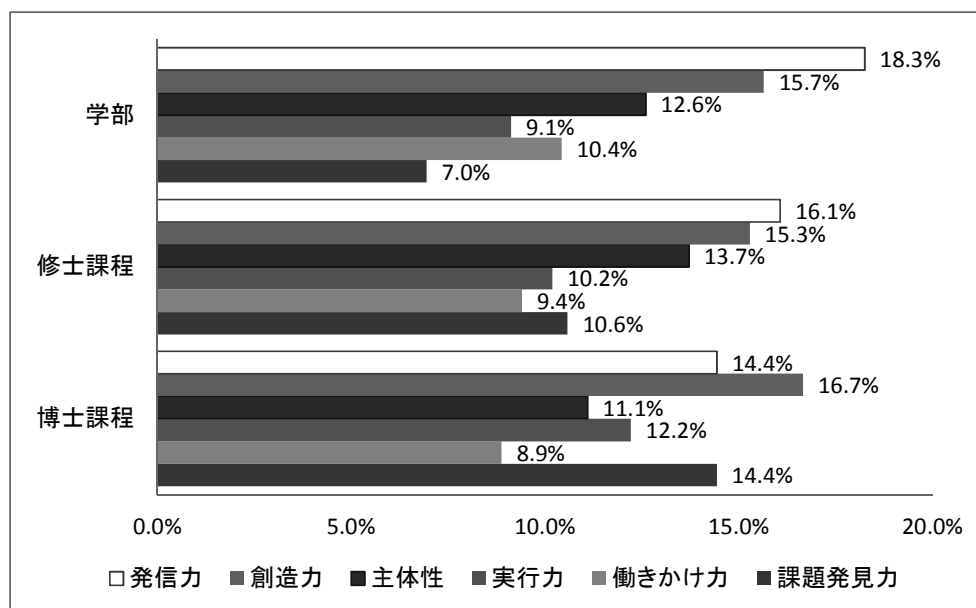
3位	
発信力	13.4%
働きかけ力	12.8%
ストレスコントロール力	11.1%
創造力	10.8%
主体性	10.8%
計画力	8.3%

<質問紙で示した各項目の内容>

- ・ 発信力・・・自分の意見をわかりやすく伝える力
- ・ 創造力・・・新しい価値を生み出す力
- ・ 主体性・・・物事に進んで取り組む力
- ・ 働きかけ力・・・他人にはたらきかけ巻き込む力

課程ごとに、獲得したい能力に大きな差はみられなかった。

図表 4-16 課程別、獲得したい能力（1位）



上位6項目以外の項目はグラフから省略した

## 5. まとめ

理工系女子学生が抱く博士号のキャリアイメージは、あまり良いものではなかった。前章で述べてきたように、博士号を取得しても安定した職になかなか就けず、経済面で厳しい状況が続くからであろう。学生はこうした博士課程の現状をある程度理解しているため、博士課程への進学可能性は少ないと答えていた。

親の学歴期待は「とくに期待されていることはない」（約4割）が最も多く、学部までが2割、修士課程までが3割、博士課程は1割であった。進学するか否かは学生本人の意思次第であるようだが、親の学歴期待の影響を多少なりとも受けていることがうかがえた。

進路の相談相手は、「親などの保護者」や「同じ研究室の教員」が多かった。

獲得したい能力は、「発信力」、「創造力」、「主体性」が多かった。



## 5 海外研修、留学、インターンシップ、キャリア支援

### 1. 社会的状況

#### 1) 海外研修、留学、インターンシップ

日本の科学技術政策の基本的な枠組みを提示した「科学技術基本法」が1995年に制定された。その翌年には「第一期科学技術基本計画」（平成8年度～12年度）、続いて「第二期科学技術基本計画」（平成13年度～17年度）、「第三期科学技術基本計画」（平成18年度～22年度）とわが国の科学技術の振興を推進していく体制を確立させる計画が打ち出されてきた。

「第四期科学技術基本計画」（平成23年～27年）では、優れた研究者を養成するために、安定したキャリアパス（テニユアトラック制の導入など）を確保しつつ、研究者が多様な研究環境で経験を積み、研究者としての視野を広げられるよう、研究者の流動性向上を重視している。

具体的には、優れた資質を持つ若手研究者や学生が海外で積極的に研鑽を積むことができるように、海外派遣や留学促進のための支援を充実させている。さらに、大学や公的研究機関は、若手研究者の採用の際に、海外での研究経験を適切に評価する人事システムを構築するよう求められている。本章では、海外派遣や留学を促進するための支援が整備されるなか、実際の海外活動（研修、留学、インターンシップ）がどのようなものなのか、また、学生はそれらをどのように評価しているのかを検討する。

類似した調査に、文部科学省科学技術政策研究所が行ったものがある（文部科学省科学技術政策研究所 2012）。この調査では、大学院在籍時の海外研究経験についての質問事項があるが、大学院生の約8割が海外で研究活動をしていない。海外で研究活動をしていない理由は、「必要が無い」（約3割）と回答した者が最も多く、「時間的余裕が無い」と回答した者が約2割であった。また、インターンシップの経験についても、約9割が経験をしていなかった（ただし、工学は8割）。インターンシップの経験回数は、経験ありの者のなかでは大半が1回のみで、1ヶ月以上のインターンシップを経験していた（約半数）。

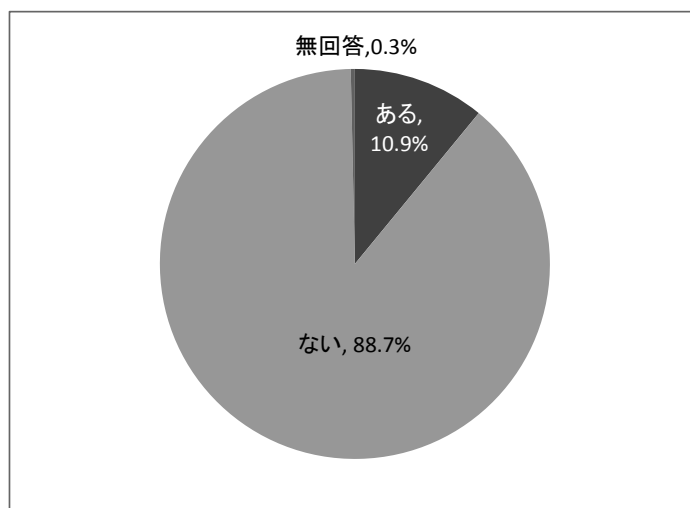
#### 2) キャリア支援

「第三期科学技術基本計画」では、女性研究者の活躍を促進するための支援を強化していくことが明記された。それ以降、日本の女性研究者の割合は徐々に増えつつあるが、他の諸外国と比べると依然として低い。本調査では、女性を対象としたキャリア支援の利用についてたずねており、それらを分析する。

## 2. 海外研修

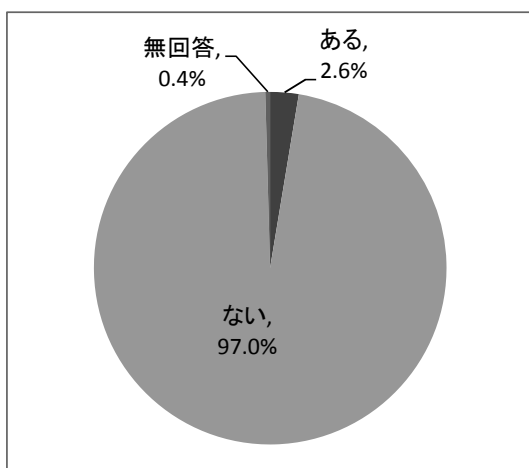
理工学系女子学生の海外研修の経験は、「ある」が10.9%と少なかった。

図表5-1 海外研修の経験

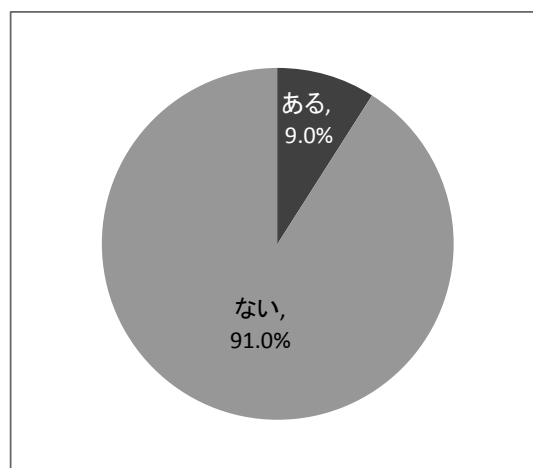


課程別では、学部生2.6%、修士課程の学生9.0%といずれも海外研修の経験は少なかった。博士課程の学生は、37.8%が海外研修を経験しており、比較的多かった。

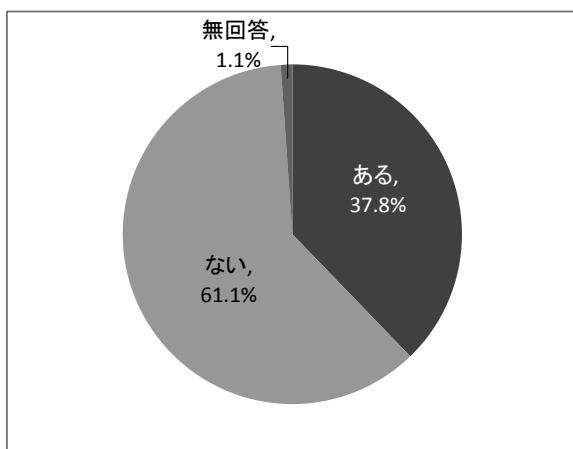
図表5-2 海外研修の経験  
(学部)



図表5-3 海外研修の経験  
(修士課程)

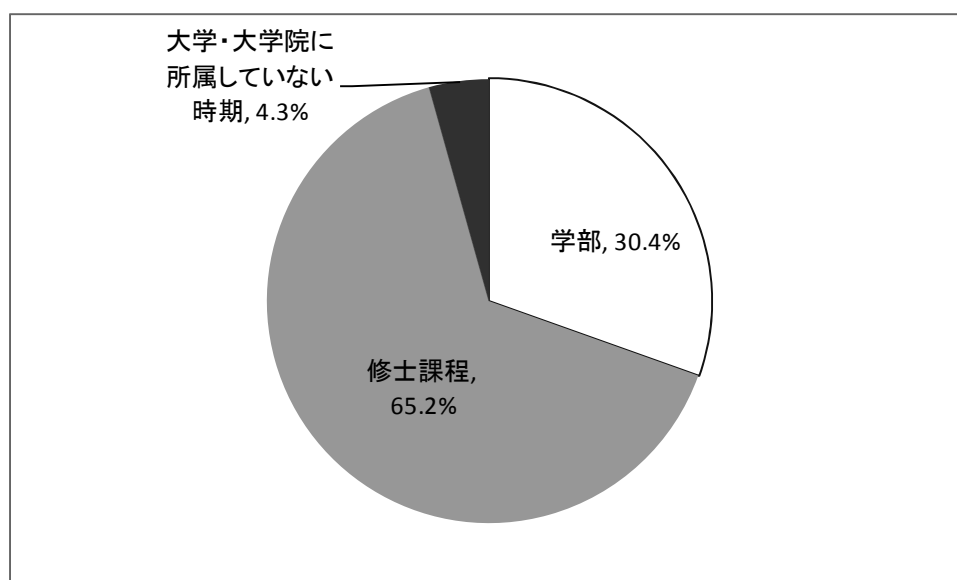


図表 5 - 4 海外研修の経験（博士課程、5年一貫制）



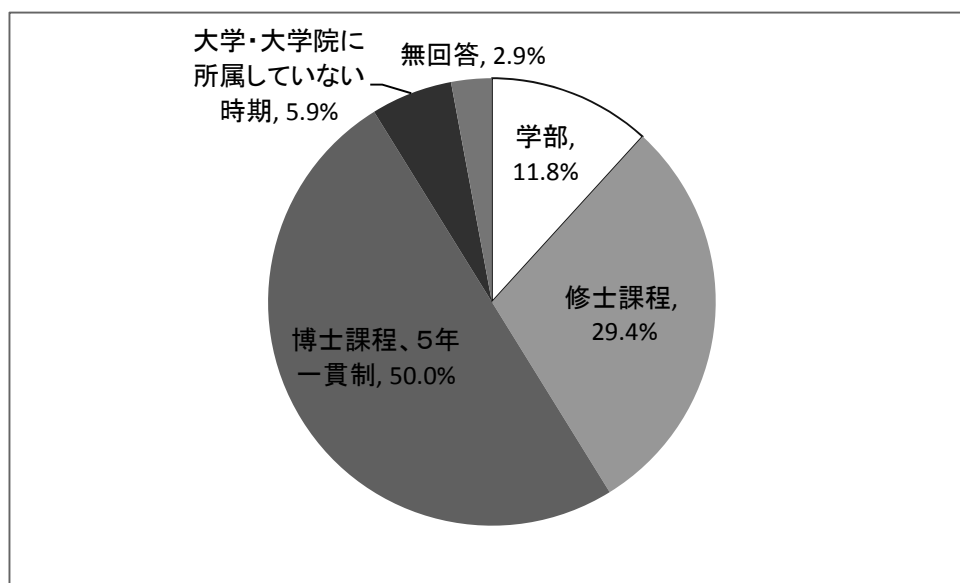
海外研修を経験した学生について詳しくみよう。すべての学部生が在学中に海外研修に行っていた。修士課程の学生の場合は、30.4%が学部、65.2%が修士課程の在学中に海外研修に行っていた。博士課程の学生は、11.8%が学部、29.4%が修士課程、50.0%が博士課程に在籍している時に海外研修に行っていた。このように、現在、在籍している課程の期間内に、海外研修に行くことが多かった。海外研修を複数経験している場合については詳細を把握できなかったが、現在、所属している課程の期間内に海外研修を行った場合の方が役立ったと評価している可能性が示唆できた。

図表 5 - 5 海外研修の時期（修士課程）



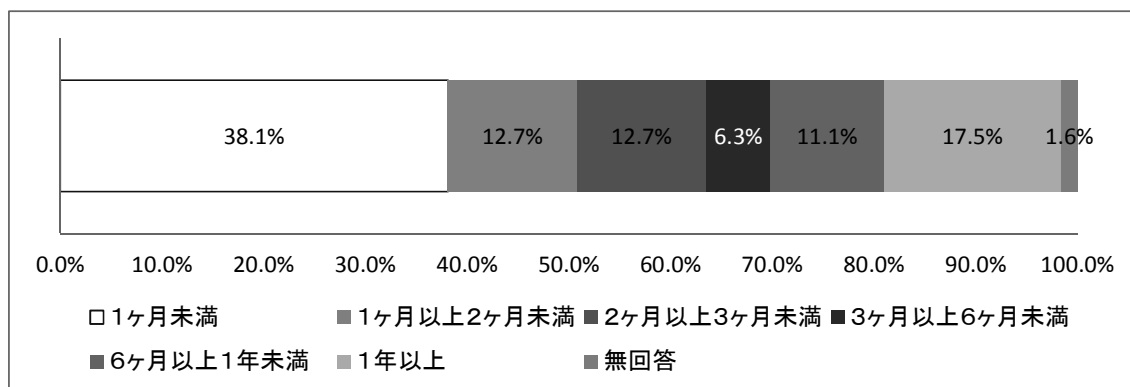


図表 5 - 6 海外研修時期（博士課程）

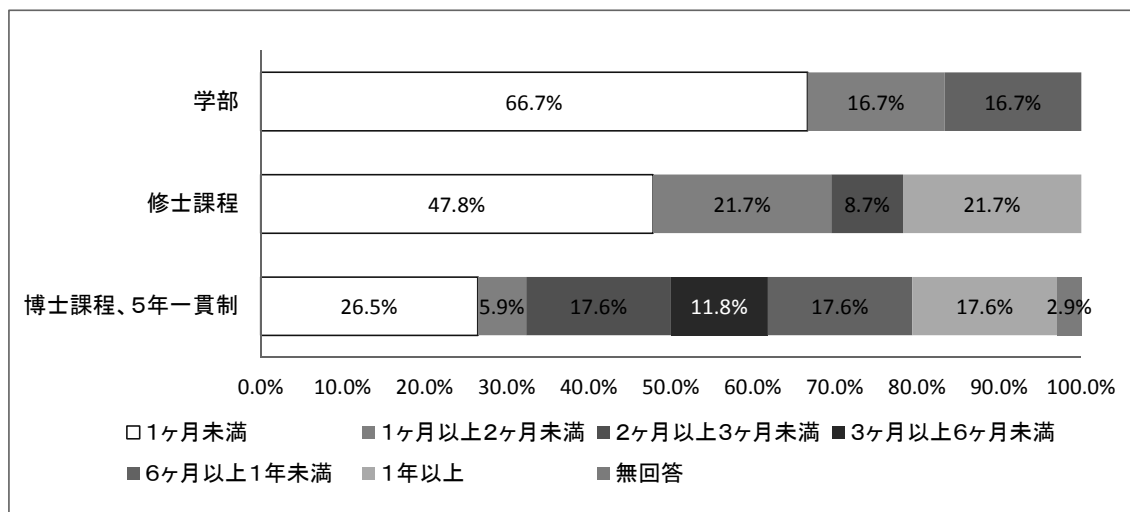


海外研修の期間は、1ヶ月未満が38.1%と最も多く、続いて、6ヶ月以上1年未満が17.5%であった。7割の学生が比較的短い6ヶ月未満の海外研修に参加していた。また、学部生の66.7%は1ヶ月未満の海外研修に参加しており、課程が上がるにつれて、長い期間の研修に参加する傾向にあった。

図表 5 - 7 海外研修の期間

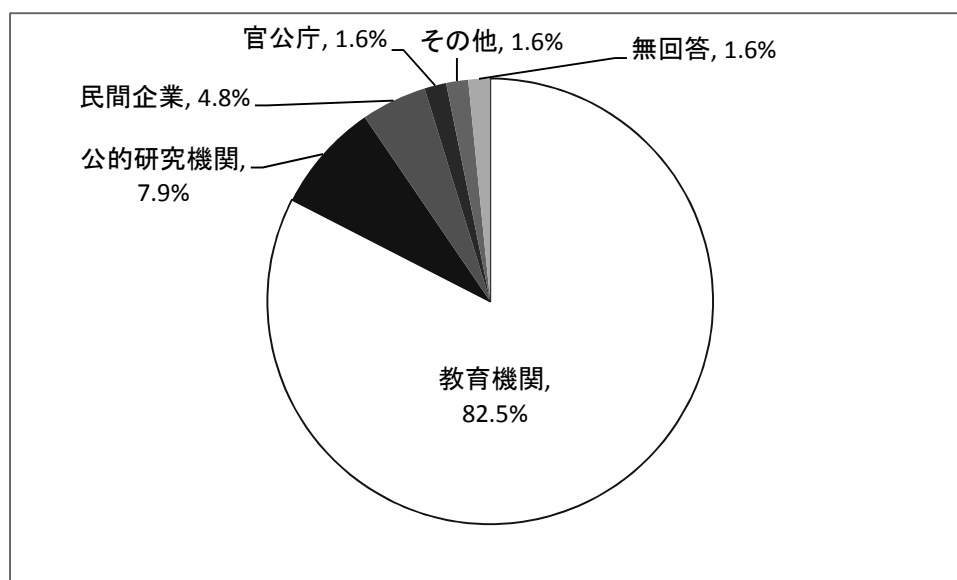


図表 5 - 8 海外研修の期間（課程別）



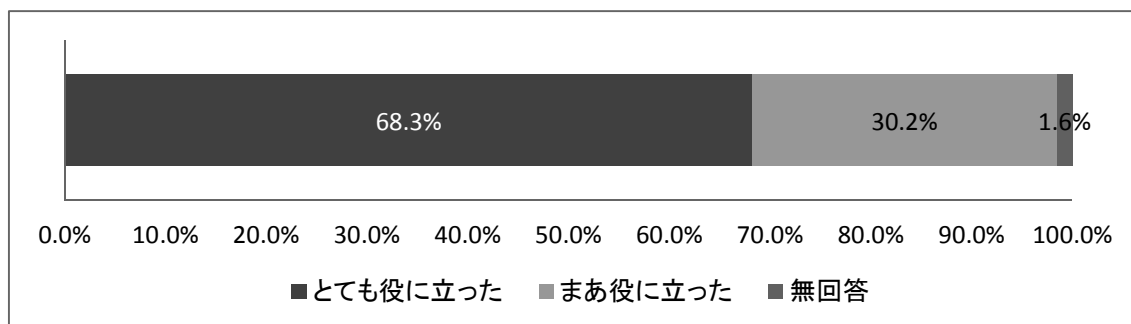
受け入れ機関は、教育機関が 82.5%と圧倒的に多かった。数は少ないが、公的研究機関や民間企業で研修を受けた学生もいた。

図表 5 - 9 受け入れ機関（海外研修）



海外研修に参加した学生の7割が「とても役に立った」と評価していた。「まあ役にたった」の評価もあわせると、9割以上の学生が海外研修を高く評価していた。「あまり役に立たなかった」、「まったく役に立たなかった」と回答した学生はいなかった。

図表 5-10 海外研修の評価

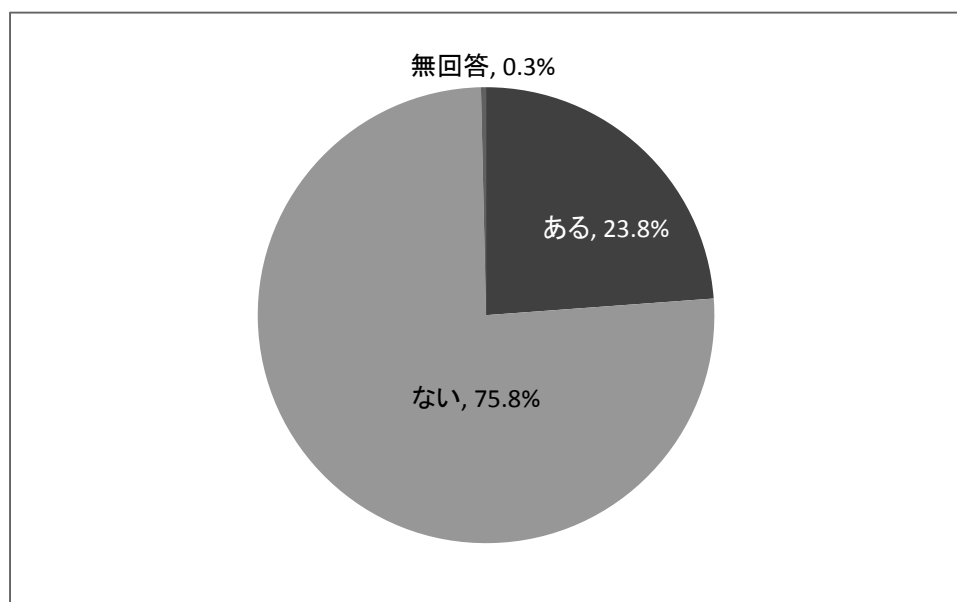


以上のように、海外研修に参加する学生は決して多くはないが、短期間の研修であっても、学生は高く評価していた。

### 3. 留学

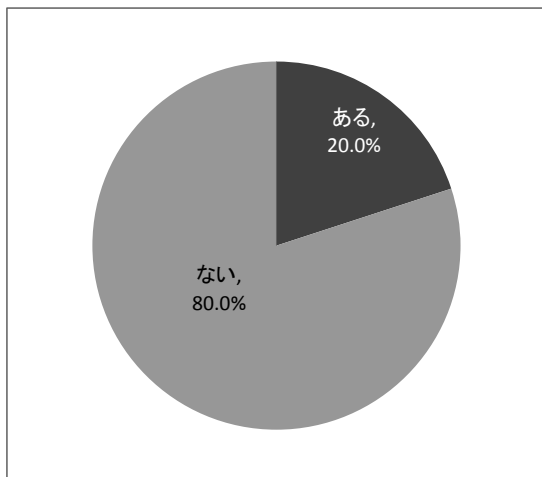
留学を経験している学生は、23.8%であった。

図表 5-11 留学経験

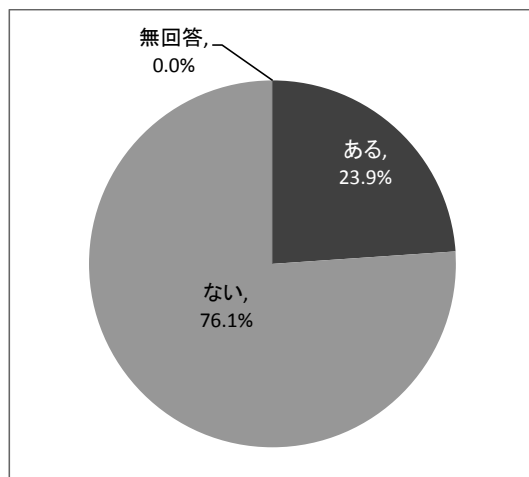


以下に、留学の経験がある学生について詳しく説明する。留学経験者は、学部生 20.0%、修士課程の学生 23.9%、博士課程の学生 33.3%と課程があがるにつれて増えていた。

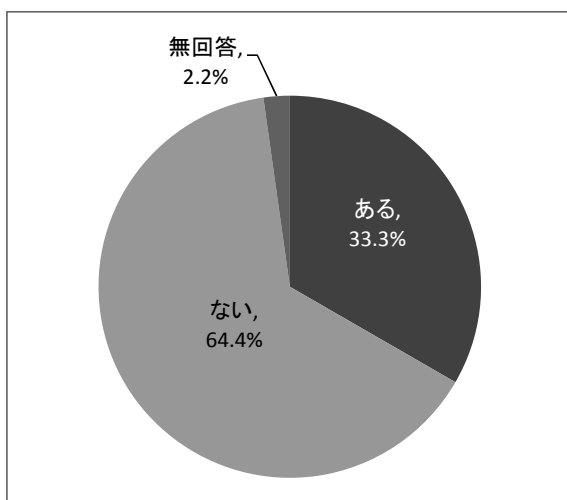
図表 5-12 留学経験（学部）



図表 5-13 留学経験（修士課程）

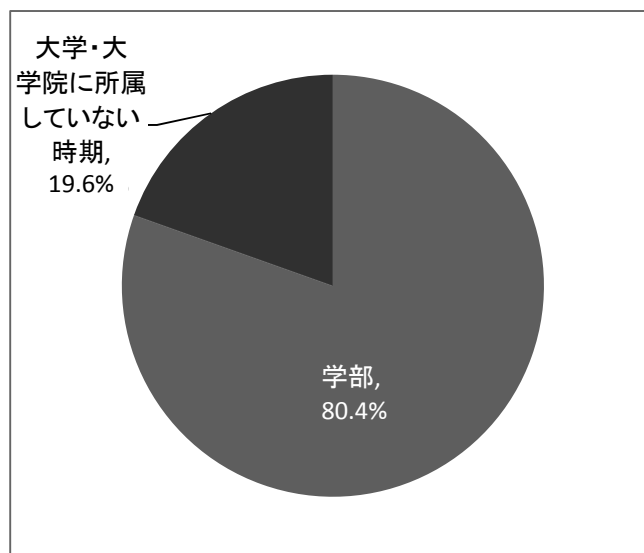


図表 5-14 留学経験（博士課程）

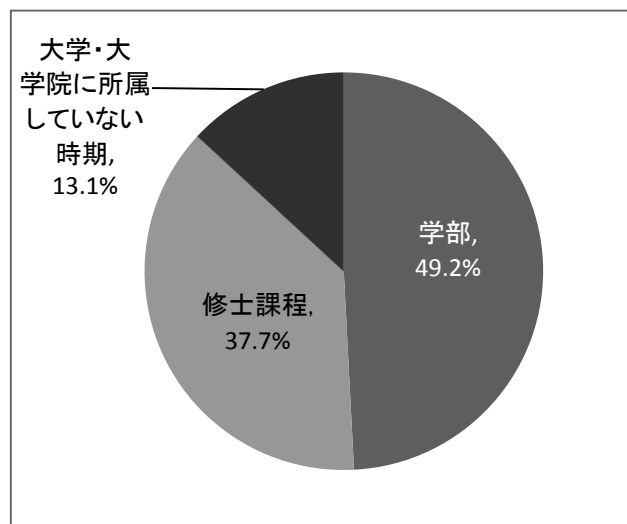


留学時期は、留学経験者のうち、学部生は 80.4%が学部在学中であった。修士課程の学生の 49.2%が学部、37.7%が修士課程に留学していた。博士課程の学生の留学時期は、学部 20.0%、修士課程 30.0%、博士課程 40.0%であった。

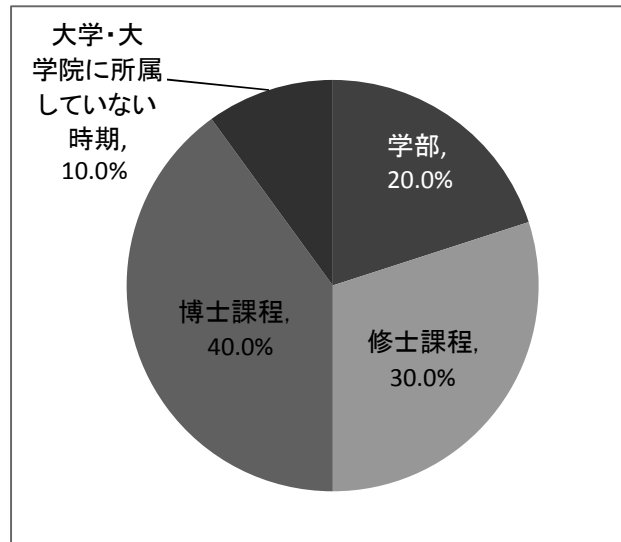
図表 5-15 留学の時期（学部）



図表 5-16 留学の時期（修士課程）



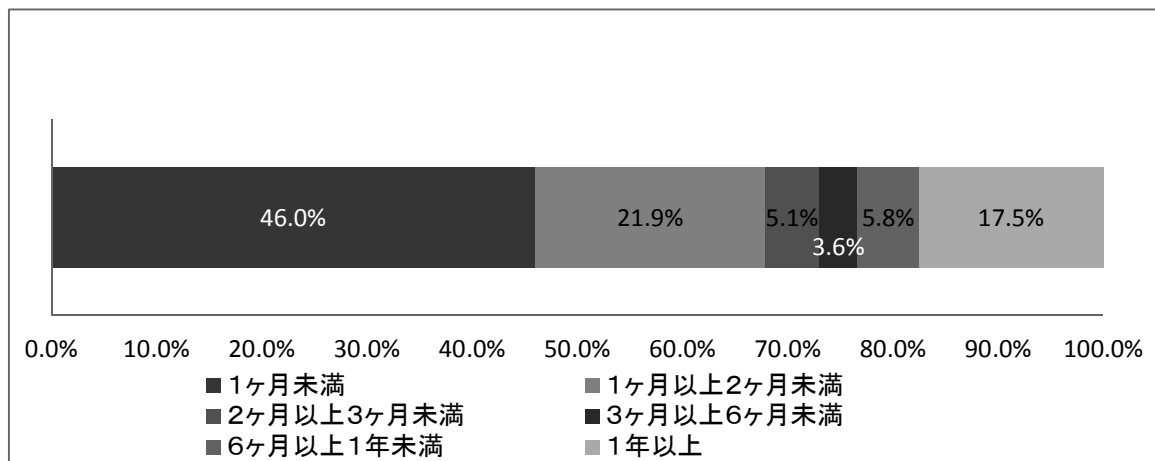
図表 5-17 留学の時期（博士課程）



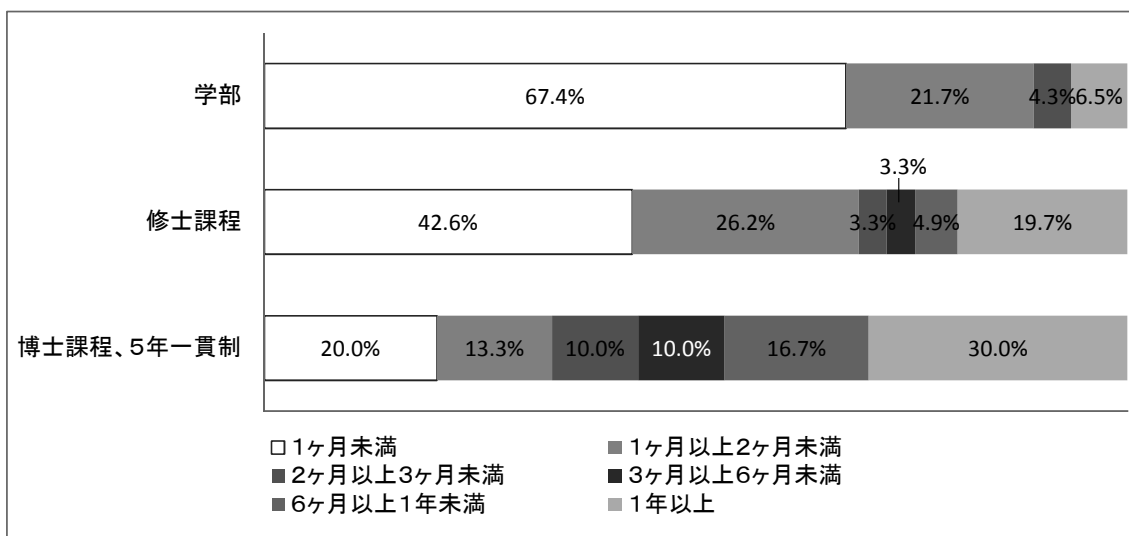
留学期間は、1ヶ月未満 46.0%、1ヶ月以上2ヶ月未満 21.9%となっており、半数以上が短期間の留学であった。1年以上の留学は、17.5%であった。

課程別では、課程があがるにつれて、留学期間が長くなる傾向にあった。学部生の留学で最も多かった留学期間は、1ヶ月未満（67.4%）であった。対して、博士課程で1年以上留学していた学生は、30.0%であった。

図表 5-18 留学期間

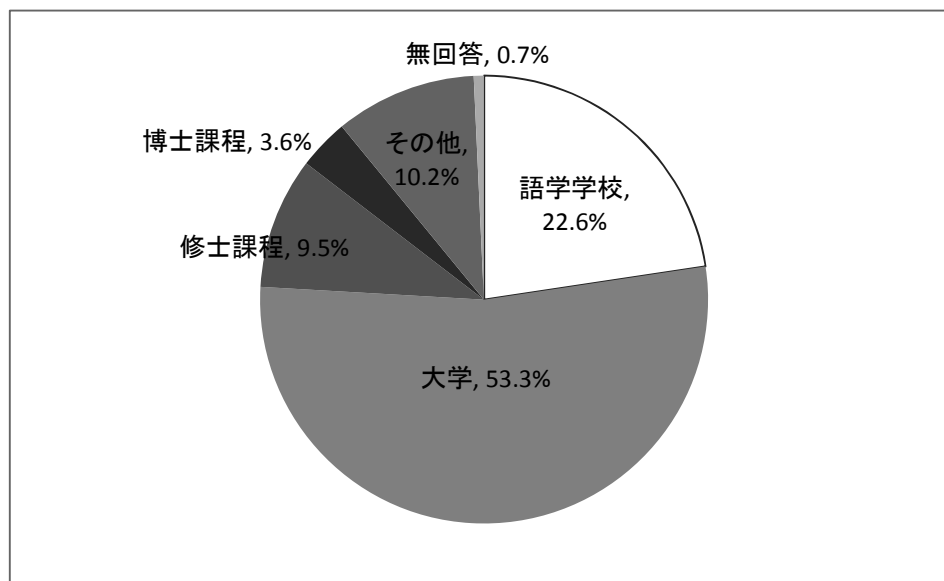


図表 5-19 留学期間（課程別）



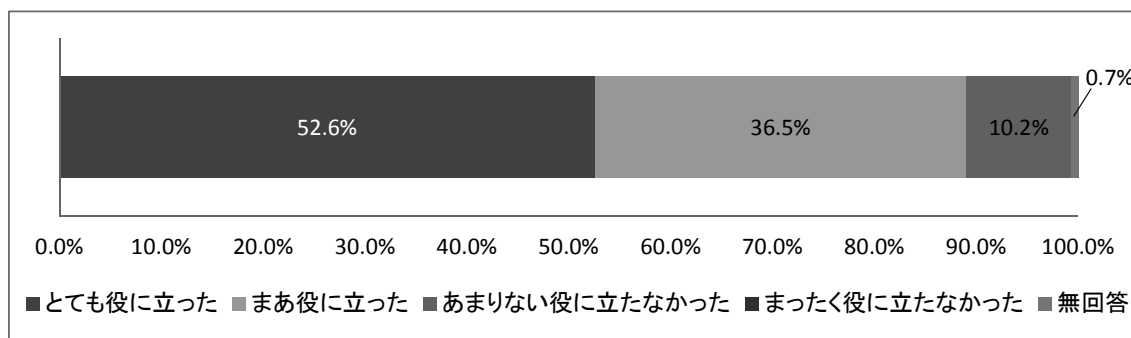
受け入れ機関は、大学が 53.3%と最も多く、続いて語学学校 22.6%であった。

図表 5-20 受け入れ機関（留学）



留学経験者の約9割が「とても役に立った」(52.6%)、「まあ役に立った」(36.5%)と評価していた。一方で、数は少ないが1割の学生は「あまり役に立たなかった」と回答していた。

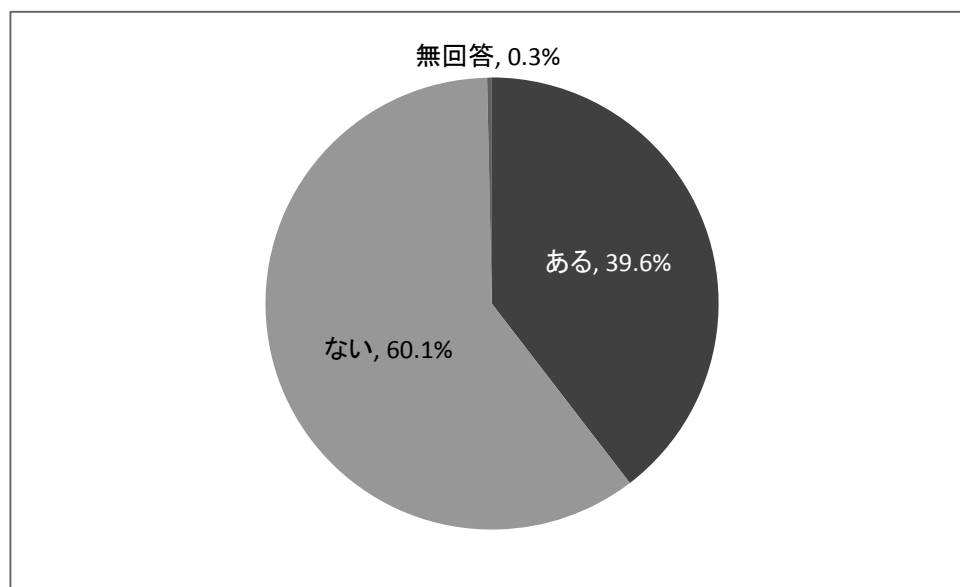
図表5-21 留学の評価



#### 4. インターンシップ

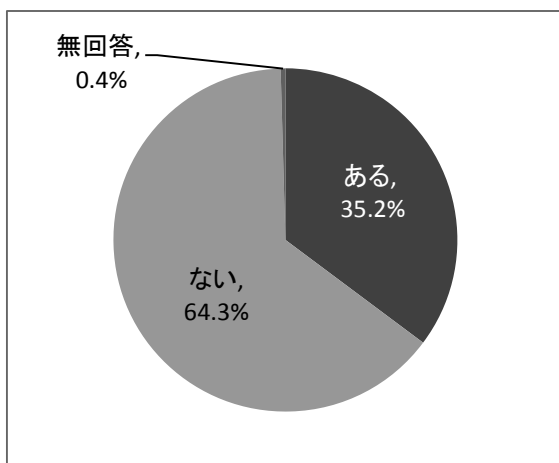
インターンシップの経験者は、39.6%であった。課程別にみると、学部生35.2%、修士課程の学生47.8%、博士課程の学生27.8%がインターンシップを経験していた。インターンシップ経験者は、学部や修士課程の学生に多かった。

図表5-22 インターンシップの経験

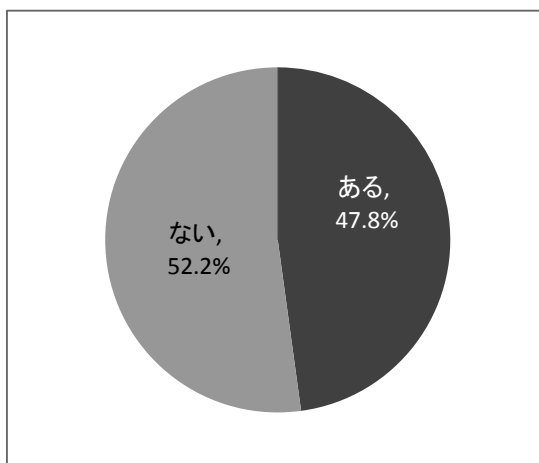




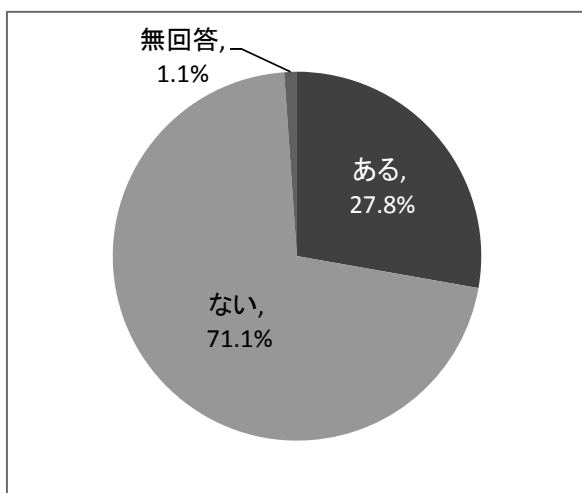
図表 5-23 インターンシップ経験  
(学部)



図表 5-24 インターンシップ経験  
(修士課程)

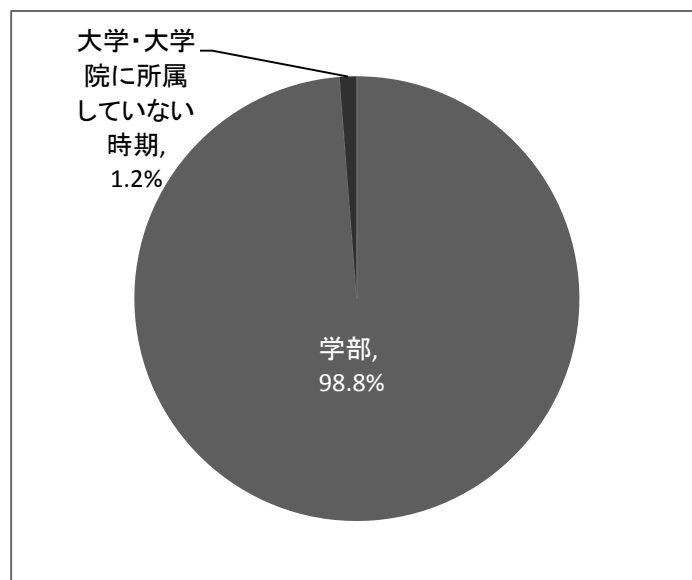


図表 5-25 インターンシップ経験  
(博士課程)

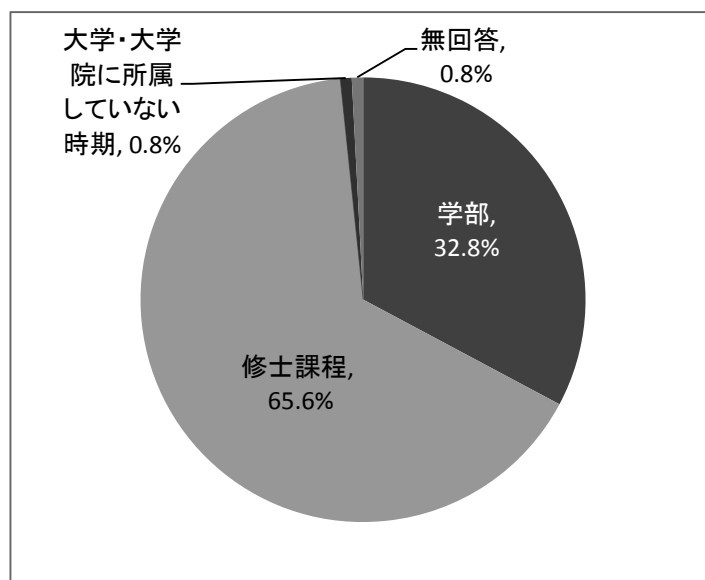


インターンシップを経験した時期は、学部生のほとんどが学部在学中に、修士課程の学生の約7割が修士課程在学中にインターンシップを経験していた。博士課程の学生は、約3割が学部、4割が修士課程、残りの3割が博士課程在学中に経験していた。

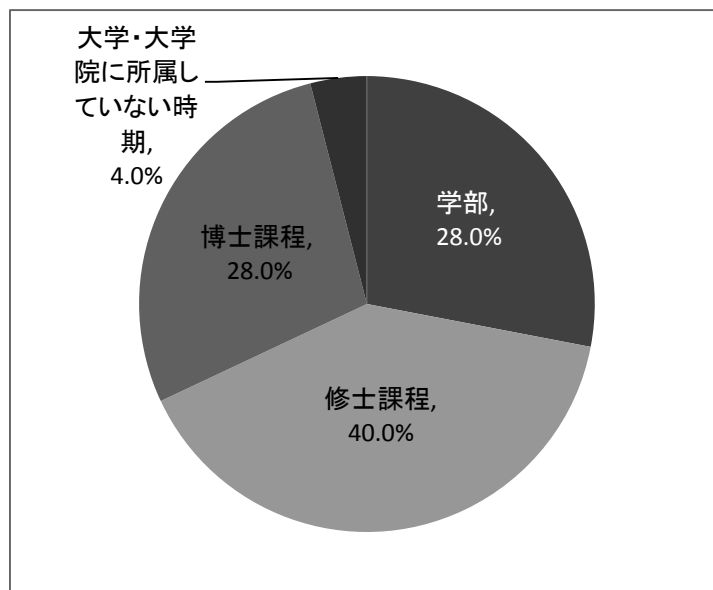
図表5-26 インターンシップ経験時期（学部）



図表5-27 インターンシップ経験時期（修士課程）

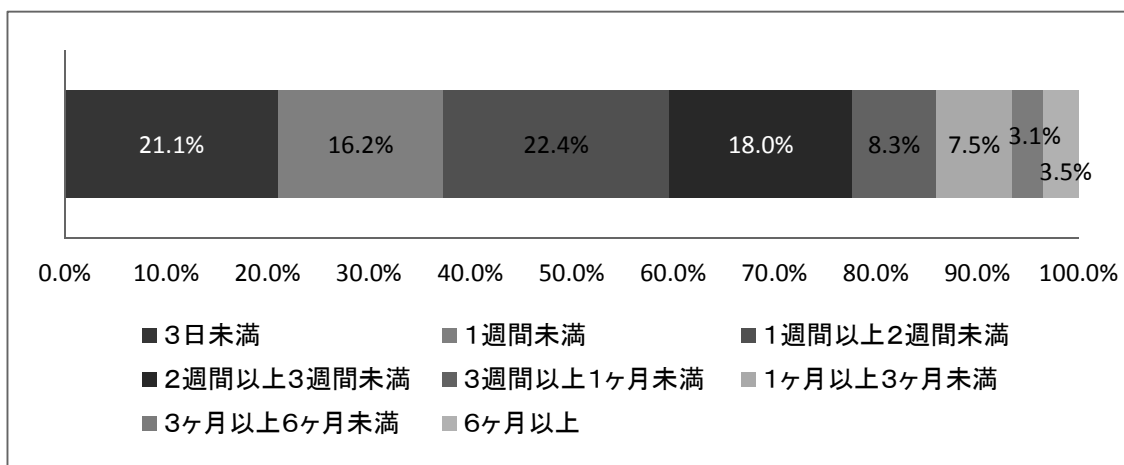


図表 5-28 インターンシップ経験時期（博士課程）



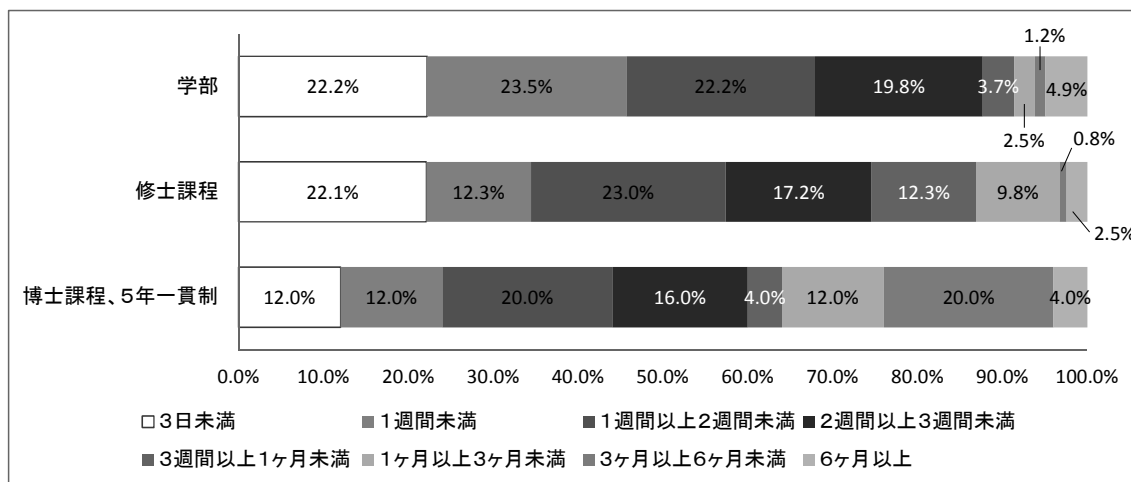
インターンシップの期間は、3日未満 21.1%、1週間未満 16.2%、1週間以上2週間未満 22.4%、2週間以上3週間未満 18.0%、3週間以上1ヶ月未満 8.3%であった。約9割の学生が1ヶ月未満のインターンシップを経験していた。

図表 5-29 インターンシップ期間



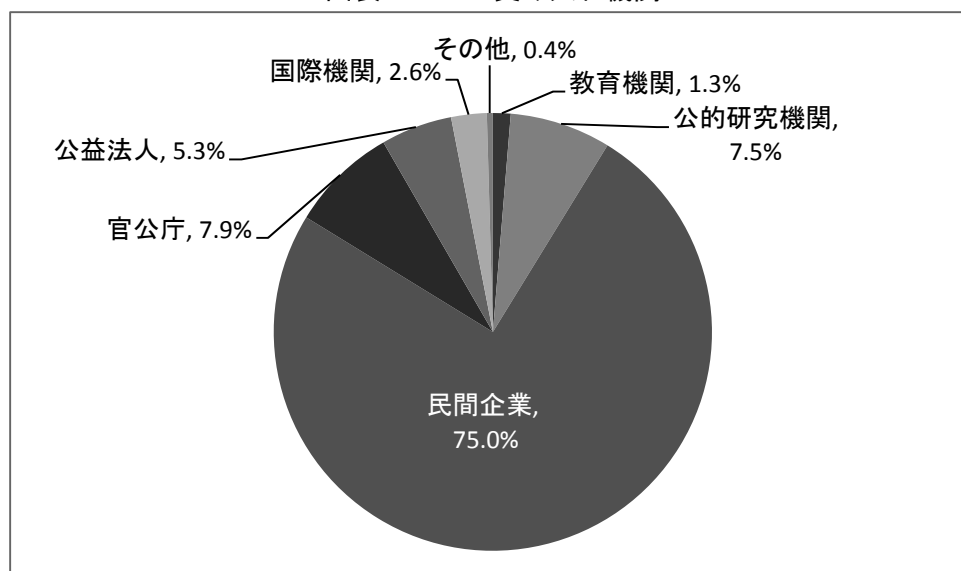
課程があがるにつれて、インターンシップの期間が増える傾向にあった。学士課程の学生の9割は、3週間未満のインターンシップを経験していた。修士課程で8割、博士課程で6割の学生が3週間未満のインターンシップを経験していた。

図表 5-30 インターンシップ期間（課程別）



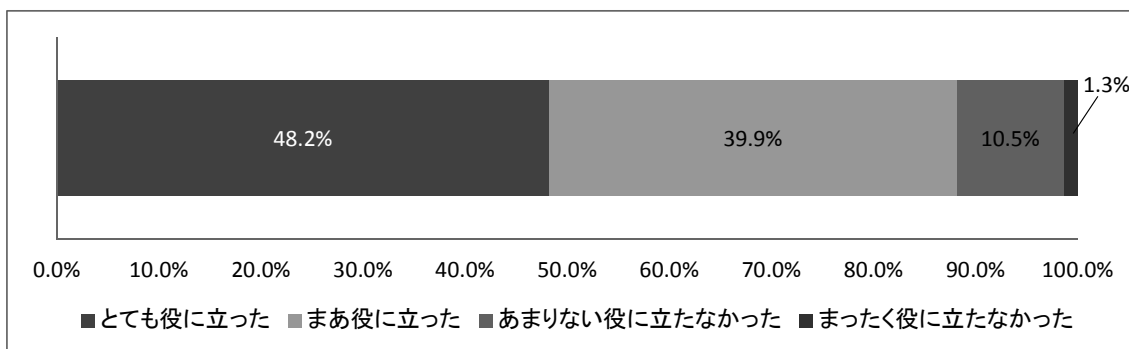
受け入れ機関は、民間企業が 75.0%と圧倒的に多かった。

図表 5-31 受け入れ機関



インターンシップを経験した学生の9割は、「とても役に立った」、「まあ役に立った」と回答していた。

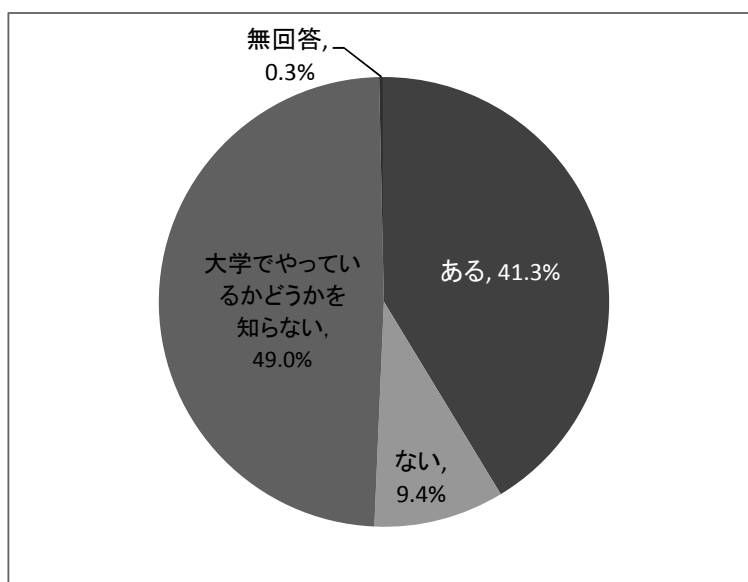
図表 5-32 インターンシップの評価



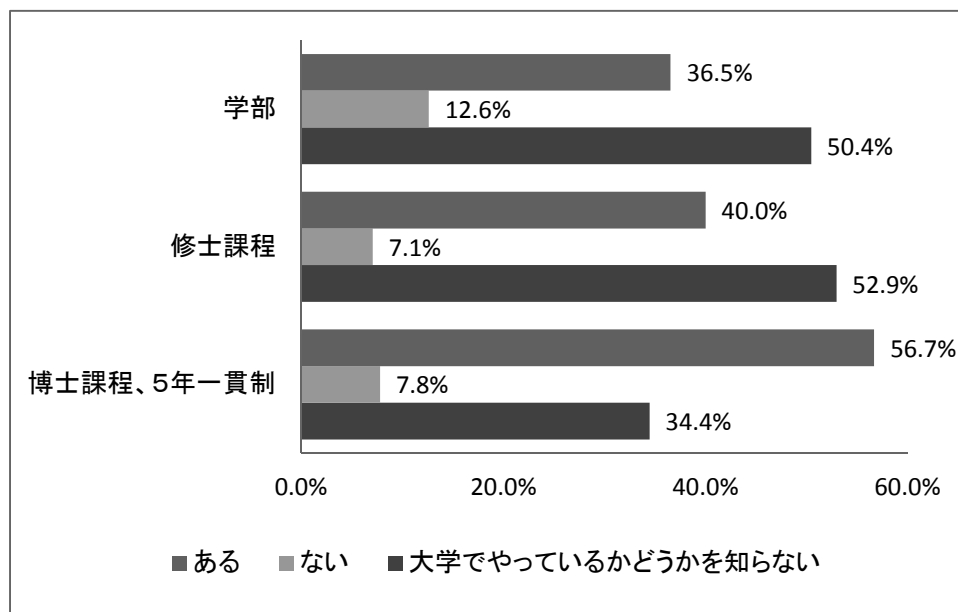
## 5. キャリア支援

「いま所属している大学・大学院で、女性のライフイベント（出産・育児など）を意識したキャリア教育やキャリア支援」があるかどうかたずねた。「ある」と答えた学生は、41.3%であった。これに対して、「大学でやっているかどうかを知らない」が49.0%と最も多かった。また、課程別にみると、「大学でやっているかどうか知らない」学生は、学部、修士課程で多かった。実際に、調査対象者の大学・大学院で女性を対象としたキャリア教育・支援が行われているかはわからないが、そうした教育や支援が行われているにもかかわらず、十分に周知されていない可能性があった。

図表 5-33 女性を対象としたキャリア教育・支援



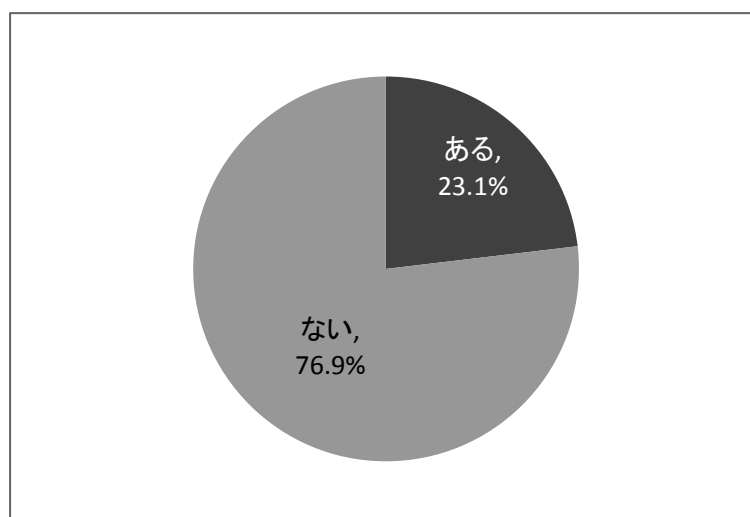
図表 5-34 女性を対象としたキャリア教育・支援（課程別）



無回答はグラフから省略した

女性のライフイベントを意識したキャリア教育やキャリア支援を利用している学生は、23.1%と少なかった。実際に、半数の学生は、そうした教育や支援が行われているかどうかも知らないため、このような結果になったのだと考えられる。

図表 5-35 女性を対象としたキャリア教育・支援の利用



ただし、本調査に回答した学生の8割が20代前半で、9割が結婚をしておらず、結婚、出産・育児というライフイベントに直面していない可能性が高かった。そのため、女性を対象としたキャリア教育や支援に関心が向きづらかったのだろう。

図表 5-36 学生の年齢と割合

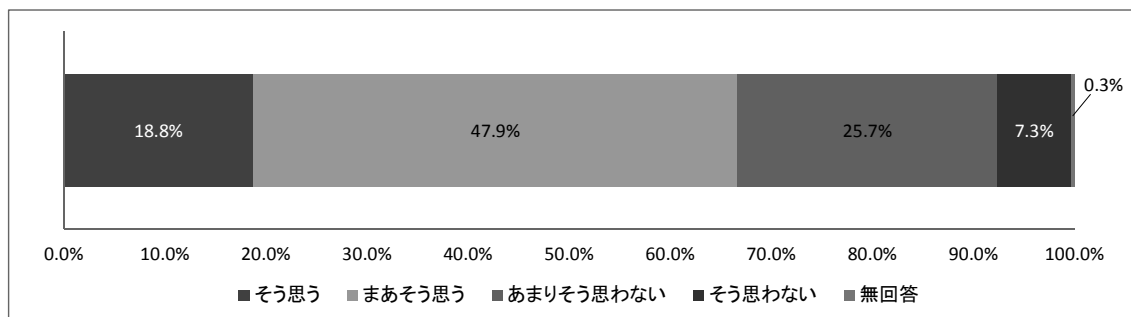
年齢	人数	%
1969年～1979年（30代後半、40代前半）	5	0.9%
1980年～1984年（30代前半）	11	1.9%
1985年～1989年（20代後半）	95	16.5%
1990年～1994年（20代前半）	462	80.2%
無回答	3	0.5%

図表 5-37 結婚の有無

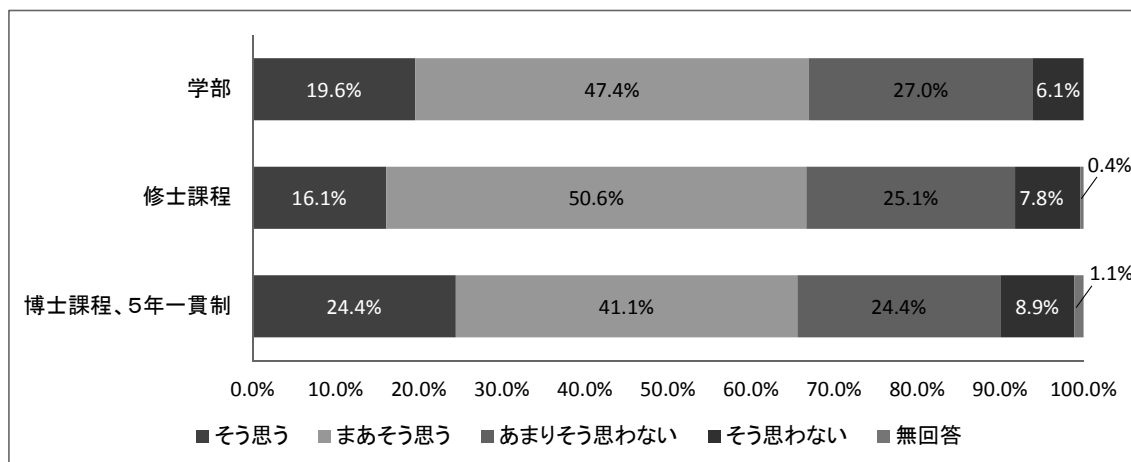
結婚の有無	人数	%
結婚している(同居)	9	1.6%
結婚している(別居)	6	1.0%
結婚していない	559	97.0%
無回答	2	0.3%

では、女性のライフイベントを意識したキャリア教育やキャリア支援があれば、受けたいと思うかどうかたずねた。「そう思う」18.8%、「まあそう思う」47.9%と約7割の学生が受けたいと回答した。一方で、約3割の学生は「あまりそう思わない」、「そう思わない」と答えた。課程別では、大差はないものの、博士課程の学生の方がキャリア教育・支援を受けたいと強く思っているようであった。

図表 5-38 女性を対象としたキャリア教育・支援への希望



図表 5-39 女性を対象としたキャリア教育・支援への希望（課程別）



女性特有の問題が顕在化してくるのは、とりわけ出産、育児、介護などのライフイベントを経験しやすい30代から40代にかけてである。20代後半から30代前半で博士号を取得しても、常勤職にすぐに就けず、任期付きの仕事を転々とする人が多い現状では、家庭を持つこと自体が困難で、たとえ結婚したとしても経済的状況は不安定なままで苦しく、職を得るために別居結婚になったり、家庭の事情（子どもの養育、家族の生活拠点など）で応募できる範囲（地域や雇用条件）が限定されたりする傾向にある（文部科学省・科学技術政策研究所 2008）。こうした状況は、日本の女性研究者の割合に顕著に表れている。2013年の統計では、日本の女性研究者の割合は14.4%と極めて低い。それに比べてイギリスでは37.7%、フランスでは25.6%、オーストラリアでは29.0%と日本より女性研究者の割合は高い（文部科学省 2014, p.74）。女性研究者が自立した研究者として養成されていく環境をいかに整えていくかが課題になる。

## 6. まとめ

海外研修、留学の経験者は約1～2割であり、少なかった。インターンシップは、就職をみすえた活動であるため、約4割と比較的多かった。海外研修と留学の経験は、課程があがるにつれて多くみられたが、インターンシップの経験は修士課程の学生に多かった。経験期間は、いずれも短いものが多く、それは学部生において顕著であった。博士課程、5年一貫制の学生は、比較的長い期間のものに参加していた。受け入れ機関は、海外研修の場合、教育機関、留学の場合、大学と語学学校、インターンシップの場合、民間企業が多かった。

以上のように、海外研修、留学、インターンシップを経験している学生は、決して多くはないが、経験した学生の9割程度が役に立ったと評価していた。

続いて、女性のライフイベントを意識したキャリア教育やキャリア支援は、学生に十分に周知されていない可能性が明らかになった。こうした教育や支援を希望する学生は多いため、学生にいかに広く伝えていくかが課題となる。



#### <参考文献>

文部科学省・科学技術政策研究所（第1調査研究グループ） 2008, 「インタビュー調査 - ポストドクター等のキャリア選択と意識に関する考察 - 高年齢層と女性のポストドクター等を中心に」 pp.1-86.

<http://www.nistep.go.jp/achiev/ftx/jpn/mat152j/pdf/mat152j.pdf> [2015.6.30.取得]  
文部科学省・科学技術政策研究所（第1調査研究グループ） 2012, 「我が国の博士課程修了者の大学院における修学と経済状況に関する調査研究」 pp.1-122.

<http://www.nistep.go.jp/achiev/ftx/jpn/mat206j/pdf/mat206j.pdf> [2015.6.30.取得]  
文部科学省 2014, 『科学技術指標 2013 統計集』 pp.1-202.

[http://data.nistep.go.jp/dspace/bitstream/11035/2935/115/NISTEP-RM229-Statistics\\_20150407.pdf](http://data.nistep.go.jp/dspace/bitstream/11035/2935/115/NISTEP-RM229-Statistics_20150407.pdf) [2015.6.30.取得]

## 6 理工系女子学生の博士課程のイメージと進学行動

前章までは、理工系女子学生の進学状況とキャリアについての全体像を分析してきた。博士課程への進学者数は少ないが、その背景に経済的事情や博士課程の就職難の問題があることが推測できる。本章では、学部および修士課程に在籍している学生に焦点をあて、どのような人が博士課程への進学を考え、何に迷い、何が阻害要因となっているのかを詳細に検討する。

本章で分析対象とするのは、学部または修士課程に所属している 485 人である。このうち、博士課程への進学を考えたことがある進学検討者は 156 人 (32.2%)、進学を考えたことがない進学非検討者が 324 人 (66.8%)、無回答が 5 名 (1.0%) であった。

また、かれらと比較するために、博士課程、あるいは 5 年一貫制に所属している大学院生 90 人が進学を検討した際の回顧的な意見も適宜、参照していくことにする。

### 1. 博士課程への進学理由と懸念事項

本節では、博士課程（5 年一貫制を含む）への進学を考えたことがあるか否かと、進学を考えた理由、進学を考えた際に懸念された事項、進学ではなく就職を考える理由との関係について見ていく。

まず、博士課程への進学を検討したことがある者では、将来的に進学する可能性はどれくらいあるだろうか。図表 6-1 を見ると、博士課程への進学を検討したことがある者のうち、将来的に進学する可能性が「ある」と回答した者は 31.6%、「まあある」は 28.9%と、合わせて 6 割の者が将来的に博士課程に進学する可能性があると考えている。

図表 6-1 博士課程への進学を検討したことがあるか否か×将来的に博士課程に進学する可能性はあるか

	博士課程への進学を検討したことがあるか	
	ある	ない
N	152	315
ある	31.6%	1.6%
まあある	28.9%	6.7%
あまりない	19.1%	26.3%
ない	9.9%	54.0%
わからない	10.5%	11.4%
合計	100.0%	100.0%

図表 6-2 は進学を考えた理由を 2 つ選択してもらった結果である。これを見ると、進学を考えたことがある者と実際に博士課程に進学した者とで、回答に大きな差は見られない。「新たな知識の発見を通じて社会に貢献したい」の回答がやや進学検討者に多い程度である。

図表6-2 博士課程への進学を検討したことがある者が進学を考えた理由（2つ選択）

	博士課程への進学を 検討したことがあるか	博士課程 在籍者
	ある	
N	156	90
専門をさらに深めたい	73.1%	67.8%
新たな知識の発見を通じて社会に貢献したい	28.2%	20.0%
大学の教員や研究者として働きたい	42.3%	44.4%
就職する時期を先に延ばしたい	3.8%	4.4%
博士号を取得したい	25.6%	25.6%
専門的な人的ネットワークを広げたい	2.6%	1.1%
国際的な業務には博士課程での修学が必要	12.8%	20.0%
就職先での昇進や昇給が期待される	3.8%	1.1%
その他	0.0%	1.1%
無回答	5.1%	4.4%

進学を懸念する事項については、進学検討者と博士課程在籍者との間に差が見られる項目がある。一つは「博士課程修了後の就職状況」であり、進学検討者で60.9%と多くなっている。もう一つ差が見られる項目は「博士号の取得可能性」であり、これは博士課程在籍者で23.3%とやや多くなっている。

さらに、「自身の能力や資質」については進学検討者の44.9%が選択しており、博士課程在籍者と比べるとやや割合が高くなっている。

博士課程在籍中の経済的状況については、進学検討者も博士課程在籍者もともに55%以上が懸念事項として挙げており重大な検討事項であることに間違いはないが、就職状況と能力・資質については、博士課程への進学を左右する決定打になっている可能性がある。

図表6-3 博士課程への進学を検討したことがある者が懸念している事項（2つ選択）

	博士課程への進学を 検討したことがあるか	博士課程 在籍者
	ある	
N	156	90
博士後期(博士)課程在籍中の経済的状況	57.7%	55.4%
博士後期(博士)課程修了後の就職状況	60.9%	43.3%
博士後期(博士)課程での不透明な修学プロセス	3.2%	4.4%
博士号の取得可能性	11.5%	23.3%
自身の能力や資質	44.9%	38.9%
指導教員との関係	3.2%	7.8%
ワークライフバランス	12.8%	5.6%
業務と修学との調整	1.9%	4.4%
その他	2.6%	2.2%
無回答	0.6%	4.4%

それでは、進学ではなく就職を考える理由は何であろうか。図表6-4を見ると、博士課程への進学を考えたことのない進学非検討者が選択した項目で比して多いのは「早くお金を稼ぎたい」と「自身に研究を続ける能力や資質がないと思う」の2つである。「自身に研究を続ける能力や資質がないと思う」は進学検討者でも選択している者が多く51.3%と実に過半数であった。「早くお金を稼ぎたい」についても、博士課程在籍者と比べると、進学検討者で選択している者が多かった。また、「進学しないほうが就職に有利だと思う」についても進学検討者で選択している者が多くなっていた。

上記の通り、「自身に研究を続ける能力や資質がないと思う」は、博士課程への進学

を検討する上での懸念事項としても選択されている。経済的な問題、就職の問題のほか、自身の能力に対する自信のなさが、博士課程への進学をあきらめさせていることが分かる。

図表 6-4 博士課程への進学を検討したことがあるか否か×就職を考えた理由  
(2つ選択)

	博士課程への進学を検討したことがあるか		博士課程 在籍者
	ある	ない	
N	156	324	90
早くお金を稼ぎたい	46.2%	53.1%	30.0%
大学ではなく企業・機関で研究を続けたい	17.3%	15.1%	14.4%
理工系の仕事に興味がない(なくなった)	1.9%	5.9%	2.2%
自身に研究を続ける能力や資質がないと思う	51.3%	48.5%	21.1%
博士課程がよくわからない	3.8%	5.6%	4.4%
進学しないほうが就職に有利だと思う	34.6%	26.5%	22.2%
就きたい職業に博士課程の勉強は役立たない	4.5%	9.0%	2.2%
婚期が遅れるように感じる	18.6%	18.8%	12.2%
指導教員との関係に不安がある	1.9%	1.9%	4.4%
今所属している大学に自身の分野の博士課程がない	0.0%	1.2%	0.0%
地元の大学に博士課程がない	0.6%	0.0%	0.0%
その他	5.1%	6.2%	6.7%
無回答	0.0%	0.3%	7.8%

それでは、かれらは進路選択の際にどのような条件を重視しているだろうか。図表 6-5 を見ると、博士課程への進学を検討したことがある進学検討者と博士課程在籍者で「大学・大学院での専門分野との関連」、「業種・仕事内容」、「自分の能力や適性と合っていること」を選択した者が進学非検討者よりも多い。かれらは、将来の安定性よりも仕事の内容や自分の適性を重視する傾向にある。

それに対して、進学検討者も非検討者も博士課程在籍者よりも「企業・機関の将来性・安定性」、「ワークライフバランス」を選択した者の割合が高い。進学非検討者については「正社員かどうか」を選択している者も多く、将来の安定性とワークライフバランスに関心がある者が多いと言える。

図表6-5 博士課程への進学を検討したことがあるか否か×進路選択の際に重視する条件（3つ選択）

	博士課程への進学を検討したことがあるか		博士課程在籍者
	ある	ない	
	156	324	90
大学・大学院での専門分野との関連	39.1%	26.5%	55.6%
業種・仕事内容	70.5%	59.9%	68.9%
企業・機関の知名度	5.1%	4.0%	3.3%
企業・機関の将来性・安定性	31.4%	36.1%	18.9%
正社員かどうか	10.9%	19.4%	10.0%
OB・OGの有無	1.3%	0.0%	2.2%
ワークライフバランス	48.1%	56.5%	28.9%
給料	16.0%	18.2%	16.7%
地元あるいは親の居住地近くでの就職	9.0%	12.3%	15.6%
大都市圏での就職	5.1%	6.2%	3.3%
日本国外での就職	1.3%	1.2%	6.7%
転勤の有無	2.6%	8.6%	2.2%
自分の能力や適性と合っていること	53.8%	45.7%	58.9%
企業・機関に女性が多いこと	2.6%	4.3%	0.0%
その他	1.3%	0.9%	3.3%
無回答	0.6%	0.0%	1.1%

## 2. 自身に欠けており、今後、身につけたい能力

それでは、現在、自身に欠けており、今後のキャリアを考えたときに身につけたいと思う能力は博士課程への進学を考える者とそうでない者とで異なるだろうか。

図表6-6を見ると、博士課程在籍者、または進学非検討者に対して、進学検討者で比較的多いのが「主体性」、「課題発見力」、「創造力」であった。

まず「主体性」と「創造力」については、進学非検討者でも高く、博士課程在籍者では低くなっていた。博士課程在籍者の年齢は上であり、（博士課程に在籍することによるものかどうかは分からないが）すでに「主体性」と「創造力」が身につけているという可能性もある。

つぎに「課題発見力」を選んだ者は博士課程在籍者でも多いが進学非検討者では比較的少ない。「課題発見力」を身につけるには、博士課程での学びに期待がもたれているのだと解釈できる。

図表6-6 博士課程への進学を検討したことがあるか否か×身につけたい能力  
(3つ選択)

	博士課程への進学を検討したことがあるか		博士課程 在籍者
	ある	ない	
N	156	324	90
主体性	27.6%	32.7%	18.9%
働きかけ力	32.1%	36.7%	30.0%
実行力	26.9%	27.5%	27.8%
課題発見力	31.4%	21.9%	36.7%
計画力	28.2%	24.7%	33.3%
創造力	39.1%	42.3%	30.0%
発信力	45.5%	47.5%	43.3%
傾聴力	12.8%	6.8%	8.9%
柔軟力	8.3%	13.0%	14.4%
状況把握力	9.0%	11.7%	16.7%
規律力	5.8%	5.9%	7.8%
ストレスコントロール力	27.6%	27.8%	26.7%
無回答	1.3%	0.0%	1.1%

### 3. 進路選択にあたってのアドバイス

進学選択にあたって誰からのアドバイスを重視するかと聞いたところ、進学検討者でも非検討者でも「保護者」と「友だち」の割合が博士課程に在籍している者と比べ高くなっていた（図表6-7）。ただし、これは学部生と修士課程の在籍者の年齢が低めであることと関係しているのかもしれない。

「同じ大学の研究室の教員」からのアドバイスを重視しているのは進学検討者と博士課程在籍者であった。かれらは、研究室の教員との関係が進学非検討者と比べて密である可能性がある。進学非検討者については「同じ大学の研究室以外の教員」からのアドバイスを重視すると回答した者が比較的多かった。

また、少しの差ではあるが、進学非検討者において「民間企業や公的研究機関に所属する方」からのアドバイスを重視する割合が高い。進学非検討者は企業への就職志向であり、自ら進んで民間企業や公的研究機関に所属する人にアプローチしたり、あるいは、環境的に大学関係者以外の人と接する機会が多かったりするのかもしれない。

図表6-7 博士課程への進学を検討したことがあるか否か×進路選択において重視するアドバイス（3つ選択）

	博士課程への進学を検討したことがあるか		博士課程 在籍者
	ある	ない	
N	156	324	90
保護者	71.2%	70.7%	52.2%
きょうだい	9.0%	9.9%	4.4%
友だち	35.3%	40.1%	24.4%
配偶者・恋人	18.6%	16.7%	30.0%
同じ大学の研究室の教員	55.1%	38.6%	66.7%
同じ大学の研究室の先輩・同僚	42.9%	47.5%	41.1%
同じ大学の研究室以外の教員	12.2%	4.3%	4.4%
同じ大学の研究室以外の先輩・同僚	7.1%	13.3%	6.7%
他大学の教員	3.2%	2.2%	11.1%
他大学の先輩・同僚	8.3%	6.5%	11.1%
民間企業や公的研究機関に所属する方	14.7%	20.7%	14.4%
大学の職員・カウンセラー	8.3%	13.3%	5.6%
その他	1.3%	1.5%	2.2%
誰にも相談しない	6.4%	10.2%	11.1%
無回答	1.3%	0.3%	2.2%

#### 4. 博士号のキャリア（進路）についてのイメージ

博士号のキャリアについてのイメージはどのようであろうか。博士号をとると「キャリアの可能性が広がる」と考えているのは博士課程在籍者で46.7%であるのに対し、進学検討者で27.6%、進学非検討者で19.1%と低くなっている。これに対し、進学検討者、進学非検討者の両方で「キャリアの可能性が狭まる」と考える者が過半数いる。ただし、博士課程在籍者でも34.4%が「キャリアの可能性が狭まる」というイメージを持っていることに留意したい。また、進学非検討者では「特にイメージは持っていない」と回答する者も28.1%と比較的多いことも特徴的である。

図表6-8 博士課程への進学を検討したことがあるか否か×博士号のキャリア（進路）についてのイメージ

	博士課程への進学を検討したことがあるか		博士課程 在籍者
	ある	ない	
N	156	324	90
キャリアの可能性が広がる	27.6%	19.1%	46.7%
キャリアの可能性が狭まる	54.5%	52.5%	34.4%
特にイメージは持っていない	16.7%	28.1%	16.7%
無回答	1.3%	0.3%	2.2%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

このようなイメージはどこから来るのだろうか。身近に博士号を持っている人がいるかどうかを尋ねたところ、博士課程在籍者では90.0%、進学検討者で70.5%がいると回答したのに対し、進学非検討者では58.3%のみであった。

図表 6-9 博士課程への進学を検討したことがあるか否か×身近に博士号をもっている人がいるか

	博士課程への進学を検討したことがあるか		博士課程在籍者
	ある	ない	
N	156	324	90
いる	70.5%	58.3%	90.0%
いない	28.8%	41.4%	8.9%
無回答	0.6%	0.3%	1.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

ただし、図表 6-10 を見ると、身近に博士号をもっている人がいるかどうかと、博士号のキャリアに対するイメージには大きな違いはない。

図表 6-10 身近に博士号をもっている人がいるか×博士号のキャリアについてのイメージ

	N	キャリアの可能性が広がる	キャリアの可能性が狭まる	特にイメージは持っていない	無回答	合計
いる	382	26.7%	51.6%	21.2%	0.5%	100.0%
いない	190	24.2%	47.9%	27.4%	0.5%	100.0%

ところで、身近な博士号取得者とは誰のことであろうか。研究室の教員、研究室の先輩・同僚、家族・親族のいずれも、博士課程在籍者で選択している割合が多くなっている。進学検討者と非検討者で傾向が異なるのは、「研究室の教員」と「家族・親族」の割合であり、進学検討者でその割合が高くなっていた。

図表 6-11 博士課程への進学を検討したことがあるか否か×身近に博士号をもっている人は誰か（複数回答）

	博士課程への進学を検討したことがあるか		博士課程在籍者
	ある	ない	
N	110	189	81
研究室の教員	83.6%	73.5%	90.1%
研究室の先輩・同僚	58.2%	59.3%	82.7%
家族・親族	28.2%	19.0%	30.9%
その他	6.4%	10.6%	22.2%

それでは、親の期待する教育段階は博士号のキャリアのイメージに影響を与えるだろうか。

まず、博士課程への進学を検討したことがあるか否かと親の期待する教育段階とのクロス集計を見た（図表 6-12）。進学検討者では親の期待する教育段階は修士課程までが最も多いが、博士課程への期待も進学非検討者と比較すると高い比率となっていた。

進学非検討者では親の期待は学部までと修士課程までが多く、博士課程までは 2.2% と非常に小さい比率となっていた。

博士課程在籍者については、親の期待する教育段階が博士課程であるという割合が



25.6%であり、ほかと比べて高くなっていた。特筆すべきは「とくに期待されていることはない」の割合であり、博士課程在籍者のうち実に過半数の者がこの選択肢を選んでいた。「とくに期待されていることはない」というのは、おそらく本人の意志にまかされているということだと解釈できる。

図表 6-12 博士課程への進学を検討したことがあるか否か×親の期待する教育段階

	博士課程への進学を検討したことがあるか		博士課程在籍者
	ある	ない	
N	156	324	90
学士課程(学部)まで	16.7%	25.6%	8.9%
博士前期(修士)まで	32.7%	36.1%	12.2%
博士後期(博士)まで	19.9%	2.2%	25.6%
とくに期待されていることはない	30.1%	35.8%	52.2%
無回答	0.6%	0.3%	1.1%
合計	100.0%	100.0%	100.0%

それでは、親の期待する教育段階別に博士号のキャリアのイメージを見てみよう。図表 6-13 を見ると、やはり親の期待する教育段階が博士課程であるという者において、「キャリアの可能性が広がる」と回答している者が最も多かった(37.1%)。つぎに多かったのは「とくに期待されていることはない」と回答した者で、28.4%が「キャリアの可能性が広がる」と考えていた。この項目を見ると、親の期待と博士号のキャリアのイメージには関連がありそうである。

図表 6-13 親の期待する教育段階×博士号のキャリアのイメージ

	N	キャリアの可能性が広がる	キャリアの可能性が狭まる	特にイメージは持っていない	無回答	合計
学士課程(学部)まで	120	21.7%	55.0%	22.5%	0.8%	100.0%
博士前期(修士)まで	180	21.7%	53.9%	23.9%	0.6%	100.0%
博士後期(博士)まで	62	37.1%	43.5%	19.4%	0.0%	100.0%
とくに期待されていることはない	211	28.4%	46.4%	24.2%	0.9%	100.0%

親の期待する教育段階と家族・親族の博士号取得割合との間には明確な関係が見られる(図表 6-14)。N数は少ないものの、親の期待する教育段階が博士課程であると回答した者のうち、実に 53.5%が家族・親族に博士号を持っている者がいると回答している。

図表 6-14 親の期待する教育段階×家族・親族の博士号取得者

	N	もっていない	もっている	合計
学士課程(学部)まで	64	81.3%	18.8%	100.0%
博士前期(修士)まで	128	78.1%	21.9%	100.0%
博士後期(博士)まで	43	46.5%	53.5%	100.0%
とくに期待されていることはない	146	80.1%	19.9%	100.0%

## 5. まとめ

本章では、理工農系学部・研究科に所属する学部生と修士課程の学生のうち、博士課程の進学を検討する者はどのような学生であり、実際の進学にあたって、何が阻害要因になっているのかを検討した。

まず、博士課程進学検討者のうち6割が博士課程修了後の就職状況を心配しており、これは実際に博士課程に進学した者よりも高い比率であった。また、「自身の能力や資質」についても懸念事項として挙げている者が博士課程在籍者よりもやや多く、これらの就職と能力・資質に関する懸念が実際の進学行動を左右する可能性があることが分かった。能力・資質のなさについては、進学ではなく就職する消極的な理由としても選ばれていた。

進路選択の際には、博士課程在籍者は、将来の安定性よりも、仕事の内容と自分の適性を重視する傾向にあった。同様に、進学検討者でも仕事の内容と自分の適性をもとに進路を選択する者が多かったが、進学非検討者と同様に将来の安定性とワークライフバランスに関心がある者も多かった。

自身に欠けており、今後のキャリアを考えたときに身につけたい能力として、博士課程在籍者と進学検討者で「課題発見力」を選択する者が多く、博士課程においては、この能力を伸ばすことが期待されていると解釈できた。

進路選択において誰からのアドバイスを重視するかと尋ねたところ、進学検討者と博士課程在籍者で「同じ大学の研究室の教員」を選ぶ者が多かった。進学検討者の周りには博士課程在籍者と同様、密な関係にある教員がいる可能性がある。

つぎに博士号のキャリアのイメージについて見たところ、進学検討者では非検討者よりも「キャリアの可能性が広がる」と考えている者が多い。ただし、いずれも過半数は「キャリアの可能性が狭まる」というイメージをもち、さらに、博士課程在籍者でも3割強がこのように感じていることから、博士号のキャリアのイメージは決してよくないことが分かる。また、進学非検討者のうち3割が博士号のキャリアについて「特にイメージは持っていない」と回答していることから、進学非検討者の周りには博士号取得者の存在が希薄である可能性がある。

そこで、周りに博士号取得者がいるかどうかを尋ねたところ、やはり進学検討者の周りには非検討者よりも博士号取得者がいると回答した者が多いことが分かった。とくに研究室の教員と家族・親族に博士号を持つ者が多かった。

ただし、単に周りに博士号取得者がいても、博士号のキャリアについてのイメージは向上しないようである。博士号取得者の有無別に、博士号のキャリアのイメージについて見たところ、その差はなかった。

他方、親の教育期待には進路は影響されるようである。博士課程への進学検討者のうち、親の教育期待が博士課程までと回答した者は2割であったが、進学非検討者ではその十分の1であった。また、親の教育期待が博士課程までという者のうち、4割弱が「キャリアの可能性が広がる」と考えており、親の期待によって博士号のキャリアのイメージが異なることが分かった。親の期待する教育段階と家族・親族の博士号取得者の有無には関連がおそらくあり、親が博士課程への進学を期待している者のうち過半数の者が

家族・親族に博士号取得者がいると答えた。

博士課程への進学検討者は将来の仕事の安定性よりも、仕事の内容や自分の適性について求める傾向にある。とはいえ、博士課程修了後の就職については不安事項であり、この不安を除くと同時に自身の能力や資質について自信を持たせることが博士課程進学者を増やす上で重要である。また、博士課程進学検討者と博士課程在籍者では「課題発見力」を身につけたいと考える者が比較的多いことをふまえるなら、博士課程において、この能力を伸ばせるようなカリキュラム作りを心がけること、そして、それを学部生と修士課程の院生に周知させていくことで、博士課程への関心が高まる可能性はある。

また、環境としては、同じ大学の研究室の教員がアドバイスをくれると博士課程に進学しやすいようである。とくにその教員が博士号を持ち、実際のキャリアの可能性について示してくれるとよりよいであろう。

ただし、現状ではやはり親の教育期待が子どもの進路に最も影響力があるようである。博士課程への進学率を今後、上げていきたいのであれば、親への働きかけが重要となる。

現在、博士号取得後のキャリアについてのイメージはさほどよくない。博士課程在籍者ですら3割強が「キャリアの可能性が狭まる」と考えているほどである。理工系女子学生が博士課程に進みたいと考えるには、博士号取得後のキャリアについてのイメージを実態を伴う形で、いかに良くしていくかが重要となる。

# 付 表

1. 調査依頼状（調査の概要）

2. 調査票

3. 基礎集計表

4. 自由回答一覧



## 調査の概要

1. 調査実施期間：2014年12月22日～2015年1月31日
2. 調査対象者：女子学生のうち、以下の学部・専攻に所属している方  
理学系、工学系、農学系の学部・専攻（学士課程3、4年生以上、博士前期（修士）課程、博士後期（博士）課程）  
※医学・歯学・獣医学・看護・薬学・保健は除く。
3. 調査対象人数  
・学士課程、博士前期（修士）課程、博士後期（博士）課程 各10名程度  
※回答者数が多くなっても問題ありませんので、学生・院生宛にMLやメールの一斉送信で調査協力依頼をお送りいただいても構いません。
4. 調査方法：インターネット調査  
(学生がインターネット上の調査ページにアクセスし、回答する方法)  
※ご希望があれば学生・院生に配付用の紙媒体の調査票をご担当者様宛に郵送します。  
ただし、調査票をお送りするのは2015年1月になりますので、ご了承ください。
5. 貴学部・研究科にお願いしたいこと  
・学生・院生宛にメール等を用いて調査協力依頼文をお送りいただく。または、学生の見るポータルサイトなどで告知いただく。  
・紙媒体の調査票を配付することを希望する場合には、調査票を学生に配付していただく。なお、返送用の封筒が同封されておりますので、各大学様にて調査票を回収していただく必要はありません。
6. 調査の周知の方法、または紙媒体の調査票の配付方法の例
  1. 学生に直接メールを送付
  2. 学生向けMLにて周知
  3. 学内ポータルサイト、対象学生が確認するウェブサイトに掲示
  4. 印刷した調査依頼状を学内掲示板に貼付
  5. 印刷した調査依頼状を各研究室に配付
  6. 個別の学生に紙媒体の調査票を配付
  7. 講義・ゼミにて紙媒体の調査票を配付
7. 調査についての問い合わせ先  
株式会社サーベイリサーチセンター  
電話：03-3802-6754  
Eメール：carrier\_enq@surece.co.jp  
担当：野村 ※お問い合わせ対応時間：月～金 9:30～17:30  
土、日、祝日及び12/27～1/4はお問い合わせに対応できませんので、ご了承ください。

ご協力いただいた学部・研究科様には、調査終了後、基礎集計表をお送りいたします。ご活用いただければ幸いです。

## 理工系女子学生のキャリア展望調査 ご協力をお願い

国立大学法人 お茶の水女子大学  
リーディング大学院推進センター  
理学部長 教授 菅本昌夫  
センター長 教授 古川はづき

### ご回答にあたって

この調査は、理工系女子学生・院生のキャリア展望とそれを達成する上での問題点を明らかにし、女性が理工系分野で活躍し続けるのに必要な支援を検討するための基礎的資料を得ることを目的としています。

みなさまからいただいた回答はすべて統計的に処理し、個人が特定されることはありません。また、答えたくない質問には答えなくて結構です。みなさまのありのままの状況とご意見をお教えくださいますようお願い申し上げます。

調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

### ご回答の際のご注意

- ・この調査の対象者は、**理工農系の学部・専攻に所属している女性（学部3・4年生（回生）以上、大学院生）**です。※医学・歯学・獣医学・看護・薬学・保健は除きます。
  - ・国籍・年齢は問いません。
  - ・調査期間は **2014年12月22日～2015年1月31日**です。
  - ・アンケートの回答に要する時間は **20分程度**です。
  - ・調査票への回答は**お1人につき1回**とさせていただきます。
  - ・ブラウザの戻るボタンは使用しないでください。ブラウザの戻るボタンを使用されると、回答できなくなることがございます。
  - ・回答を修正した場合には、必ず「次へ」をクリックしてください。※クリックしていただいて初めて回答が保存されます。
  - ・推奨ブラウザは Internet Explorer 11.0 以降、Firefox 14.0 以降、Google Chrome 最新版 のバージョンです。
- JavaScript および Cookie を有効にしてください。  
また、回答は各ページ 60 分以内に送信をしてください。

### お問い合わせ先

(調査委託先) 株式会社サーベイリサーチセンター

電話：03-3802-6754

Eメール：carrier\_enq@surece.co.jp

担当：野村

※お問い合わせ対応時間：月～金 9：30～17：30

土、日、祝日及び12/27～1/4はお問い合わせに対応できませんので、ご了承ください。

■大学 ID をご入力ください：

※依頼状に書いてある大学 ID 番号（5ケタ）を入力

■パスワードをご入力ください

以下の①②のうち、いずれかあてはまるほうに進んでください

①【初めてご回答いただく場合】

こちらでパスワードの設定を行ってください。

途中で回答を中断された場合、設定いただいたパスワードを②に入力いただくことで続きから回答を再開していただけます。

※半角英数の小文字 6 ケタ以上 12 ケタ以下で設定可能です

※英・数の両方を必ず使用してください

パスワードの設定：

パスワードの設定（確認用）：

次へ進む

②【アンケートの続きからご回答いただく場合】

最初に設定いただいたパスワードをご記入ください。

パスワード：

次へ進む

・設定いただいたパスワードは、アンケートの回答を一度中断され、再開いただく場合にご入力いただけます。

・個人情報保護の目的から、最初に設定いただいたパスワードをお忘れになった場合に、パスワード内容のお問い合わせをお受けいたしておりません。一度中断して再開する場合のために、設定したパスワードは確認・保存いただきたくお願いいたします。



## 理工系女子学生のキャリア展望に関する調査

この調査は、理工系女子学生・院生のキャリア展望とそれを達成する上での問題点を明らかにし、女性が理工系分野で活躍し続けるのに必要な支援を検討するための基礎的資料を得ることを目的としています。

みなさまからいただいた回答はすべて統計的に処理し、個人が特定されることはありません。また、答えたくない質問には答えなくて結構です。みなさまのありのままの状況とご意見をお教えくださいますようお願い申し上げます。

調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますよう、何卒よろしくようお願い申し上げます。

- ▶ 対象：理工農系の学部・専攻に所属している女性（学部3・4年生（回生）以上、大学院生）
- ▶ 国籍・年齢：国籍・年齢は問わない
- ▶ 調査期間：2014年12月22日～2015年1月31日

国立大学法人 お茶の水女子大学  
リーディング大学院推進センター  
理学部長 教授 菅本晶夫  
センター長 教授 古川はづき

調査についての問い合わせ先：株式会社サーベイリサーチセンター（担当：野村）（調査委託先）

TEL : 03-3802-6754 email: carrier\_enq@surece.co.jp

### Q1 所属大学／大学院、所属課程、学年、分野

a. 大学／大学院名

- b. 所属課程 1. 学士課程（学部） 2. 博士前期（修士）課程 3. 博士後期（博士）課程  
4. 5年一貫制の博士課程

c. 課程を開始した年（西暦）を教えてください。

年

d. 分野（近いもの1つを選んでください）

理学系	1. 数学	2. 物理	3. 化学	4. 生物	5. 地学	6. 情報
	7. 理学系その他（具体的に _____ ）					
工学系	8. 機械・船舶	9. 電気・通信	10. 土木・建築	11. 応用化学		
	12. 応用物理	13. 原子力	14. 材料	15. 繊維	16. 航空	
	17. 経営工学	18. 医療工学	19. 情報工学			
	20. 工学系その他（具体的に _____ ）					
農学系	21. 農学	22. 農芸化学	23. 農業工学	24. 農業経済学	25. 林学	
	26. 獣医学・畜産学		27. 水産学			
	28. 農学系その他（具体的に _____ ）					

Q2 現在の学生種別を教えてください。留学生の方で途中で私費から国費に変わったなど種別に変更がある場合は、最も長い期間の種別をお選びください。

1. 一般学生（社会人学生・留学生を除く）      2. 社会人学生  
3. 日本政府国費留学生      4. 外国政府国費留学生      5. 私費留学生



SQ2-1 「2. 社会人学生」の方に伺います。卒業・修了後、現在お勤めの企業・機関で勤務を継続・復職する予定ですか。

1. 勤務を継続・復職する予定      2. 勤務を継続・復職する予定はない

Q3 あなたの生まれた年（西暦）を教えてください。  年

Q4 大学院生に伺います。学部生は次ページのQ6に飛んでください。

a. 学士課程を開始した年（西暦）を教えてください。  年

b. 学士課程を修了した年（西暦）を教えてください。  年

c. あなたが学位を取得した機関の所在国はどこですか。

1. 日本      2. 日本以外（具体的に \_\_\_\_\_ )

d. あなたが学士の学位を取得した大学の設置者を教えてください。

1. 国立      2. 公立      3. 私立

e. あなたが学士の学位を取得した分野は何ですか。1ページ目Q1の「d. 分野」の番号でお答えください。

Q5 博士後期（博士）課程（5年一貫制も含む）の方に伺います。博士前期（修士）課程の方は次ページのQ6に飛んでください。

a. 博士前期（修士）課程を開始した年（西暦）を教えてください。  年

b. 博士前期（修士）課程を修了した年（西暦）を教えてください。  
（5年一貫制の方はこの質問は飛ばしてください。）  年

c. あなたが学位を取得した機関の所在国はどこですか。

1. 日本      2. 日本以外（具体的に \_\_\_\_\_ )

d. あなたが修士の学位を取得した大学の設置者を教えてください。

1. 国立      2. 公立      3. 私立

e. あなたが修士の学位を取得した分野は何ですか。1ページ目Q1の「d. 分野」の番号でお答えください。

全員がお答えください。

Q6 現在、所属している課程を卒業・修了後に予定している進路として、あてはまるもの1つを選んでください。

就職	1. 正社員・正職員として就職する 2. 派遣・契約社員として就職する 3. 非常勤・臨時職員として就職する 4. 自営業／家業を継ぐ	} → Q7へ
進学	5. 専門学校、語学学校などへの進学・通学を考えている 6. 他大学、あるいは同じ大学の他学部への進学を考えている 7. 博士前期（修士）、博士後期（博士）課程への進学を考えている	
その他	8. 専業主婦になる 9. 今の時点で進路のことは考えていない 10. その他（具体的に	} → Q7へ

→ SQ6-1 進学を考えている人に伺います。進学先は日本国内を考えていますか、海外を考えていますか。あてはまるもの1つを選んでください。

1. 日本国内    2. 海外    3. どちらか迷っている    4. わからない

Q7 将来、希望する仕事について伺います。就職（希望）先は以下のどれですか。あてはまるもの1つを選んでください。

1. 教育機関（大学、大学共同利用期間、高専・短大）
2. 教育機関（幼稚園、養護学校、小・中・高等学校）
3. 教育機関（その他）
4. 公的研究機関
5. 規模の大きい民間企業（大企業）
6. 規模の小さい民間企業（中小企業）
7. 国家公務員
8. 地方公務員
9. 公益法人（社団法人、財団法人、医療法人、NPO法人等）
10. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

SQ7-1 就職は日本国内を考えていますか、海外を考えていますか。

1. 日本国内    2. 海外    3. どちらでもかまわない  
4. わからない

Q8 希望する職種（入社後のあなたの仕事内容）は何ですか。あてはまるもの1つを選んでください。

1. 研究・開発職                      2. 営業・販売職                      3. 事務職
4. 技術職                              5. 運輸・通信の職業                6. 保安・サービスの職業
7. 製造の職業・技能工    8. 教員・保育士
9. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )
10. 特に職種を意識していない

Q9 あなたは進路選択の際、どのような条件を重視しますか。重視する順に下の□から3つ選んで回答欄に記入して下さい。

1位	2位	3位

- |                               |                      |              |
|-------------------------------|----------------------|--------------|
| 1. 大学・大学院での専門分野との関連           | 2. 業種・仕事内容           | 3. 企業・機関の知名度 |
| 4. 企業・機関の将来性・安定性              | 5. 正社員かどうか           | 6. OB・OGの有無  |
| 7. ワークライフバランス（勤務時間・休暇・福利厚生など） | 8. 給料                |              |
| 9. 地元あるいは親の居住地近くでの就職          | 10. 大都市圏での就職         | 11. 日本国外での就職 |
| 12. 転勤の有無                     | 13. 自分の能力や適性と合っていること |              |
| 14. 企業・機関に女性が多いこと             |                      |              |
| 15. その他（具体的に                  |                      | )            |

Q10 あなたはすでに内定をとっていますか。

1. はい    2. いいえ    3. 社会人学生なのであてはまらない

大学院への進学希望について伺います。

Q11 実際に進学するかどうかは別にして、あなたは博士前期（修士）課程への進学を考えたことがありますか。すでに大学院に所属している方は「1. ある」に○を付けてください。

1. ある    2. ない → **次ページのQ12へ**



SQ11-1 博士前期（修士）課程への進学を考えたことがある人に伺います。あなたが進学することを考えた理由として、最もよくあてはまる選択肢と、2番目にあてはまる選択肢をお選びください。

1番目	2番目

- |                                   |                        |
|-----------------------------------|------------------------|
| 1. 専門をさらに深めたい                     | 2. 新たな知識の発見を通じて社会に貢献した |
| 3. 大学の教員や研究者として働きたい               | 4. 就職する時期を先に延ばしたい      |
| 5. 修士号を取得したい                      | 6. 専門的な人的ネットワークを広げたい   |
| 7. 国際的な業務には博士前期（修士）課程での修学が必要だと感じた |                        |
| 8. 就職先での昇進や昇給が期待される               | 9. 周りに進学する人が多かった       |
| 10. その他（具体的に                      | )                      |

SQ11-2 博士前期（修士）課程への進学を検討した際に懸念された事項として最もよくあてはまる選択肢と、2番目にあてはまる選択肢をお選びください。

1番目	2番目

- |                                |              |             |
|--------------------------------|--------------|-------------|
| 1. 博士前期（修士）課程在籍中の経済的状況（生活費や学費） |              |             |
| 2. 博士前期（修士）課程修了後の就職状況          |              |             |
| 3. 博士前期（修士）課程での不透明な修学プロセス      |              |             |
| 4. 修士号の取得可能性                   | 5. 自身の能力や資質  | 6. 指導教員との関係 |
| 7. ワークライフバランス                  | 8. 業務と修学との調整 |             |
| 9. その他（具体的に                    |              | )           |

Q12 実際に進学するかどうかは別にして、あなたは博士後期（博士）課程（5年一貫制も含む）への進学を考えたことはありますか。すでに博士後期（博士）課程に所属している方は「1. ある」を選択してください。

1. ある    2. ない → SQ12-3へ



SQ12-1 博士後期（博士）課程への進学を考えたことがある人に伺います。あなたが進学することを考えた理由として、最もよくあてはまる選択肢と、2番目にあてはまる選択肢を選んでください。

1 番目	2 番目

- |                                   |                        |
|-----------------------------------|------------------------|
| 1. 専門をさらに深めたい                     | 2. 新たな知識の発見を通じて社会に貢献した |
| 3. 大学の教員や研究者として働きたい               | 4. 就職する時期を先に延ばしたい      |
| 5. 博士号を取得したい                      | 6. 専門的な人的ネットワークを広げたい   |
| 7. 国際的な業務には博士後期（博士）課程での修学が必要だと感じた |                        |
| 8. 就職先での昇進や昇給が期待される               | 9. 周りに進学する人が多かった       |
| 10. その他（具体的に                      | )                      |

SQ12-2 博士後期（博士）課程への進学を検討した際に懸念された事項として最もよくあてはまる選択肢と、2番目にあてはまる選択肢をお選びください。

1 番目	2 番目

- |                                |              |             |
|--------------------------------|--------------|-------------|
| 1. 博士後期（博士）課程在籍中の経済的状況（生活費や学費） |              |             |
| 2. 博士後期（博士）課程修了後の就職状況          |              |             |
| 3. 博士後期（博士）課程での不透明な修学プロセス      |              |             |
| 4. 博士号の取得可能性                   | 5. 自身の能力や資質  | 6. 指導教員との関係 |
| 7. ワークライフバランス                  | 8. 業務と修学との調整 |             |
| 9. その他（具体的に                    |              | )           |

SQ12-3 全員に伺います。博士後期（博士）課程への進学ではなく、就職することを考える理由は何ですか。最もよくあてはまる選択肢と、2番目にあてはまる選択肢をお選びください。

1 番目	2 番目



- |  |   |
|--|---|
| 1. 博士後期（博士）課程進学以外の道を考えてことがないので、この問いにはあてはまらない |   |
| 2. 早くお金を稼ぎたい                                 |   |
| 3. 大学ではなく企業・機関で研究を続けたい                       |   |
| 4. 理工系の仕事に興味がない（なくなった）                       |   |
| 5. 自身に研究を続ける能力や資質がないと思う                      |   |
| 6. 博士後期（博士）課程がよく分からない                        |   |
| 7. 博士後期（博士）課程に進学しないほうが就職に有利だと思う              |   |
| 8. 就きたい職業に博士後期（博士）課程での勉強は役に立たないと思う           |   |
| 9. 博士後期（博士）課程に行くと婚期が遅れるように感じる                |   |
| 10. 指導教員との関係に不安がある                           |   |
| 11. いま所属している大学に自身の分野の博士後期（博士）課程がない           |   |
| 12. 地元（あるいは親の居住地の近く）の大学に博士後期（博士）課程がない        |   |
| 13. その他（具体的に                                 | ) |

Q13 博士号を取得したいと思いますか。

1. 思う    2. やや思う    3. あまり思わない    4. 思わない

全員に伺います。

Q14 博士号のキャリア（進路）についてどのようなイメージを持っていますか。

- 1. キャリアの可能性が広がる
- 2. キャリアの可能性が狭まる
- 3. 特にイメージは持っていない

Q15 あなたの身近に博士号をもっている人はいますか。

- 1. いる
- 2. いない → 下の Q16 へ

↓

SQ15-1 それはどなたですか。あてはまるものすべてを選んでください。

- 1. 研究室の教員
- 2. 研究室の先輩・同僚
- 3. 家族・親族
- 4. その他（具体的に )

Q16 将来的な大学院進学の可能性について伺います。博士後期（博士）課程の方は Q17 に飛んでください。

SQ16-1 学部生に伺います。卒業後すぐではなくとも、将来的に博士前期（修士）課程に進学する可能性はあると思いますか。

- 1. ある
- 2. まあある
- 3. あまりない
- 4. ない
- 5. わからない

SQ16-2 学部生および博士前期（修士）課程の学生に伺います。博士前期（修士）課程修了後すぐではなくとも、将来的に博士後期（博士）課程に進学する可能性はあると思いますか。

- 1. ある
- 2. まあある
- 3. あまりない
- 4. ない
- 5. わからない

Q17 あなたは、進路選択に対して、誰のアドバイスを重視しますか。あてはまる順に3つ選んでください。←

1位	2位	3位

- 1. 親などの保護者
- 2. きょうだい
- 3. 友だち
- 4. 配偶者・恋人
- 5. 同じ大学の研究室の教員
- 6. 同じ大学の研究室の先輩・同僚
- 7. 同じ大学の研究室以外の教員
- 8. 同じ大学の研究室以外の先輩・同僚
- 9. 他大学の教員
- 10. 他大学の先輩・同僚
- 11. 民間企業や公的研究機関に所属する方（講師や職場の方など）
- 12. 大学の職員・カウンセラー
- 13. その他（具体的に )
- 14. 誰にも相談しない

Q18 あなたの親は、あなたにどの教育段階に進むよう期待していると感じますか。

- 1. 学士課程（学部）まで
- 2. 博士前期（修士）まで
- 3. 博士後期（博士）まで
- 4. とくに期待されていない

Q19 現在のあなたに欠けており、今後のキャリアを考えたときに身につけたいと思う能力はどれですか。あてはまる順に3つ選んでください。

1位	2位	3位

- 1. 主体性（物事に進んで取り組む力）
- 2. 働きかけ力（他人に働きかけ巻き込む力）
- 3. 実行力（目的を設定し確実に行動する力）
- 4. 課題発見力（現状を分析し目的や課題を明らかにする力）
- 5. 計画力（課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力）
- 6. 創造力（新しい価値を生み出す力）
- 7. 発信力（自分の意見をわかりやすく伝える力）
- 8. 傾聴力（相手の意見を丁寧に聴く力）
- 9. 柔軟力（意見の違いや立場の違いを理解する力）
- 10. 状況把握力（自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力）
- 11. 規律力（社会のルールや人との約束を守る力）
- 12. ストレスコントロール力（ストレスの発生源に対応する力）

## 海外研修（研究）、留学、インターンシップの経験について伺います

Q20 あなたは海外研修（研究）の経験がありますか（語学研修は含まない）。

1. ある      2. ない → 下の Q21 へ



SQ20-1 海外研修（研究）にはいつ行きましたか。複数ある場合には、最も役立ったと思う海外研修（研究）についてお答えください。

1. 学士課程（学部）                  2. 博士前期（修士）課程          3. 博士後期（博士）課程  
4. 大学・大学院に所属していない時期

SQ20-2 期間はどれくらいでしたか。複数ある場合には、最も役立ったと思う海外研修（研究）についてお答えください。

1. 1ヶ月未満                              2. 1ヶ月以上2ヶ月未満          3. 2ヶ月以上3ヶ月未満  
4. 3ヶ月以上6ヶ月未満              5. 6ヶ月以上1年未満              6. 1年以上

SQ20-3 受け入れ機関はどこでしたか。複数ある場合には、最も役立ったと思う海外研修（研究）についてお答えください。

1. 教育機関      2. 公的研究機関                  3. 民間企業                  4. 官公庁  
5. 公益法人      6. 国際機関  
7. その他（具体的に                                  ）

SQ20-4 あなたの将来のキャリアにとって、海外研修（研究）の機会は、どの程度役に立ったと感じますか。

1. とても役に立った                      2. まあ役に立った  
3. あまり役に立たなかった              4. まったく役に立たなかった

Q21 あなたは留学（語学研修も含む）の経験がありますか。

1. ある      2. ない → 次ページの Q22 へ



SQ21-1 留学（語学研修も含む）にはいつ行きましたか。複数ある場合には、最も役立ったと思う海外研修（研究）についてお答えください。

1. 学部                  2. 博士前期（修士）課程          3. 博士後期（博士）課程  
4. 大学・大学院に所属していない時期

SQ21-2 期間はどれくらいでしたか。複数ある場合には、最も役立ったと思う留学（語学研修も含む）についてお答えください。

1. 1ヶ月未満                              2. 1ヶ月以上2ヶ月未満          3. 2ヶ月以上3ヶ月未満  
4. 3ヶ月以上6ヶ月未満              5. 6ヶ月以上1年未満              6. 1年以上

SQ21-3 受け入れ機関はどこでしたか。複数ある場合には、最も役立ったと思う留学（語学研修も含む）についてお答えください。

1. 語学学校      2. 大学                  3. 博士前期（修士）課程          4. 博士後期（博士）課程  
5. その他（具体的に                                  ）

SQ21-4 あなたの将来のキャリアにとって、留学（語学研修も含む）の機会は、どの程度役に立ったと感じますか。

1. とても役に立った                      2. まあ役に立った  
3. あまり役に立たなかった              4. まったく役に立たなかった

Q22 あなたはインターンシップの経験がありますか。

1. ある      2. ない → 下の Q23 へ

↓

SQ22-1 インターンシップにはいつ行きましたか。複数ある場合には、最も役立ったと思うインターンシップについてお答えください。

1. 学部      2. 博士前期（修士）課程      3. 博士後期（博士）課程  
4. 大学・大学院に所属していない時期

SQ22-2 期間はどれくらいでしたか。複数ある場合には、最も役立ったと思うインターンシップについてお答えください。

1. 3日未満      2. 1週間未満      3. 1週間以上2週間未満  
4. 2週間以上3週間未満      5. 3週間以上1ヶ月未満      6. 1ヶ月以上3ヶ月未満  
7. 3ヶ月以上6ヶ月未満      8. 6ヶ月以上

SQ22-3 受け入れ機関はどこでしたか。複数ある場合には、最も役立ったと思うインターンシップについてお答えください。

1. 教育機関      2. 公的研究機関      3. 民間企業      4. 官公庁  
5. 公益法人      6. 国際機関  
7. その他（具体的に \_\_\_\_\_）

SQ22-4 あなたの将来のキャリアにとって、インターンシップの機会は、どの程度役に立ったと感じますか。

1. とても役に立った      2. まあ役に立った  
3. あまり役に立たなかった      4. まったく役に立たなかった

Q23 いま所属している大学・大学院で、女性のライフイベント（出産・育児など）を意識したキャリア教育やキャリア支援はありますか。

1. ある      2. ない      3. 大学でやっているかどうかを知らない

↓

SQ23-1 利用したことはありますか。

1. ある      2. ない

Q24 女性のライフイベントを意識したキャリア教育やキャリア支援を受けたいと思いますか。

1. そう思う      2. まあそう思う      3. あまりそう思わない      4. そう思わない

Q25 あなたの結婚（事実婚を含む）の状態を選んでください。

1. 結婚している（同居）      2. 結婚している（別居）      3. 結婚していない

Q26 扶養義務の有無に関わらず、あなたが養っている家族（子どもと、配偶者以外の大人の双方を含む）はいまですか。

1. いる      2. いない

Q26-1 養っている家族の年齢別の人数を教えてください。

a. 5歳以下	人
b. 6歳以上16歳以下	人
c. 19歳以上	人



Q27 あなたには現在、介護が必要な家族がいますか。

1. いる            2. いない    → 下の Q28 へ



SQ27-1 その方の要介護認定は何ですか。複数名いる場合には要介護度の重い方についてお答えください。

1. 要支援1    2. 要支援2    3. 要介護1    4. 要介護2    5. 要介護3  
6. 要介護4    7. 要介護5    8. わからない

SQ27-2 あなた自身はその家族を介助していますか。

1. 中心的に携わっている    2. 補助的に携わっている    3. 携わっていない

Q28 社会人としての勤務経験はお持ちですか。勤務経験をお持ちの場合、その期間はどのくらいですか。

※なお、社会人としての勤務経験とは経常的な収入を目的とする仕事に就くことであり、例えばアルバイトやパート等の臨時的な収入を目的に仕事に就くことは含みません。

1. 勤務経験はない  
2. 1年未満                      3. 1年以上3年未満                      4. 3年以上5年未満  
5. 5年以上

以下は大学院生の上に伺います。学部生への質問は以上です。ご協力をありがとうございました。

Q29 大学院の選択において、何を重視しましたか。重視した順に下記の□から3つずつ選んでください。

※博士前期（修士）課程の方は「a. 博士前期（修士）課程」のみお答えください。5年一貫制の方は「b. 博士後期（博士）課程」のみお答えください。

	1位	2位	3位
a. 博士前期（修士）課程			
b. 博士後期（博士）課程 （5年一貫制の方はこちら）			

1. 現在、所属している機関（大学、大学院）と同じ  
2. 学費が安い                      3. 大学の知名度                      4. 旧帝国大学であること  
5. 国立であること                      6. 公立であること                      7. 私立であること  
8. 女子大であること                      9. 英語で授業を受けられること  
10. 研究したい分野があること                      11. 指導してもらいたい教員がいること  
12. 地元（あるいは親の居住地の近く）にあること  
13. 大都市圏（首都圏、関西圏、名古屋）にあること  
14. その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

Q30 大学院で学費の免除を受けましたか。

博士前期（修士）課程	1. 受けた	2. 受けなかった	3. わからない
博士後期（博士）課程 （5年一貫制の方はこちら）	1. 受けた	2. 受けなかった	3. わからない

Q31 博士前期（修士）・博士後期（博士）課程に進学し課程を継続するために利用した資金種別のうち、主要な順に3つまでお答えください。

	1位	2位	3位
a. 博士前期（修士）課程			
b. 博士後期（博士）課程 （5年一貫制の方はこちら）			

- |                  |               |                        |
|------------------|---------------|------------------------|
| 1. フェロシップ        | 2. 奨学金（返済義務有） | 3. 奨学金（返済義務無）          |
| 4. TA            | 5. RA         | 6. インターンシップ            |
| 7. 借入金           | 8. あなた自身の個人資金 | 9. 課程中の上記以外の所得（アルバイト等） |
| 10. 家族の援助        | 11. 雇用主の負担    | 12. 日本以外の国からの支援        |
| 13. 日本学術振興会からの支援 |               |                        |
| 14. その他（具体的に     |               | )                      |

Q32 大学院での修学に関して、良かった点を博士前期（修士）課程在籍時、博士後期（博士）課程在籍時の別に、あてはまる順に3つ選んでください。

※博士前期（修士）課程の方は「a. 博士前期（修士）課程」のみお答えください。5年一貫制の方は「b. 博士後期（博士）課程」のみお答えください。

	1位	2位	3位
a. 博士前期（修士）課程			
b. 博士後期（博士）課程 （5年一貫制の方はこちら）			

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. 専門的知識・能力を身につけた               |
| 2. 論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた |
| 3. コミュニケーション力など対人能力を身につけた       |
| 4. 専門だけでなく幅広い知識を身につけた           |
| 5. 研究・学問的満足感を得た                 |
| 6. 知人や友人など人脈形成に役立った             |
| 7. 就職に必要もしくは有利だった               |
| 8. 学位を取得した（修士号・博士号）             |
| 9. その他（具体的に                     |
| )                               |

Q33 大学院での修学に関して、不満点を博士前期（修士）課程在籍時、博士後期（博士）課程在籍時の別に、あてはまる順に3つ選んでください。

※博士前期（修士）課程の方は「a. 博士前期（修士）課程」のみお答えください。5年一貫制の方は「b. 博士後期（博士）課程」のみお答えください。

	1位	2位	3位
a. 博士前期（修士）課程			
b. 博士後期（後期）課程 （5年一貫制の方はこちら）			

- |                             |
|-----------------------------|
| 1. 授業など教育内容が不満だった           |
| 2. 指導教員やその他関係する教員の指導が不十分だった |
| 3. 外部との接点が少なく閉鎖的であった        |
| 4. 就職に関するサポートが不十分だった        |
| 5. 経済的支援の内容が不十分だった          |
| 6. 進学時の期待が満足されなかった          |
| 7. 自分自身の問題や反省点が多かった         |
| 8. その他（具体的に                 |
| )                           |

博士後期（博士）課程および5年一貫制課程に所属している方に伺います。

博士前期（修士）課程の方への質問は以上です。ご協力をありがとうございました。

Q34 博士後期（博士）課程および5年一貫制課程に所属している方に伺います。あなたは博士後期（博士）課程を修了される際、博士号を取得している予定ですか。

1. 予定あり（見込みを含む） 2. 予定なし

Q35 現時点で満期退学等で博士号を取得（見込みを含む）せずに修了される場合、その理由として最も当てはまるものを最大で2つまでお選びください。

--	--

- |                  |                 |                   |
|------------------|-----------------|-------------------|
| 1. 博士号取得前に就職先が決定 | → SQ35-1へ       |                   |
| 2. 修業年限の超過       | 3. 経済的困難        | 4. 業務や家事等の学業以外の多忙 |
| 5. 健康上の理由        | 6. 保育・介護等の家庭の事情 | 7. 研究課題への興味喪失     |
| 8. 研究課題の実現が困難    | 9. 指導の欠如        |                   |
| 10. その他（具体的に     |                 | ）                 |

SQ35-1 「1. 博士号取得前に就職先が決定」を選択した方に伺います。将来的に博士号を取る予定はありますか。

1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない

質問は以上です。

ご協力をありがとうございました。

Q1-b 所属課程	有効回答数(N)	合計	所属課程※1			分野			
			学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制※2	理学系	工学系	農学系	
			230	255	90	272	265	39	
		人数	%						
		576	40.0%						
Q1-b 所属課程	学士課程(学部)	271	40.0%				39.1%	42.3%	30.8%
	博士前期(修士)課程	265	44.3%				43.2%	44.9%	48.7%
	博士後期(博士)課程、5年一貫制	39	15.7%				17.7%	12.8%	20.5%
Q1-c 学年	1年	167	29.0%		1.7%	50.2%			37.8%
	2年	145	25.2%		1.3%	45.5%			28.9%
	3年	98	17.0%		33.9%	1.2%			18.9%
	4年	136	23.6%		57.0%	0.0%			5.6%
	それ以上	17	3.0%		3.9%	0.8%			6.7%
	無回答	13	2.3%		2.2%	2.4%			2.2%
Q1-d 分野	理学系	272	47.2%		46.1%	45.9%			53.3%
	工学系	265	46.0%		48.7%	46.7%			37.8%
	農学系	39	6.8%		5.2%	7.5%			8.9%
Q2 学生種別	一般学生	541	93.9%						
	社会人学生	6	1.0%						
	日本政府国費留学生	7	1.2%						
	外国政府国費留学生	1	0.2%						
	私費留学生	20	3.5%						
	無回答	1	0.2%						
SQ2-1 社会人学生の方は、卒業・修了後、現在お勤めの企業・機関で勤務を継続・復職する予定ですか	勤務を継続・復職する予定	6	100.0%						
	勤務を継続・復職する予定はない	0	0.0%						
Q3 生まれた年(年齢)	1969年～1979年 (30代後半、40代前半)	5	0.9%						
	1980年～1984年 (30代前半)	11	1.9%						
	1985年～1989年 (20代後半)	95	16.5%						
	1990年～1994年 (20代前半)	462	80.2%						
	無回答	3	0.5%						

※1 所属課程については、無回答が1名いたため、所属課程別の分析ではN=575人で計算している。

※2 5年一貫制の学生が少なかったため、博士後期(博士)課程のカテゴリーと統合させている。

	有効回答数(N)	合計	所属課程			分野		
			学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
Q4-a	1988年～1999年 2000年～2004年 2005年～2009年 2010年～2014年 無回答	345 5 10 201 123 6						
Q4-b	1992年～1999年 2000年～2004年 2005年～2009年 2010年～2014年 無回答	4 4 12 311 14						
Q4-c	日本 日本以外 無回答	321 21 3						
Q4-d	国立 公立 私立 無回答	291 19 32 3						
Q4-e	理学系 工学系 農学系 無回答	165 145 31 4						

	有効回答数(N)	所属課程	分野		
			理学系	工学系	農学系
	合計	学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	
Q5-a	修士課程を開始した年				
	有効回答数(N)				
	1992年～1999年		2	2.2%	
	2000年～2004年		2	2.2%	
	2005年～2009年		9	10.0%	
	2010年～2014年		68	75.6%	
	無回答		9	10.0%	
Q5-b	修士課程を修了した年				
	有効回答数(N)				
	1994年～1999年		2	2.4%	
	2000年～2004年		5	5.9%	
	2005年～2009年		69	81.2%	
	2010年～2014年		9	10.6%	
Q5-c	修士を取得した機関の 所在国				
	有効回答数(N)				
	日本		80	88.9%	
	日本以外		5	5.6%	
	無回答		5	5.6%	
Q5-d	修士を取得した大学の 設置者				
	有効回答数(N)				
	国立		78	13.5%	
	公立		4	0.7%	
	私立		2	0.3%	
	無回答		6	1.0%	
Q5-e	修士の学位を取得した 分野				
	有効回答数(N)				
	理学系		48	53.3%	
	工学系		28	31.1%	
	農学系		8	8.9%	
	無回答		6	6.7%	

	合計	所属課程			分野				
		人数	%	学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
				230	255	90	272	265	39
有効回答数(N)		576	%						
Q6	現在、所属している課程を卒業・修了後に予定している進路	396	68.8%	43.9%	88.6%	76.7%	64.0%	72.1%	79.5%
	進学	148	25.7%	52.2%	10.2%	2.2%	29.0%	23.4%	17.9%
	その他	22	3.8%	1.3%	0.4%	18.9%	5.5%	2.3%	2.6%
	無回答	10	1.7%	2.6%	0.8%	2.2%	1.5%	2.3%	0.0%
Q7	就職希望先はどれですか	55	9.5%	3.9%	3.9%	40.0%	13.2%	4.5%	17.9%
	教育機関(大学、高専・短大など)	20	3.5%	3.9%	3.5%	2.2%	6.3%	0.8%	2.6%
	教育機関(小・中・高等学校など)	3	0.5%	0.9%	0.4%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
	教育機関(その他)	38	6.6%	7.8%	3.1%	12.2%	8.5%	5.7%	0.0%
	公的研究機関	299	51.9%	48.3%	62.0%	33.3%	45.6%	61.5%	30.8%
	大企業	99	17.2%	23.5%	16.5%	3.3%	13.6%	18.9%	30.8%
	中小企業	11	1.9%	2.6%	1.6%	1.1%	2.2%	1.1%	5.1%
	国家公務員	32	5.6%	6.5%	5.5%	3.3%	4.4%	5.7%	12.8%
	地方公務員	7	1.2%	0.4%	1.6%	2.2%	1.5%	1.1%	0.0%
	公益法人	7	1.2%	0.9%	1.6%	1.1%	2.2%	0.4%	0.0%
	その他	5	0.9%	1.3%	0.4%	1.1%	1.5%	0.4%	0.0%
	無回答	427	74.1%	78.3%	79.6%	48.9%	72.4%	76.2%	71.8%
Q7-1	就職先の国	11	1.9%	2.2%	0.4%	5.6%	1.8%	2.3%	0.0%
	日本国内	124	21.5%	18.3%	18.0%	38.9%	23.5%	18.9%	25.6%
	海外	8	1.4%	0.9%	0.4%	5.6%	0.0%	2.3%	0.0%
	どちらでもかまわない	6	1.0%	0.4%	1.6%	1.1%	1.5%	0.0%	2.6%
	わからない	276	47.9%	37.0%	50.6%	68.9%	52.6%	43.0%	48.7%
	無回答	15	2.6%	4.8%	1.2%	1.1%	1.8%	3.0%	5.1%
Q8	希望する職種は何ですか	18	3.1%	3.5%	2.7%	3.3%	3.7%	2.3%	5.1%
	研究・開発職	152	26.4%	31.7%	29.4%	4.4%	17.6%	37.0%	15.4%
	営業・販売職	1	0.2%	0.4%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%
	事務職	1	0.2%	0.0%	0.4%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%
	技術職	6	1.0%	1.3%	1.2%	0.0%	0.4%	1.5%	2.6%
	運輸・通信の職業	32	5.6%	4.8%	4.3%	11.1%	8.8%	1.9%	7.7%
	保安・サービスの職業	23	4.0%	5.2%	2.7%	4.4%	4.4%	3.8%	2.6%
	製造の職業・技能工	47	8.2%	10.4%	6.7%	5.6%	8.8%	6.8%	12.8%
	教員・保育士	5	0.9%	0.9%	0.8%	1.1%	1.1%	0.8%	0.0%
	その他								
	特に職種を意識していない								
	無回答								

有効回答数(N)	合計	所属課程			分野					
		人数	%	学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系	
				230	255	90	272	265	39	
Q9	あなたには進路選択の際、どのような条件を重視しますか(1位)	576	12.0%	8.7%	8.2%	31.1%	15.1%	9.1%	10.3%	
	大学・大学院での専門分野との関連	69	12.0%	8.7%	8.2%	31.1%	15.1%	9.1%	10.3%	
	業種・仕事内容	184	31.9%	30.0%	36.5%	24.4%	32.7%	31.7%	28.2%	
	企業・機関の知名度	1	0.2%	0.4%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	
	企業・機関の将来性・安定性	40	6.9%	10.0%	6.7%	0.0%	7.7%	7.2%	0.0%	
	正社員かどうか	44	7.6%	7.8%	7.8%	6.7%	7.0%	7.5%	12.8%	
	OB・OGの有無	1	0.2%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.4%	0.0%	
	ワークライフバランス	61	10.6%	10.9%	12.9%	3.3%	8.8%	12.8%	7.7%	
	給料	10	1.7%	2.6%	1.6%	0.0%	0.7%	2.3%	5.1%	
	地元あるいは親の居住地の近くでの就職	26	4.5%	4.3%	4.3%	5.6%	3.3%	6.4%	0.0%	
	大都市圏での就職	5	0.9%	1.3%	0.8%	0.0%	0.7%	1.1%	0.0%	
	日本国外での就職	3	0.5%	0.4%	0.0%	2.2%	0.0%	1.1%	0.0%	
	転勤の有無	6	1.0%	0.4%	1.6%	1.1%	1.1%	1.1%	0.0%	
	自分の能力や適性と合っていること	119	20.7%	21.7%	18.8%	22.2%	21.0%	18.5%	33.3%	
	企業・機関に女性が多いこと	1	0.2%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	
	その他	4	0.7%	0.9%	0.4%	1.1%	0.7%	0.4%	2.6%	
	無回答	2	0.3%	0.0%	0.4%	1.1%	0.7%	0.0%	0.0%	
	Q9	あなたには進路選択の際、どのような条件を重視しますか(2位)	576	10.9%	8.3%	13.3%	10.0%	11.0%	10.9%	10.3%
	大学・大学院での専門分野との関連	63	10.9%	8.3%	13.3%	10.0%	11.0%	10.9%	10.3%	
	業種・仕事内容	108	18.8%	16.5%	16.9%	30.0%	19.1%	17.7%	23.1%	
	企業・機関の知名度	9	1.6%	1.3%	1.6%	2.2%	1.8%	1.5%	0.0%	
	企業・機関の将来性・安定性	55	9.5%	9.1%	11.4%	5.6%	10.3%	9.1%	7.7%	
	正社員かどうか	26	4.5%	7.0%	3.9%	0.0%	4.4%	2.6%	17.9%	
	OB・OGの有無	3	0.5%	0.4%	0.4%	1.1%	0.0%	0.8%	2.6%	
	ワークライフバランス	121	21.0%	23.0%	22.0%	13.3%	14.7%	27.9%	17.9%	
	給料	35	6.1%	7.0%	5.1%	6.7%	7.7%	4.9%	2.6%	
	地元あるいは親の居住地の近くでの就職	12	2.1%	1.7%	2.7%	1.1%	3.3%	1.1%	0.0%	
	大都市圏での就職	15	2.6%	2.2%	2.7%	3.3%	4.0%	1.1%	2.6%	
	日本国外での就職	4	0.7%	0.0%	0.8%	2.2%	0.7%	0.8%	0.0%	
	転勤の有無	15	2.6%	3.9%	2.4%	0.0%	1.5%	4.2%	0.0%	
	自分の能力や適性と合っていること	103	17.9%	18.7%	15.3%	23.3%	19.9%	16.2%	15.4%	
	企業・機関に女性が多いこと	5	0.9%	0.9%	1.2%	0.0%	0.7%	1.1%	0.0%	
	その他	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	無回答	2	0.3%	0.0%	0.4%	1.1%	0.7%	0.0%	0.0%	



	合計	所属課程			分野				
		人数	%	学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
				230	255	90	272	265	39
有効回答数(N)		576	%						
Q9	あなたは進路選択の際、どのような条件を重視しますか(3位)	66	11.5%	10.7%	10.6%	23.1%	10.7%	10.6%	23.1%
	大学・大学院での専門分野との関連	76	13.2%	13.2%	13.6%	10.3%	13.2%	13.6%	10.3%
	業種・仕事内容	14	2.4%	2.9%	2.3%	0.0%	2.9%	2.3%	0.0%
	企業・機関の知名度	89	15.5%	13.6%	16.6%	20.5%	13.6%	16.6%	20.5%
	企業・機関の将来性・安定性	20	3.5%	3.7%	3.8%	0.0%	3.7%	3.8%	0.0%
	正社員かどうか	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	OB・OGの有無	107	18.6%	18.8%	17.7%	23.1%	18.8%	17.7%	23.1%
	ワークライフバランス	56	9.7%	9.2%	9.8%	12.8%	9.2%	9.8%	12.8%
	給料	31	5.4%	6.3%	5.3%	0.0%	6.3%	5.3%	0.0%
	地元あるいは親の居住地の近くでの就職	11	1.9%	1.1%	3.0%	0.0%	1.1%	3.0%	0.0%
	大都市圏での就職	5	0.9%	1.8%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%	0.0%
	日本国外での就職	13	2.3%	1.5%	3.0%	2.6%	1.5%	3.0%	2.6%
	転勤の有無	67	11.6%	14.0%	10.2%	5.1%	14.0%	10.2%	5.1%
	自分の能力や適性と合っていること	13	2.3%	1.1%	3.4%	2.6%	1.1%	3.4%	2.6%
	企業・機関に女性が多いこと	4	0.7%	1.1%	0.4%	0.0%	1.1%	0.4%	0.0%
	その他	4	0.7%	1.1%	0.4%	0.0%	1.1%	0.4%	0.0%
	無回答	170	29.5%	25.2%	40.8%	8.9%	24.6%	34.7%	28.2%
Q10	あなたはすでに内定をとっていますか	394	68.4%	74.3%	58.8%	80.0%	73.5%	63.0%	69.2%
	はい	6	1.0%	0.0%	0.0%	6.7%	0.7%	1.1%	2.6%
	いいえ	6	1.0%	0.4%	0.4%	4.4%	1.1%	1.1%	0.0%
	社会人学生なのであてはまらない	525	91.1%	80.4%	98.8%	96.7%	93.4%	89.1%	89.7%
	無回答	39	6.8%	17.0%	0.0%	0.0%	4.8%	8.3%	10.3%
Q11	あなたは博士前期課程(修士)への進学を考えたことがありますか	12	2.1%	2.6%	1.2%	3.3%	1.8%	2.6%	0.0%
	ある								
	ない								
	無回答								

	合計	所属課程			分野		
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
		230	255	90	272	265	39
有効回答数(N)	576	%	%	%	%	%	%
SQ11-1 あなたが博士前期(修士)課程に進学することを考えた理由(1番目)	265 39 40 23 43 3 11 38 32 12 19	50.5% 7.4% 7.6% 4.4% 8.2% 0.6% 2.1% 7.2% 6.1% 2.3% 3.6%	47.6% 9.7% 9.7% 3.8% 9.2% 1.1% 1.1% 9.7% 4.9% 3.2% 0.0%	55.2% 5.7% 14.9% 1.1% 5.7% 0.0% 4.6% 1.1% 4.6% 1.1% 5.7%	54.7% 7.1% 8.7% 2.0% 7.1% 0.4% 1.6% 6.3% 5.1% 2.8% 4.3%	46.2% 8.1% 4.7% 6.8% 9.7% 0.8% 2.1% 8.9% 7.6% 2.1% 3.0%	48.6% 5.7% 20.0% 5.7% 5.7% 0.0% 5.7% 2.9% 2.9% 0.0% 2.9%
専門をさらに深めたい 新たな知識の発見を通じて社会に貢献したい 大学の教員や研究者として働きたい 就職する時期を先に延ばしたい 修士号を取得したい 専門的な人的ネットワークを広げたい 国際的な業務には博士前期(修士)課程での修学が必要だと感じた 就職先での昇進や昇給が期待される 周りに進学する人が多かった その他 無回答	86 83 38 55 64 14 28 44 80 8 25	16.4% 15.8% 7.2% 10.5% 12.2% 2.7% 5.3% 8.4% 15.2% 1.5% 4.8%	17.8% 18.4% 6.5% 12.4% 6.5% 2.7% 4.3% 10.3% 19.5% 0.5% 1.1%	13.8% 12.6% 17.2% 4.6% 19.5% 3.4% 8.0% 6.9% 6.9% 0.0% 6.9%	17.3% 14.6% 9.4% 8.7% 13.8% 2.4% 3.1% 9.4% 14.2% 1.6% 5.5%	14.0% 18.2% 4.7% 10.6% 11.4% 3.4% 6.8% 8.1% 16.9% 1.7% 4.2%	25.7% 8.6% 8.6% 22.9% 5.7% 0.0% 11.4% 2.9% 11.4% 0.0% 2.9%
あなたが博士前期(修士)課程に進学することを考えた理由(2番目)							

	有効回答数(N)	合計	所属課程			分野			
			学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系	
			230	255	90	272	265	39	
		人数	%	%	%	%	%	%	
SQ11-2 博士前期(修士)課程 への進学を検討した際 に懸念された事項 (1番目)	修士課程在学中の経済的状況 修士課程修了後の就職状況 修士課程での不透明な修学プロセス 修士号の取得可能性 自身の能力や資質 指導教員との関係 ワークライフバランス 業務と修学との調整 その他 無回答	177	33.7%	29.7%	32.9%	43.7%	35.4%	30.9%	40.0%
		88	16.8%	15.1%	18.7%	14.9%	17.7%	16.1%	14.3%
		16	3.0%	4.3%	3.2%	0.0%	2.4%	3.8%	2.9%
		5	1.0%	0.5%	0.4%	3.4%	1.2%	0.8%	0.0%
		171	32.6%	36.2%	32.5%	25.3%	33.1%	32.2%	31.4%
		16	3.0%	2.2%	3.2%	4.6%	2.4%	3.8%	2.9%
		24	4.6%	7.6%	3.6%	1.1%	3.1%	6.4%	2.9%
		1	0.2%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%
		12	2.3%	3.8%	1.6%	1.1%	1.6%	3.4%	0.0%
		15	2.9%	0.5%	3.6%	5.7%	3.1%	2.1%	5.7%
		90	17.1%	21.6%	14.7%	14.9%	16.5%	18.6%	11.4%
		105	20.0%	20.5%	19.8%	18.4%	25.6%	12.7%	28.6%
		20	3.8%	3.8%	4.0%	3.4%	3.5%	4.2%	2.9%
		21	4.0%	5.4%	3.2%	3.4%	3.1%	5.1%	2.9%
135	25.7%	24.3%	25.0%	31.0%	25.2%	27.1%	20.0%		
48	9.1%	8.1%	9.9%	9.2%	7.9%	8.9%	20.0%		
45	8.6%	7.6%	11.1%	3.4%	9.1%	8.9%	2.9%		
12	2.3%	2.2%	3.2%	0.0%	0.8%	3.8%	2.9%		
16	3.0%	3.2%	2.4%	4.6%	2.0%	4.7%	0.0%		
33	6.3%	3.2%	6.7%	11.5%	6.3%	5.9%	8.6%		
Q12 博士後期(博士)課程 への進学を考えたこと はありますか	ある ない 無回答	245	42.5%	25.2%	38.4%	53.3%	29.1%	59.0%	
		324	56.3%	73.5%	60.8%	45.6%	69.8%	38.5%	
		7	1.2%	1.3%	0.8%	1.1%	1.1%	2.6%	

	合計	所属課程			分野			
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系	
		230	255	90	272	265	39	
有効回答数(N)	576	%	%	%	%	%	%	
SQ12-1 あなたが博士後期(博士)課程へ進学することを考えた理由(1番目)	114 28 54 5 17 1 15 2 4 5	46.5% 11.4% 22.0% 2.0% 6.9% 0.4% 6.1% 0.8% 1.6% 2.0%	43.1% 12.1% 31.0% 0.0% 6.9% 1.7% 5.2% 0.0% 0.0% 0.0%	50.0% 14.3% 14.3% 3.1% 9.2% 0.0% 4.1% 1.0% 3.1% 1.0%	44.3% 8.0% 25.0% 2.3% 4.5% 0.0% 9.1% 1.1% 1.1% 4.5%	52.4% 9.0% 22.8% 2.1% 3.4% 0.7% 5.5% 0.7% 2.1% 1.4%	39.0% 16.9% 16.9% 2.6% 10.4% 0.0% 7.8% 1.3% 1.3% 3.9%	34.8% 8.7% 34.8% 0.0% 17.4% 0.0% 4.3% 0.0% 0.0% 0.0%
あなたが博士後期(博士)課程へ進学することを考えた理由(2番目)	62 35 52 5 46 4 23 5 5 8	25.3% 14.3% 21.2% 2.0% 18.8% 1.6% 9.4% 2.0% 2.0% 3.3%	32.8% 15.5% 22.4% 1.7% 17.2% 0.0% 6.9% 1.7% 0.0% 1.7%	21.4% 14.3% 21.4% 2.0% 17.3% 3.1% 9.2% 4.1% 5.1% 2.0%	25.0% 12.5% 20.5% 2.3% 21.6% 1.1% 11.4% 0.0% 0.0% 5.7%	23.4% 15.9% 23.4% 2.8% 20.7% 2.1% 6.2% 0.7% 2.8% 2.1%	23.4% 13.0% 16.9% 1.3% 16.9% 1.3% 15.6% 3.9% 1.3% 6.5%	43.5% 8.7% 21.7% 0.0% 13.0% 0.0% 8.7% 4.3% 0.0% 0.0%

	有効回答数(N)	合計 人数	所属課程			分野		
			学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
			230	255	90	272	265	39
		576	%	%	%	%	%	%
SQ12-2	博士後期(博士)課程 への進学を検討した際 に懸念された事項 (1番目)	77	31.4%	25.5%	33.0%	34.5%	24.7%	34.8%
	博士課程在学中の経済的状况	70	28.6%	32.7%	23.9%	28.3%	29.9%	26.1%
	博士課程修了後の就職状况	2	0.8%	0.0%	1.1%	0.0%	1.3%	4.3%
	博士課程での不透明な修学プロセス	17	6.9%	6.1%	11.4%	8.3%	5.2%	4.3%
	博士号の取得可能性	61	24.9%	29.6%	20.5%	22.1%	28.6%	30.4%
	自身の能力や資質	2	0.8%	0.0%	2.3%	1.4%	0.0%	0.0%
	指導教員との関係	10	4.1%	5.1%	2.3%	3.4%	6.5%	0.0%
	ワークライフバランス	1	0.4%	0.0%	1.1%	0.7%	0.0%	0.0%
	業務と修学との調整	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	その他	5	2.0%	1.0%	4.5%	1.4%	3.9%	0.0%
	無回答	63	25.7%	31.6%	22.7%	23.4%	32.5%	17.4%
	博士後期(博士)課程 への進学を検討した際 に懸念された事項 (2番目)	65	26.5%	31.6%	20.5%	27.6%	23.4%	30.4%
	博士課程在学中の経済的状况	7	2.9%	2.0%	3.4%	4.1%	0.0%	4.3%
	博士課程修了後の就職状况	22	9.0%	8.2%	12.5%	7.6%	10.4%	13.0%
	博士課程での不透明な修学プロセス	44	18.0%	16.3%	19.3%	20.0%	13.0%	21.7%
	博士号の取得可能性	10	4.1%	3.1%	5.7%	4.8%	3.9%	0.0%
	自身の能力や資質	15	6.1%	4.1%	3.4%	7.6%	2.6%	8.7%
	指導教員との関係	6	2.4%	1.0%	3.4%	0.7%	5.2%	4.3%
	ワークライフバランス	6	2.4%	1.0%	2.3%	2.8%	2.6%	0.0%
	業務と修学との調整	7	2.9%	1.0%	6.8%	1.4%	6.5%	0.0%
	その他							
	無回答							

	有効回答数(N)	合計		所属課程			分野		
		人数	%	学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
		576	%	230	255	90	272	265	39
SQ12-3 博士後期(博士)課程への進学ではなく、就職することを考える理由はなんですか(1番目)	博士課程の進学を考えている 早くお金を稼ぎたい 企業・機関で研究を続けたい 理工系の仕事に興味がない 自身に研究を続ける能力や資質がない 博士課程がよく分らない 博士課程に進学しないほうが就職に有利 就きたい職業に博士課程での勉強は役に立たない 婚期が遅れそう 指導教員との関係に不安 所属大学に博士課程がない 地元の大学に博士課程がない その他 無回答	10 112 36 17 126 20 81 25 74 10 2 1 14 48	1.7% 19.4% 6.3% 3.0% 21.9% 3.5% 14.1% 4.3% 12.8% 1.7% 0.3% 0.2% 2.4% 8.3%	2.2% 18.7% 7.0% 3.9% 23.0% 4.8% 13.9% 5.7% 12.6% 0.4% 0.4% 0.0% 2.6% 4.8%	1.2% 22.7% 4.3% 2.7% 25.9% 2.4% 14.9% 4.3% 14.1% 2.0% 0.4% 0.4% 2.0% 2.7%	36.7% 17.8% 4.4% 1.1% 13.3% 1.1% 10.0% 1.1% 2.0% 3.3% 0.0% 0.0% 3.3% 7.8%	11.4% 26.5% 9.6% 1.5% 23.9% 1.1% 14.7% 1.8% 2.6% 0.7% 0.0% 0.0% 4.4% 1.8%	9.1% 27.9% 9.4% 1.5% 21.9% 1.5% 12.8% 3.0% 7.2% 0.4% 0.8% 0.0% 3.0% 1.5%	5.1% 38.5% 5.1% 0.0% 25.6% 5.1% 12.8% 0.0% 5.1% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 2.6%
博士後期(博士)課程への進学ではなく、就職することを考える理由はなんですか(2番目)	博士課程の進学を考えている 早くお金を稼ぎたい 企業・機関で研究を続けたい 理工系の仕事に興味がない 自身に研究を続ける能力や資質がない 博士課程がよく分らない 博士課程に進学しないほうが就職に有利 就きたい職業に博士課程での勉強は役に立たない 婚期が遅れそう 指導教員との関係に不安 所属大学に博士課程がない 地元の大学に博士課程がない その他 無回答	10 112 36 17 126 20 81 25 74 10 2 1 14 48	1.7% 19.4% 6.3% 3.0% 21.9% 3.5% 14.1% 4.3% 12.8% 1.7% 0.3% 0.2% 2.4% 8.3%	2.2% 18.7% 7.0% 3.9% 23.0% 4.8% 13.9% 5.7% 12.6% 0.4% 0.4% 0.0% 2.6% 4.8%	1.2% 22.7% 4.3% 2.7% 25.9% 2.4% 14.9% 4.3% 14.1% 2.0% 0.4% 0.4% 2.0% 2.7%	36.7% 17.8% 4.4% 1.1% 13.3% 1.1% 10.0% 1.1% 2.0% 3.3% 0.0% 0.0% 3.3% 7.8%	11.4% 26.5% 9.6% 1.5% 23.9% 1.1% 14.7% 1.8% 2.6% 0.7% 0.0% 0.0% 4.4% 1.8%	9.1% 27.9% 9.4% 1.5% 21.9% 1.5% 12.8% 3.0% 7.2% 0.4% 0.8% 0.0% 3.0% 1.5%	5.1% 38.5% 5.1% 0.0% 25.6% 5.1% 12.8% 0.0% 5.1% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 2.6%

	合計	所属課程			分野				
		学士課程 (学部)		博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制		理学系	工学系	農学系
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
有効回答数(N)	576	230	255	90	272	265	39		
SQ13 博士号を取得したいと思えますか	138 24.0%	9.6%	13.7%	88.9%	29.0%	17.4%	33.3%		
	126 21.9%	21.7%	27.1%	7.8%	24.3%	19.2%	23.1%		
	157 27.3%	34.3%	30.2%	1.1%	24.3%	30.9%	23.1%		
	149 25.9%	32.6%	29.0%	0.0%	21.7%	30.9%	20.5%		
	6 1.0%	1.7%	0.0%	2.2%	0.7%	1.5%	0.0%		
Q14 博士号のキャリア(進路)についてどのようなイメージを持っていますか	148 25.7%	24.8%	19.2%	46.7%	21.3%	29.1%	33.3%		
	289 50.2%	44.3%	60.8%	34.4%	54.8%	44.2%	59.0%		
	133 23.1%	29.1%	20.0%	16.7%	22.8%	25.7%	7.7%		
	6 1.0%	1.7%	0.0%	2.2%	1.1%	1.1%	0.0%		
Q15 身近に博士号をもっている人はいるか	382 66.3%	52.2%	70.6%	90.0%	66.2%	65.7%	71.8%		
	190 33.0%	46.5%	29.4%	8.9%	33.1%	33.6%	28.2%		
	4 0.7%	1.3%	0.0%	1.1%	0.7%	0.8%	0.0%		
有効回答数(N)	382	120	180	81	180	174	28		
SQ15-1 それはどなたですか	139 36.2%	29.2%	18.3%	9.9%	17.2%	24.1%	10.7%		
	243 63.1%	70.8%	81.7%	90.1%	82.8%	75.9%	89.3%		
	139 36.2%	54.2%	32.8%	17.3%	38.3%	36.8%	21.4%		
	243 63.8%	45.8%	67.2%	82.7%	61.7%	63.2%	78.6%		
	290 75.9%	70.0%	82.8%	69.1%	75.6%	77.0%	71.4%		
	92 24.1%	30.0%	17.2%	30.9%	24.4%	23.0%	28.6%		
	337 88.2%	89.2%	92.2%	77.8%	86.7%	87.9%	100.0%		
	45 11.8%	10.8%	7.8%	22.2%	13.3%	12.1%	0.0%		
有効回答数(N)	230	230			106	112	12		
SQ16-1 将来的に、博士前期(修士)課程に進学する可能性はあると思いますか	121 52.6%	52.6%			58.5%	48.2%	41.7%		
	23 10.0%	10.0%			9.4%	11.6%	0.0%		
	20 8.7%	8.7%			8.5%	8.9%	8.3%		
	58 25.2%	25.2%			20.8%	27.7%	41.7%		
	6 2.6%	2.6%			1.9%	2.7%	8.3%		
	2 0.9%	0.9%			0.9%	0.9%	0.0%		

	合計	所属課程		分野		
		博士課程		理学系	工学系	農学系
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	223	231
有効回答数(N)	485	230	255	%		
人数	53	8.3%	13.3%	13.9%	8.2%	9.7%
SQ16-2 将来的に、博士後期(博士)課程に進学する可能性はあると思いますか	66	13.6%	14.9%	16.6%	10.0%	19.4%
ある	112	23.1%	23.5%	22.4%	23.8%	22.6%
まあある	187	38.6%	32.5%	35.4%	42.4%	32.3%
あまりない	54	11.1%	14.9%	10.3%	11.7%	12.9%
ない	13	2.7%	0.8%	1.3%	3.9%	3.2%
わからない	576	230	255	272	265	39
無回答	198	34.4%	35.7%	37.1%	31.3%	35.9%
有効回答数(N)	10	1.7%	2.2%	1.8%	1.5%	2.6%
Q17 あなたは、進路選択に対して、誰のアドバイスを重視しますか(1位)	36	6.3%	5.2%	5.5%	7.2%	5.1%
親などの保護者	29	5.0%	2.6%	4.8%	4.2%	12.8%
きょうだい	96	16.7%	17.4%	18.4%	15.1%	15.4%
友だち	85	14.8%	14.3%	11.8%	17.7%	15.4%
配偶者・恋人	8	1.4%	2.2%	0.7%	2.3%	0.0%
同じ大学の研究室の教員	19	3.3%	4.8%	3.7%	3.4%	0.0%
同じ大学の研究室以外の教員	1	0.2%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%
同じ大学の研究室以外の先輩・同僚	9	1.6%	2.6%	1.8%	1.1%	2.6%
他大学の教員	30	5.2%	4.3%	4.0%	6.8%	2.6%
他大学の先輩・同僚	18	3.1%	2.2%	2.9%	3.4%	2.6%
民間企業や公的研究機関に所属する方	2	0.3%	0.9%	0.0%	0.8%	0.0%
大学の職員・カウンセラー	30	5.2%	4.8%	5.9%	4.5%	5.1%
その他	5	0.9%	0.9%	1.1%	0.8%	0.0%
誰にも相談しない						
無回答						



	合計	所属課程			分野			
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系	
		230	255	90	272	265	39	
有効回答数(N)	576							
Q17 あなたは、進路選択に 対して、誰のアドバイスを 重視しますか(2位)	93 28 76 44 111 89 15 20 10 18 36 17 1 6 12	16.1% 4.9% 13.2% 7.6% 19.3% 15.5% 2.6% 3.5% 1.7% 3.1% 6.3% 3.0% 0.2% 1.0% 2.1%	18.3% 5.2% 9.6% 6.1% 18.3% 15.2% 3.9% 3.9% 1.3% 4.3% 7.8% 3.5% 0.0% 0.4% 2.2%	13.3% 5.5% 18.8% 9.0% 16.9% 16.1% 1.6% 3.9% 1.6% 1.6% 6.3% 3.1% 0.0% 1.6% 0.8%	18.9% 2.2% 6.7% 7.8% 28.9% 14.4% 2.2% 1.1% 3.3% 3.3% 2.2% 1.1% 1.1% 1.1% 5.6%	14.7% 5.1% 13.6% 8.5% 19.1% 13.6% 3.7% 2.6% 2.2% 4.0% 5.9% 3.3% 0.0% 1.5% 2.2%	17.0% 3.8% 13.2% 7.2% 19.2% 16.2% 1.5% 4.5% 1.1% 2.6% 7.5% 3.0% 0.4% 0.8% 1.9%	20.5% 10.3% 10.3% 5.1% 20.5% 23.1% 2.6% 2.6% 2.6% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 2.6%
Q18 あなたの親は、あなた にどの教育段階に進む よう期待していると感じ ますか	102 12 97 39 65 87 14 21 11 19 37 27 6 18 21	17.7% 2.1% 16.8% 6.8% 11.3% 15.1% 2.4% 3.6% 1.9% 3.3% 6.4% 4.7% 1.0% 3.1% 3.6%	17.8% 2.2% 18.7% 5.2% 11.3% 13.9% 3.5% 4.3% 0.9% 2.6% 6.1% 6.5% 0.4% 3.9% 2.6%	19.2% 2.4% 17.3% 5.9% 11.4% 15.7% 2.0% 3.1% 1.2% 2.7% 6.7% 4.7% 1.6% 2.7% 3.5%	12.2% 1.1% 11.1% 13.3% 11.1% 16.7% 1.1% 3.3% 6.7% 6.7% 6.7% 0.0% 1.1% 2.2% 6.7%	16.9% 1.5% 18.0% 6.6% 11.8% 12.9% 2.9% 1.5% 2.2% 4.4% 6.6% 4.4% 1.8% 4.0% 4.4%	18.5% 3.0% 14.0% 6.8% 10.9% 17.0% 1.5% 6.4% 1.5% 2.3% 6.8% 5.3% 0.4% 2.6% 3.0%	17.9% 0.0% 28.2% 7.7% 10.3% 17.9% 5.1% 0.0% 2.6% 2.6% 2.6% 2.6% 0.0% 0.0% 2.6%
有効回答数(N)	120 180 62 211 3	20.8% 31.3% 10.8% 36.6% 0.5%	27.0% 31.7% 5.7% 35.2% 0.4%	19.6% 37.6% 10.2% 32.2% 0.4%	8.9% 12.2% 25.6% 52.2% 1.1%	16.9% 30.9% 13.6% 37.5% 1.1%	25.3% 31.3% 7.9% 35.5% 0.0%	17.9% 33.3% 10.3% 38.5% 0.0%

	合計	所属課程			分野		
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
		230	255	90	272	265	39
有効回答数(N)	576						
Q19 今後のキャリアを考え た時に身につけたいと 思う能力はどれですか (1位)	74	12.6%	13.7%	11.1%	9.9%	15.1%	17.9%
主体性	56	9.7%	9.4%	8.9%	9.2%	10.9%	5.1%
働きかけ力	58	10.1%	10.2%	12.2%	13.6%	6.4%	10.3%
実行力	56	9.7%	10.6%	14.4%	8.1%	10.2%	17.9%
課題発見力	46	8.0%	7.5%	5.6%	6.3%	10.2%	5.1%
計画力	90	15.6%	15.3%	16.7%	17.6%	15.1%	5.1%
創造力	96	16.7%	16.1%	14.4%	16.5%	16.6%	17.9%
発信力	12	2.1%	2.0%	1.1%	3.7%	0.8%	0.0%
傾聴力	12	2.1%	2.0%	1.1%	2.2%	1.9%	2.6%
柔軟力	12	2.1%	2.7%	3.3%	1.8%	2.6%	0.0%
状況把握力	6	1.0%	0.8%	1.1%	1.1%	0.8%	2.6%
規律力	55	9.5%	9.4%	8.9%	9.2%	9.1%	15.4%
ストレスコントロール力	3	0.5%	0.4%	1.1%	0.7%	0.4%	0.0%
無回答	32	5.6%	5.5%	2.2%	4.0%	6.4%	10.3%
主体性	67	11.6%	10.2%	13.3%	13.2%	10.2%	10.3%
働きかけ力	56	9.7%	9.8%	6.7%	9.2%	10.9%	5.1%
実行力	56	9.7%	7.8%	8.9%	8.5%	11.7%	5.1%
課題発見力	63	10.9%	12.5%	18.9%	11.4%	10.2%	12.8%
計画力	75	13.0%	13.7%	10.0%	12.9%	12.8%	15.4%
創造力	93	16.1%	18.0%	13.3%	15.1%	17.4%	15.4%
発信力	20	3.5%	2.7%	2.2%	3.7%	3.0%	5.1%
傾聴力	29	5.0%	3.9%	5.6%	4.8%	6.0%	0.0%
柔軟力	24	4.2%	5.1%	6.7%	4.4%	3.8%	5.1%
状況把握力	15	2.6%	2.7%	4.4%	2.9%	2.6%	0.0%
規律力	40	6.9%	7.1%	5.6%	8.5%	4.2%	15.4%
ストレスコントロール力	6	1.0%	0.8%	2.2%	1.5%	0.8%	0.0%
無回答							

	合計	所属課程			分野		
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
		230	255	90	272	265	39
有効回答数(N)	576	230	255	90	272	265	39
Q19 今後のキャリアを考えたい時に身につけたいと思う能力はどれですか(3位)	62 74 44 44 48 62 77 18 27 32 15 64 9	13.5% 10.4% 6.5% 6.1% 10.4% 13.9% 15.7% 3.0% 3.9% 5.2% 1.3% 8.7% 1.3%	10.2% 16.9% 8.2% 6.7% 6.3% 10.6% 10.6% 2.4% 4.3% 5.5% 3.9% 12.9% 1.6%	5.6% 7.8% 8.9% 13.3% 8.9% 3.3% 15.6% 5.6% 7.8% 6.7% 2.2% 12.2% 2.2%	11.8% 13.6% 8.8% 6.3% 7.0% 12.1% 13.2% 3.7% 5.1% 5.9% 2.2% 8.8% 1.5%	9.4% 12.1% 6.8% 7.9% 9.4% 9.8% 13.6% 2.3% 4.9% 5.3% 3.0% 13.6% 1.9%	12.8% 12.8% 5.1% 15.4% 10.3% 7.7% 12.8% 5.1% 0.0% 5.1% 2.6% 10.3% 0.0%
Q20 あなたは海外研修の経験がありますか	63 511 2	2.6% 97.0% 0.4%	9.0% 91.0% 0.0%	37.8% 61.1% 1.1%	11.4% 88.2% 0.4%	11.3% 88.3% 0.4%	5.1% 94.9% 0.0%
SQ20-1 海外研修にはいつ行きましたか	17 25 17 3 1	27.0% 39.7% 27.0% 4.8% 1.6%	30.4% 65.2% 0.0% 4.3% 0.0%	11.8% 29.4% 50.0% 5.9% 2.9%	22.6% 38.7% 29.0% 6.5% 3.2%	33.3% 36.7% 26.7% 3.3% 0.0%	0.0% 100.0% 0.0% 0.0% 0.0%
SQ20-2 期間はどれぐらいでしたか	24 8 8 4 7 11 1	38.1% 12.7% 12.7% 6.3% 11.1% 17.5% 1.6%	47.8% 21.7% 8.7% 0.0% 0.0% 21.7% 0.0%	26.5% 5.9% 17.6% 11.8% 17.6% 17.6% 2.9%	41.9% 19.4% 12.9% 0.0% 9.7% 12.9% 3.2%	30.0% 6.7% 13.3% 13.3% 13.3% 23.3% 0.0%	100.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0%
SQ20-3 受け入れ機関はどこでしたか	52 5 3 1 0 0 1 63	82.5% 7.9% 4.8% 1.6% 0.0% 0.0% 1.6% 1.6%	82.6% 13.0% 4.3% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0%	82.4% 5.9% 2.9% 2.9% 0.0% 0.0% 2.9%	80.6% 12.9% 3.2% 0.0% 0.0% 0.0% 3.2%	83.3% 3.3% 6.7% 3.3% 0.0% 0.0% 3.3%	100.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0%

	有効回答数(N)	合計	所属課程				分野		
			学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系	
									230
SQ20-4	あなたの将来のキャリアにとって、海外研修(研究)の機会は、どの程度役に立ったと感じますか	576	50.0%	60.9%	76.5%	61.3%	76.7%	50.0%	
	とても役に立った	43	68.3%						
	まあ役に立った	19	30.2%	39.1%	20.6%	35.5%	23.3%	50.0%	
	あまりない役に立たなかった	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	まったく役に立たなかった	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	無回答	1	1.6%	0.0%	2.9%	3.2%	0.0%	0.0%	
Q21	あなたは留学の経験がありますか	137	23.8%	23.9%	33.3%	21.3%	26.8%	20.5%	
	ある	437	75.8%	76.1%	64.4%	77.9%	73.2%	79.5%	
	ない	2	0.3%	0.0%	2.2%	0.7%	0.0%	0.0%	
	無回答	73	53.3%	49.2%	20.0%	53.4%	50.7%	75.0%	
SQ21-1	留学にはいつ行きましたか	32	23.4%	37.7%	30.0%	20.7%	26.8%	12.5%	
	1ヶ月未満	12	8.8%	0.0%	40.0%	12.1%	7.0%	0.0%	
	1ヶ月以上2ヶ月未満	20	14.6%	13.1%	10.0%	13.8%	15.5%	12.5%	
	2ヶ月以上3ヶ月未満	63	46.0%	42.6%	20.0%	43.1%	46.5%	62.5%	
	3ヶ月以上6ヶ月未満	30	21.9%	26.2%	13.3%	32.8%	14.1%	12.5%	
	6ヶ月以上1年未満	7	5.1%	3.3%	10.0%	6.9%	4.2%	0.0%	
	1年以上	5	3.6%	3.3%	10.0%	3.4%	4.2%	0.0%	
	無回答	8	5.8%	4.9%	16.7%	3.4%	5.6%	25.0%	
SQ21-2	受け入れ機関はどこでしたか	24	17.5%	19.7%	30.0%	10.3%	25.4%	0.0%	
	語学学校	31	22.6%	16.4%	13.3%	20.7%	25.4%	12.5%	
	大学	73	53.3%	57.4%	50.0%	55.2%	49.3%	75.0%	
	博士前期(修士)課程	13	9.5%	18.0%	6.7%	6.9%	12.7%	0.0%	
	博士後期(博士)課程	5	3.6%	0.0%	16.7%	5.2%	2.8%	0.0%	
	その他	14	10.2%	8.2%	10.0%	10.3%	9.9%	12.5%	
	無回答	1	0.7%	0.0%	3.3%	1.7%	0.0%	0.0%	
SQ21-3	あなたの将来のキャリアにとって、海外研修(研究)の機会は、どの程度役に立ったと感じますか	72	52.6%	55.7%	76.7%	58.6%	49.3%	37.5%	
	とても役に立った	50	36.5%	34.4%	16.7%	32.8%	38.0%	50.0%	
	まあ役に立った	14	10.2%	9.8%	3.3%	6.9%	12.7%	12.5%	
	あまりない役に立たなかった	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
	まったく役に立たなかった	1	0.7%	0.0%	3.3%	1.7%	0.0%	0.0%	
	無回答	228	39.6%	47.8%	27.8%	30.5%	47.5%	48.7%	
Q22	あなたはインターンシップの経験がありますか	346	60.1%	52.2%	71.1%	68.8%	52.5%	51.3%	
	ある	2	0.3%	0.0%	1.1%	0.7%	0.0%	0.0%	
	ない								
	無回答								

	合計	所属課程			分野		
		博士課程			理学系	工学系	農学系
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制			
	576	230	255	90	272	265	39
有効回答数(N)							
Q22-1 インターンシップにはい つ行きましたか	127	98.8%	32.8%	28.0%	49.4%	58.7%	63.2%
	90	0.0%	65.6%	40.0%	44.6%	37.3%	31.6%
	7	0.0%	0.0%	28.0%	4.8%	1.6%	5.3%
	3	1.2%	0.8%	4.0%	1.2%	1.6%	0.0%
	1	0.4%	0.8%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
Q22-2 期間はどれくらいでした か	48	22.2%	22.1%	12.0%	36.1%	9.5%	31.6%
	37	16.2%	12.3%	12.0%	16.9%	14.3%	26.3%
	51	22.4%	23.0%	20.0%	14.5%	25.4%	36.8%
	41	18.0%	17.2%	16.0%	13.3%	23.0%	5.3%
	19	8.3%	12.3%	4.0%	7.2%	10.3%	0.0%
	17	7.5%	9.8%	12.0%	2.4%	11.9%	0.0%
	7	3.1%	0.8%	20.0%	3.6%	3.2%	0.0%
	8	3.5%	4.9%	4.0%	6.0%	2.4%	0.0%
Q22-3 受け入れ機関はどこで したか	3	1.3%	0.8%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%
	17	7.5%	9.0%	8.0%	7.2%	8.7%	0.0%
	171	75.0%	77.0%	80.0%	77.1%	76.2%	57.9%
	18	7.9%	6.6%	8.0%	6.0%	7.9%	15.8%
	12	5.3%	4.9%	4.0%	2.4%	4.0%	26.3%
	6	2.6%	1.6%	0.0%	3.6%	2.4%	0.0%
	1	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%
Q22-4 あなたの将来のキャリ アにとって、インターン シップの機会は、どの 程度役に立ったと感じ ますか	110	48.2%	49.2%	52.0%	43.4%	55.6%	21.1%
	91	39.9%	41.0%	28.0%	42.2%	33.3%	73.7%
	24	10.5%	8.2%	16.0%	14.5%	9.5%	0.0%
	3	1.3%	0.0%	4.0%	0.0%	1.6%	5.3%
Q23 大学・大学院で、女性 のライフイベントを意識 したキャリア教育やキャ リア支援はありますか	238	41.3%	40.0%	56.7%	50.7%	31.3%	43.6%
	54	9.4%	7.1%	7.8%	8.8%	9.4%	12.8%
	282	49.0%	52.9%	34.4%	40.1%	58.9%	43.6%
	2	0.3%	0.4%	1.1%	0.4%	0.4%	0.0%
SQ23-1 利用したことはあります か	55	23.1%	27.5%	13.7%	18.1%	28.9%	35.3%
	183	76.9%	72.5%	86.3%	81.9%	71.1%	64.7%
Q24 女性のライフイベントを 意識したキャリア教育 やキャリア支援を受け たいと思いますか	108	18.8%	16.1%	24.4%	16.2%	20.8%	23.1%
	276	47.9%	50.6%	41.1%	48.5%	45.7%	59.0%
	148	25.7%	25.1%	24.4%	29.0%	23.4%	17.9%
	42	7.3%	7.8%	8.9%	5.5%	10.2%	0.0%
	2	0.3%	0.4%	1.1%	0.7%	0.0%	0.0%

	有効回答数(N)	合計	所属課程			分野			
			学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系	
			230	255	90	272	265	39	
Q25	あなたの結婚の状態を 選んでください	9	1.6%	0.0%	0.4%	8.9%	1.5%	1.5%	2.6%
	結婚している(同居)	6	1.0%	0.0%	1.2%	3.3%	1.1%	0.8%	2.6%
	結婚している(別居)	559	97.0%	100.0%	98.0%	86.7%	97.1%	97.4%	94.9%
	結婚していない	2	0.3%	0.0%	0.4%	1.1%	0.4%	0.4%	0.0%
Q26	あなたが養っている家 族はいいますか	8	1.4%	0.4%	0.8%	5.6%	1.5%	1.1%	2.6%
	いる	566	98.3%	99.1%	99.2%	93.3%	97.8%	98.9%	97.4%
	いない	2	0.3%	0.4%	0.0%	1.1%	0.7%	0.0%	0.0%
Q26-1	養っている家族の年齢 別の人数を教えてください	4	50.0%						
	5歳以下	1	12.5%						
	6歳以上16歳以下	1	12.5%						
	19歳以上	1	12.5%						
Q27	あなたは現在、介護が 必要な家族がいますか	53	9.2%	8.3%	9.8%	8.9%	11.8%	5.3%	17.9%
	いる	521	90.5%	91.7%	90.2%	88.9%	87.9%	94.3%	82.1%
	いない	2	0.3%	0.0%	0.0%	2.2%	0.4%	0.4%	0.0%
Q27-1	その方の要介護認定は 何ですか	4	7.5%	0.0%	8.0%	12.5%	6.3%	7.1%	14.3%
	要支援1	1	1.9%	5.3%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%
	要支援2	1	1.9%	5.3%	0.0%	0.0%	3.1%	0.0%	0.0%
	要介護1	3	5.7%	15.8%	0.0%	0.0%	6.3%	7.1%	0.0%
	要介護2	7	13.2%	10.5%	20.0%	0.0%	12.5%	14.3%	14.3%
	要介護3	6	11.3%	15.8%	8.0%	12.5%	15.6%	7.1%	0.0%
	要介護4	7	13.2%	5.3%	20.0%	12.5%	18.8%	7.1%	0.0%
	要介護5	24	45.3%	42.1%	44.0%	62.5%	34.4%	57.1%	71.4%
Q27-2	あなた自身はその家族 を介護していますか	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	中心的に携わっている	22	41.5%	31.6%	52.0%	37.5%	43.8%	42.9%	28.6%
	補助的に携わっている	31	58.5%	68.4%	48.0%	62.5%	56.3%	57.1%	71.4%
Q28	社会人としての勤務経 験はお持ちですか	547	95.0%	98.3%	96.5%	82.2%	95.6%	95.1%	89.7%
	1年未満	7	1.2%	0.0%	2.0%	2.2%	1.1%	0.8%	5.1%
	1年以上3年未満	4	0.7%	0.0%	0.4%	3.3%	0.4%	0.8%	2.6%
	3年以上5年未満	4	0.7%	0.0%	0.8%	2.2%	0.7%	0.8%	0.0%
	5年以上	8	1.4%	0.0%	0.4%	7.8%	1.8%	0.8%	2.6%
	無回答	6	1.0%	1.7%	0.0%	2.2%	0.4%	1.9%	0.0%

	合計	所属課程			分野							
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系					
								340	255	85	163	150
有効回答数(N)	340											
Q29 大学院の選択において、何を重視しましたか (博士前期(修士)課程 1位)	173 50.9%	5 1.5%	57.3%	31.8%	45.4%	57.3%	1.8%	0.7%	48.1%			
	5 1.5%	5 1.5%	0.4%	4.7%	1.2%	0.7%	1.2%	2.0%	3.7%			
	8 2.4%	8 2.4%	2.7%	1.2%	0.6%	4.0%	0.6%	4.0%	0.0%			
	18 5.3%	18 5.3%	4.7%	7.1%	7.4%	4.0%	7.4%	4.0%	0.0%			
	1 0.3%	1 0.3%	0.4%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.7%	0.0%			
	0 0.0%	0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
	0 0.0%	0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
	0 0.0%	0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
	82 24.1%	82 24.1%	22.0%	30.6%	29.4%	18.0%	29.4%	18.0%	25.9%			
	31 9.1%	31 9.1%	7.8%	12.9%	9.2%	8.0%	9.2%	8.0%	14.8%			
	7 2.1%	7 2.1%	2.0%	2.4%	1.8%	2.7%	1.8%	2.7%	0.0%			
	0 0.0%	0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
	2 0.6%	2 0.6%	0.4%	1.2%	0.6%	0.7%	0.6%	0.7%	0.0%			
	8 2.4%	8 2.4%	0.4%	8.2%	2.5%	2.0%	2.5%	2.0%	3.7%			
Q29 大学院の選択において、何を重視しましたか (博士前期(修士)課程 2位)	30 8.8%	30 8.8%	8.6%	9.4%	10.4%	7.3%	10.4%	7.3%	7.4%			
	29 8.5%	29 8.5%	9.4%	5.9%	11.0%	6.0%	11.0%	6.0%	7.4%			
	16 4.7%	16 4.7%	3.9%	7.1%	3.7%	6.7%	3.7%	6.7%	0.0%			
	16 4.7%	16 4.7%	4.3%	5.9%	4.9%	4.7%	4.9%	4.7%	3.7%			
	45 13.2%	45 13.2%	15.7%	5.9%	11.7%	13.3%	11.7%	13.3%	22.2%			
	0 0.0%	0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
	0 0.0%	0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
	0 0.0%	0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
	0 0.0%	0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%			
	100 29.4%	100 29.4%	28.2%	32.9%	25.2%	34.0%	25.2%	34.0%	29.6%			
	60 17.6%	60 17.6%	18.0%	16.5%	21.5%	15.3%	21.5%	15.3%	7.4%			
	24 7.1%	24 7.1%	7.8%	4.7%	6.1%	6.7%	6.1%	6.7%	14.8%			
	3 0.9%	3 0.9%	0.8%	1.2%	0.6%	1.3%	0.6%	1.3%	0.0%			
	2 0.6%	2 0.6%	0.8%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	0.7%	3.7%			
	15 4.4%	15 4.4%	2.4%	10.6%	4.9%	4.0%	4.9%	4.0%	3.7%			

	所属課程	合計	分野						
			理学系	工学系	農学系				
			163	150	27				
	学士課程 (学部)								
	博士前期 (修士)課程								
	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制								
	255	85							
	340								
有効回答数(N)									
Q29	大学院の選択において、何を重視しましたか (博士前期(修士)課程 3位)	現在、所属している機関(大学、大学院)と同じ 学費が安い 大学の知名度 旧帝国大学であること 国立であること 公立であること 私立であること 女子大であること 英語で授業を受けられること 研究したい分野があること 指導してもらいたい教員がいること 地元にあること 大都市圏にあること その他 無回答	33 37 25 15 52 0 1 0 1 49 58 25 13 3 28	9.7% 10.9% 7.4% 4.4% 15.3% 0.0% 0.3% 0.0% 0.3% 14.4% 17.1% 7.4% 3.8% 0.9% 8.2%	10.6% 9.4% 8.2% 5.1% 14.5% 0.0% 0.4% 0.0% 0.0% 16.1% 16.9% 7.1% 3.9% 1.2% 6.7%	7.1% 15.3% 4.7% 2.4% 17.6% 0.0% 0.0% 0.0% 1.2% 9.4% 17.6% 8.2% 3.5% 0.0% 12.9%	11.7% 8.6% 7.4% 4.3% 12.3% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 17.2% 16.0% 6.7% 3.7% 1.2% 11.0%	8.0% 13.3% 8.0% 4.7% 17.3% 0.0% 0.7% 0.0% 0.7% 11.3% 17.3% 7.3% 4.7% 0.7% 6.0%	7.4% 11.1% 3.7% 3.7% 22.2% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 14.8% 22.2% 11.1% 0.0% 0.0% 3.7%
有効回答数(N)									
Q29	大学院の選択において、何を重視しましたか (博士後期(博士)課程 1位)	現在、所属している機関(大学、大学院)と同じ 学費が安い 大学の知名度 旧帝国大学であること 国立であること 公立であること 私立であること 女子大であること 英語で授業を受けられること 研究したい分野があること 指導してもらいたい教員がいること 地元にあること 大都市圏にあること その他 無回答	31 2 0 0 4 0 0 0 27 19 1 1 1 4	34.4% 2.2% 0.0% 0.0% 4.4% 0.0% 0.0% 0.0% 30.0% 21.1% 1.1% 1.1% 1.1% 4.4%	34.4% 2.2% 0.0% 0.0% 4.4% 0.0% 0.0% 0.0% 30.0% 21.1% 1.1% 1.1% 1.1% 4.4%	31.3% 2.1% 0.0% 0.0% 4.2% 0.0% 0.0% 0.0% 20.8% 21.1% 2.1% 0.0% 2.1% 6.3%	35.3% 0.0% 0.0% 0.0% 5.9% 0.0% 0.0% 0.0% 20.6% 32.4% 0.0% 2.9% 0.0% 2.9%	50.0% 12.5% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 12.5% 25.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0%	



	有効回答数(N)	所属課程	分野			
			合計	理学系	工学系	農学系
				90	48	34
Q29	大学院の選択において、何を重視しましたか(博士後期(博士)課程2位)	現在、所属している機関(大学、大学院)と同じ 学費が安い 大学の知名度 旧帝国大学であること 国立であること 公立であること 私立であること 女子大であること 英語で授業を受けられること 研究したい分野があること 指導してもらいたい教員がいること 地元にあること 大都市圏にあること その他 無回答	90	48	34	8
			8 8.9%	12.5%	5.9%	0.0%
			8 8.9%	10.4%	2.9%	25.0%
			2 2.2%	0.0%	5.9%	0.0%
			4 4.4%	0.0%	11.8%	0.0%
			5 5.6%	2.1%	8.8%	12.5%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			1 1.1%	0.0%	2.9%	0.0%
			27 30.0%	29.2%	32.4%	25.0%
			26 28.9%	37.5%	17.6%	25.0%
			1 1.1%	0.0%	2.9%	0.0%
			1 1.1%	0.0%	2.9%	0.0%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			7 7.8%	8.3%	5.9%	12.5%
			8 8.9%	12.5%	5.9%	0.0%
			6 6.7%	2.1%	8.8%	25.0%
			6 6.7%	4.2%	11.8%	0.0%
			3 3.3%	6.3%	0.0%	0.0%
			16 17.8%	20.8%	14.7%	12.5%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			13 14.4%	14.6%	14.7%	12.5%
			16 17.8%	12.5%	23.5%	25.0%
			8 8.9%	10.4%	5.9%	12.5%
			3 3.3%	4.2%	2.9%	0.0%
			2 2.2%	4.2%	0.0%	0.0%
			9 10.0%	8.3%	11.8%	12.5%
			8 8.9%	12.5%	5.9%	0.0%
			6 6.7%	2.1%	8.8%	25.0%
			6 6.7%	4.2%	11.8%	0.0%
			3 3.3%	6.3%	0.0%	0.0%
			16 17.8%	20.8%	14.7%	12.5%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			13 14.4%	14.6%	14.7%	12.5%
			16 17.8%	12.5%	23.5%	25.0%
			8 8.9%	10.4%	5.9%	12.5%
			3 3.3%	4.2%	2.9%	0.0%
			2 2.2%	4.2%	0.0%	0.0%
			9 10.0%	8.3%	11.8%	12.5%
			8 8.9%	12.5%	5.9%	0.0%
			6 6.7%	2.1%	8.8%	25.0%
			6 6.7%	4.2%	11.8%	0.0%
			3 3.3%	6.3%	0.0%	0.0%
			16 17.8%	20.8%	14.7%	12.5%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			13 14.4%	14.6%	14.7%	12.5%
			16 17.8%	12.5%	23.5%	25.0%
			8 8.9%	10.4%	5.9%	12.5%
			3 3.3%	4.2%	2.9%	0.0%
			2 2.2%	4.2%	0.0%	0.0%
			9 10.0%	8.3%	11.8%	12.5%
			8 8.9%	12.5%	5.9%	0.0%
			6 6.7%	2.1%	8.8%	25.0%
			6 6.7%	4.2%	11.8%	0.0%
			3 3.3%	6.3%	0.0%	0.0%
			16 17.8%	20.8%	14.7%	12.5%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			0 0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
			13 14.4%	14.6%	14.7%	12.5%
			16 17.8%	12.5%	23.5%	25.0%
			8 8.9%	10.4%	5.9%	12.5%
			3 3.3%	4.2%	2.9%	0.0%
			2 2.2%	4.2%	0.0%	0.0%
			9 10.0%	8.3%	11.8%	12.5%

	合計	所属課程		分野			
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
	340		255	85	163	150	27
有効回答数(N)							
Q30	84	24.7%	23.1%	29.4%	25.2%	25.3%	18.5%
大学院での学費の免除を受けましたか(博士前期(修士)課程)	243	71.5%	74.1%	63.5%	71.8%	69.3%	81.5%
	7	2.1%	2.4%	1.2%	1.8%	2.7%	0.0%
	6	1.8%	0.4%	5.9%	1.2%	2.7%	0.0%
有効回答数(N)	90			90	48	34	8
Q30	51	56.7%		56.7%	58.3%	55.9%	50.0%
大学院での学費の免除を受けましたか(博士後期(博士)課程)	36	40.0%		40.0%	39.6%	38.2%	50.0%
	1	1.1%		1.1%	0.0%	2.9%	0.0%
	2	2.2%		2.2%	2.1%	2.9%	0.0%
有効回答数(N)	340		255	85	163	150	27
Q31	2	0.6%	0.0%	2.4%	0.0%	1.3%	0.0%
博士前期(修士)課程にフェローシップ	113	33.2%	33.3%	32.9%	30.1%	36.0%	37.0%
進学し課程を継続するために利用した資金種別のうち主要な順に3つまでお答えください(1位)	19	5.6%	5.9%	4.7%	6.7%	5.3%	0.0%
	4	1.2%	0.8%	2.4%	1.8%	0.7%	0.0%
	1	0.3%	0.0%	1.2%	0.0%	0.0%	3.7%
	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	7	2.1%	2.0%	2.4%	2.5%	2.0%	0.0%
	6	1.8%	2.4%	0.0%	2.5%	0.7%	3.7%
	175	51.5%	54.1%	43.5%	52.8%	50.0%	51.9%
	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	1	0.3%	0.0%	1.2%	0.0%	0.7%	0.0%
	2	0.6%	0.4%	1.2%	1.2%	0.0%	0.0%
	1	0.3%	0.4%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%
	9	2.6%	0.8%	8.2%	2.5%	2.7%	3.7%

	合計	所属課程			分野			
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系	
			255	85	163	150	27	
有効回答数(N)	340							
Q31 博士前期(修士)課程に 進学し課程を継続する ために利用した資金種 別のうち主要な順に3 つまでお答えください (2位)	1 41 24 60 5 2 2 39 68 52 0 1 0 4 41	0.3% 12.1% 7.1% 17.6% 1.5% 0.6% 0.6% 11.5% 20.0% 15.3% 0.0% 0.3% 0.0% 1.2% 12.1%	フェロローシップ 奨学金(返済義務有) 奨学金(返済義務無) TA RA インターンシップ 借入金 あなた自身の個人資金 課程中の上記以外の所得 家族の援助 雇用主の負担 日本以外の国からの支援 日本学術振興会からの支援 その他 無回答	0.0% 11.8% 6.7% 17.6% 1.2% 0.4% 0.4% 12.2% 20.8% 16.5% 0.0% 0.0% 0.0% 1.2% 11.4%	1.2% 12.9% 8.2% 17.6% 2.4% 1.2% 1.2% 9.4% 17.6% 11.8% 0.0% 1.2% 0.0% 1.2% 14.1%	0.0% 10.4% 6.1% 20.9% 0.6% 0.6% 1.2% 11.0% 20.9% 17.2% 0.0% 0.0% 0.0% 0.6% 10.4%	0.7% 12.7% 8.7% 14.0% 2.0% 0.7% 0.0% 11.3% 19.3% 14.0% 0.0% 0.7% 0.0% 1.3% 14.7%	0.0% 18.5% 3.7% 18.5% 3.7% 0.0% 0.0% 14.8% 18.5% 11.1% 0.0% 0.0% 0.0% 3.7% 7.4%
博士前期(修士)課程に 進学し課程を継続する ために利用した資金種 別のうち主要な順に3 つまでお答えください (3位)	0 4 8 101 5 1 2 32 68 39 0 1 0 2 77	0.0% 1.2% 2.4% 29.7% 1.5% 0.3% 0.6% 9.4% 20.0% 11.5% 0.0% 0.3% 0.0% 0.6% 22.6%	フェロローシップ 奨学金(返済義務有) 奨学金(返済義務無) TA RA インターンシップ 借入金 あなた自身の個人資金 課程中の上記以外の所得 家族の援助 雇用主の負担 日本以外の国からの支援 日本学術振興会からの支援 その他 無回答	0.0% 1.2% 2.4% 31.0% 0.8% 0.4% 0.8% 8.2% 20.8% 10.6% 0.0% 0.4% 0.0% 0.4% 23.1%	0.0% 1.2% 2.4% 25.9% 3.5% 0.0% 0.0% 12.9% 17.6% 14.1% 0.0% 0.0% 0.0% 1.2% 21.2%	0.0% 1.2% 3.1% 32.5% 1.8% 0.6% 0.6% 11.0% 17.8% 9.8% 0.0% 0.0% 0.0% 0.6% 20.9%	0.0% 1.3% 0.7% 27.3% 1.3% 0.0% 0.7% 8.0% 22.7% 12.0% 0.0% 0.7% 0.0% 0.7% 24.7%	0.0% 0.0% 7.4% 25.9% 0.0% 0.0% 0.0% 7.4% 18.5% 18.5% 0.0% 0.0% 0.0% 0.7% 22.2%

	合計	所属課程			分野		
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
					48	34	8
有効回答数(N)	90			90			
Q31 博士後期(博士)課程に 進学し課程を継続する ために利用した資金種 別のうち主要な順に3 つまでお答えください (1位)	3 3.3% 19 21.1% 10 11.1% 2 2.2% 3 3.3% 0 0.0% 0 0.0% 6 6.7% 3 3.3% 19 21.1% 0 0.0% 0 0.0% 19 21.1% 4 4.4% 2 2.2%	フェロローシップ 奨学金(返済義務有) 奨学金(返済義務無) TA RA インターンシップ 借入金 あなた自身の個人資金 課程中の上記以外の所得 家族の援助 雇用主の負担 日本以外の国からの支援 日本学術振興会からの支援 その他 無回答	3.3% 21.1% 11.1% 2.2% 3.3% 0.0% 0.0% 6.7% 3.3% 21.1% 0.0% 0.0% 21.1% 4.4% 2.2%	2.1% 22.9% 14.6% 2.1% 0.0% 0.0% 0.0% 4.2% 6.3% 18.8% 0.0% 0.0% 20.8% 6.3% 2.1%	5.9% 17.6% 8.8% 0.0% 5.9% 0.0% 0.0% 8.8% 0.0% 23.5% 0.0% 0.0% 23.5% 2.9% 2.9%	0.0% 25.0% 0.0% 12.5% 12.5% 0.0% 0.0% 12.5% 0.0% 25.0% 0.0% 0.0% 12.5% 0.0% 0.0%	
博士後期課程(博士)に 進学し課程を継続する ために利用した資金種 別のうち主要な順に3 つまでお答えください (2位)	2 2.2% 6 6.7% 9 10.0% 16 17.8% 13 14.4% 0 0.0% 0 0.0% 10 11.1% 9 10.0% 8 8.9% 0 0.0% 0 0.0% 4 4.4% 0 0.0% 13 14.4%	フェロローシップ 奨学金(返済義務有) 奨学金(返済義務無) TA RA インターンシップ 借入金 あなた自身の個人資金 課程中の上記以外の所得 家族の援助 雇用主の負担 日本以外の国からの支援 日本学術振興会からの支援 その他 無回答	2.2% 6.7% 10.0% 17.8% 14.4% 0.0% 0.0% 11.1% 10.0% 8.9% 0.0% 0.0% 4.4% 0.0% 14.4%	2.1% 10.4% 8.3% 20.8% 8.3% 0.0% 0.0% 12.5% 10.4% 8.3% 0.0% 0.0% 4.2% 0.0% 14.6%	2.9% 2.9% 11.8% 11.8% 23.5% 0.0% 0.0% 11.8% 5.9% 5.9% 0.0% 0.0% 5.9% 0.0% 17.6%	0.0% 0.0% 12.5% 25.0% 12.5% 0.0% 0.0% 25.0% 25.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0%	

	合計	所属課程			分野		
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
有効回答数(N)	90			90	48	34	8
Q31 博士後期(博士)課程に 進学し課程を継続する ために利用した資金種 別のうち主要な順に3 つまでお答えください (3位)	0 2 2 10 14 1 0 8 7 13 1 0 2 1 29	0.0% 2.2% 2.2% 11.1% 15.6% 1.1% 0.0% 8.9% 7.8% 14.4% 1.1% 0.0% 2.2% 1.1% 32.2%	0.0% 2.2% 2.2% 11.1% 15.6% 1.1% 0.0% 8.9% 7.8% 14.4% 1.1% 0.0% 2.2% 1.1% 32.2%	0.0% 0.0% 4.2% 6.3% 18.8% 0.0% 0.0% 6.3% 10.4% 16.7% 0.0% 0.0% 2.1% 2.1% 33.3%	0.0% 5.9% 0.0% 17.6% 14.7% 2.9% 0.0% 8.8% 2.9% 11.8% 2.9% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0%	0.0% 0.0% 0.0% 12.5% 0.0% 0.0% 25.0% 12.5% 12.5% 0.0% 0.0% 12.5% 0.0% 0.0% 25.0%	
有効回答数(N)	340		255	85	163	150	27
Q32 大学院での修学に関し て、良かった点(修士課 程 1位)	140 70 12 21 28 19 15 24 2 9	41.2% 20.6% 3.5% 6.2% 8.2% 5.6% 4.4% 7.1% 0.6% 2.6%	40.4% 22.0% 3.9% 6.7% 8.6% 5.9% 5.5% 5.1% 0.8% 1.2%	43.5% 16.5% 2.4% 4.7% 7.1% 4.7% 1.2% 12.9% 0.0% 7.1%	47.2% 18.4% 2.5% 4.3% 10.4% 6.1% 3.1% 5.5% 0.6% 1.8%	35.3% 25.3% 4.0% 6.7% 6.7% 4.7% 6.0% 8.0% 0.7% 2.7%	37.0% 7.4% 7.4% 14.8% 3.7% 7.4% 3.7% 11.1% 0.0% 7.4%

	合計	所属課程			分野		
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
	340		255	85	163	150	27
有効回答数(N)	58	17.1%	19.2%	10.6%	16.6%	17.3%	18.5%
大学院での修学に関して、良かった点(修士課程 2位)	77	22.6%	21.2%	27.1%	25.2%	21.3%	14.8%
専門的知識・能力を身につけた	31	9.1%	9.0%	9.4%	8.6%	10.0%	7.4%
論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた	31	9.1%	8.2%	11.8%	9.2%	8.0%	14.8%
コミュニケーション能力など対人能力を身につけた	42	12.4%	12.5%	11.8%	16.6%	8.7%	7.4%
専門だけでなく幅広い知識を身につけた	25	7.4%	7.5%	7.1%	5.5%	9.3%	7.4%
研究・学問的満足感を得た	38	11.2%	14.1%	2.4%	6.7%	16.0%	11.1%
知人や友人など人脈形成に役立った	23	6.8%	6.3%	8.2%	9.2%	4.0%	7.4%
就職に必要もしくは有利だった	2	0.6%	0.4%	1.2%	0.0%	1.3%	0.0%
学位を取得した	13	3.8%	1.6%	10.6%	2.5%	4.0%	11.1%
その他	45	13.2%	15.3%	7.1%	14.1%	13.3%	7.4%
無回答	49	14.4%	14.9%	12.9%	14.7%	12.7%	22.2%
大学院での修学に関して、良かった点(修士課程 3位)	43	12.6%	12.5%	12.9%	12.9%	12.0%	14.8%
専門的知識・能力を身につけた	39	11.5%	12.2%	9.4%	9.2%	14.7%	7.4%
論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた	36	10.6%	9.8%	12.9%	11.0%	11.3%	3.7%
コミュニケーション能力など対人能力を身につけた	22	6.5%	5.9%	8.2%	5.5%	7.3%	7.4%
専門だけでなく幅広い知識を身につけた	29	8.5%	9.8%	4.7%	8.6%	9.3%	3.7%
研究・学問的満足感を得た	46	13.5%	11.8%	18.8%	15.3%	12.0%	11.1%
知人や友人など人脈形成に役立った	4	1.2%	1.2%	1.2%	1.2%	0.7%	3.7%
就職に必要もしくは有利だった	27	7.9%	6.7%	11.8%	7.4%	6.7%	18.5%
学位を取得した							
その他							
無回答							

	合計	所属課程			分野		
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
		90	90	90	48	34	8
Q32	有効回答数(N)	90	90	90	48	34	8
大学院での修学に関して、良かった点(博士課程 1位)	専門的知識・能力を身につけた 論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた コミュニケーション力など対人能力を身につけた 専門だけでなく幅広い知識を身につけた 研究・学問的満足感を得た 知人や友人など人脈形成に役立った 就職に必要もしくは有利だった 学位を取得した その他 無回答	40 19 3 3 9 3 1 3 2 7	44.4% 21.1% 3.3% 3.3% 10.0% 3.3% 1.1% 3.3% 2.2% 7.8%	44.4% 21.1% 3.3% 3.3% 10.0% 3.3% 1.1% 3.3% 2.2% 7.8%	52.1% 12.5% 6.3% 2.1% 12.5% 4.2% 2.1% 0.0% 0.0% 8.3%	38.2% 29.4% 0.0% 2.9% 5.9% 2.9% 0.0% 8.8% 5.9% 5.9%	25.0% 37.5% 0.0% 12.5% 12.5% 0.0% 0.0% 0.0% 0.0% 12.5%
大学院での修学に関して、良かった点(博士課程 2位)	専門的知識・能力を身につけた 論理的思考力・問題解決力など汎用的知識・能力を身につけた コミュニケーション力など対人能力を身につけた 専門だけでなく幅広い知識を身につけた 研究・学問的満足感を得た 知人や友人など人脈形成に役立った 就職に必要もしくは有利だった 学位を取得した その他 無回答	16 31 7 8 9 6 0 4 0 9	17.8% 34.4% 7.8% 8.9% 10.0% 6.7% 0.0% 4.4% 0.0% 10.0%	17.8% 34.4% 7.8% 8.9% 10.0% 6.7% 0.0% 4.4% 0.0% 10.0%	10.4% 33.3% 6.3% 10.4% 16.7% 4.2% 0.0% 6.3% 0.0% 12.5%	29.4% 41.2% 8.8% 2.9% 2.9% 5.9% 0.0% 2.9% 0.0% 5.9%	12.5% 12.5% 12.5% 25.0% 0.0% 25.0% 0.0% 0.0% 0.0% 12.5%

	合計	所属課程			分野		
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
有効回答数(N)	90			90	48	34	8
Q32 大学院での修学に関して、良かった点(博士課程 3位)	8 13 9 11 11 15 2 9 0 12	8.9% 14.4% 10.0% 12.2% 12.2% 16.7% 2.2% 10.0% 0.0% 13.3%	8.9% 14.4% 10.0% 12.2% 12.2% 16.7% 2.2% 10.0% 0.0% 13.3%	8.9% 14.4% 10.0% 12.2% 12.2% 16.7% 2.2% 10.0% 0.0% 13.3%	8.3% 20.8% 10.4% 8.3% 10.4% 20.8% 0.0% 6.3% 0.0% 14.6%	2.9% 5.9% 8.8% 20.6% 17.6% 11.8% 5.9% 14.7% 0.0% 11.8%	37.5% 12.5% 12.5% 0.0% 0.0% 12.5% 0.0% 12.5% 0.0% 12.5%
無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	12	13.3%	13.3%	13.3%	14.6%	11.8%	12.5%
有効回答数(N)	340			85	163	150	27
Q33 大学院に関して、不満点(修士課程 1位)	32 24 64 22 40 8 115 12 23	9.4% 7.1% 18.8% 6.5% 11.8% 2.4% 33.8% 3.5% 6.8%	9.0% 7.5% 20.8% 7.5% 9.0% 2.4% 35.3% 3.5% 5.1%	10.6% 5.9% 12.9% 3.5% 20.0% 2.4% 29.4% 3.5% 11.8%	9.8% 5.5% 21.5% 8.0% 11.7% 1.8% 33.7% 1.8% 6.1%	8.0% 8.7% 16.7% 5.3% 11.3% 2.0% 34.0% 6.0% 8.0%	14.8% 7.4% 14.8% 3.7% 14.8% 7.4% 33.3% 0.0% 3.7%
無回答	0	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%



	合計	所属課程			分野		
		学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
			255	85	163	150	27
有効回答数(N)	340						
Q33 大学院に関して、不満点(修士課程 2位)	31 27 54 31 36 24 68 2 67	9.1% 7.9% 15.9% 9.1% 10.6% 7.1% 20.0% 0.6% 19.7%	11.8% 7.8% 14.1% 8.6% 9.4% 7.5% 21.2% 0.8% 18.8%	1.2% 8.2% 21.2% 10.6% 14.1% 5.9% 16.5% 0.0% 22.4%	7.4% 7.4% 19.0% 11.0% 9.8% 8.0% 19.0% 1.2% 17.2%	11.3% 8.7% 12.7% 6.7% 11.3% 5.3% 20.0% 0.0% 24.0%	7.4% 7.4% 14.8% 11.1% 11.1% 11.1% 25.9% 0.0% 11.1%
授業など教育内容が不満だった 指導教員やその他関係する教員の 指導が不十分だった 外部との接点が少なく閉鎖的であった 就職に関するサポートが不十分だった 経済的支援の内容が不十分だった 進学時の期待が満足されなかった 自分自身の問題や反省点が多かった その他 無回答	31 20 40 35 26 24 51 16 97	9.1% 5.9% 11.8% 10.3% 7.6% 7.1% 15.0% 4.7% 28.5%	10.6% 5.9% 12.9% 11.4% 6.3% 7.1% 14.9% 4.3% 26.7%	4.7% 5.9% 8.2% 7.1% 11.8% 7.1% 15.3% 5.9% 34.1%	6.7% 6.7% 9.2% 9.8% 10.4% 7.4% 17.8% 3.1% 28.8%	11.3% 4.7% 14.0% 10.0% 4.0% 6.7% 12.7% 6.7% 30.0%	11.1% 7.4% 14.8% 14.8% 11.1% 7.4% 11.1% 3.7% 18.5%
大学院に関して、不満点(修士課程 3位)	31 20 40 35 26 24 51 16 97	9.1% 5.9% 11.8% 10.3% 7.6% 7.1% 15.0% 4.7% 28.5%	10.6% 5.9% 12.9% 11.4% 6.3% 7.1% 14.9% 4.3% 26.7%	4.7% 5.9% 8.2% 7.1% 11.8% 7.1% 15.3% 5.9% 34.1%	6.7% 6.7% 9.2% 9.8% 10.4% 7.4% 17.8% 3.1% 28.8%	11.3% 4.7% 14.0% 10.0% 4.0% 6.7% 12.7% 6.7% 30.0%	11.1% 7.4% 14.8% 14.8% 11.1% 7.4% 11.1% 3.7% 18.5%
有効回答数(N)	90						
Q33 大学院に関して、不満点(博士課程 1位)	4 4 15 6 10 2 31 3 15	4.4% 4.4% 16.7% 6.7% 11.1% 2.2% 34.4% 3.3% 16.7%		4.4% 4.4% 16.7% 6.7% 11.1% 2.2% 34.4% 3.3% 16.7%	6.3% 4.2% 22.9% 6.3% 10.4% 0.0% 29.2% 4.2% 16.7%	2.9% 2.9% 8.8% 8.8% 11.8% 5.9% 38.2% 2.9% 17.6%	0.0% 12.5% 12.5% 0.0% 12.5% 0.0% 50.0% 0.0% 12.5%

	所属課程	合計	分野				
			理学系	工学系	農学系		
			48	34	8		
	学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	90			
有効回答数(N)	90	4	4	4	48	34	8
Q33 大学院に関して、不満 点(博士課程 2位)	授業など教育内容が不満だった 指導教員やその他関係する教員の 指導が不十分だった 外部との接点が少なく閉鎖的であった 就職に関するサポートが不十分だった 経済的支援の内容が不十分だった 進学時の期待が満足されなかった 自分自身の問題や反省点が多かった その他 無回答	4 4 11 8 8 7 19 4 25	4.4% 4.4% 12.2% 8.9% 8.9% 7.8% 21.1% 4.4% 27.8%	4.4% 4.4% 12.2% 8.9% 8.9% 7.8% 21.1% 4.4% 27.8%	6.3% 6.3% 6.3% 10.4% 10.4% 6.3% 22.9% 2.1% 29.2%	2.9% 2.9% 17.6% 5.9% 2.9% 8.8% 20.6% 8.8% 29.4%	0.0% 0.0% 25.0% 12.5% 25.0% 12.5% 12.5% 0.0% 12.5%
大学院に関して、不満 点(博士課程 3位)	授業など教育内容が不満だった 指導教員やその他関係する教員の 指導が不十分だった 外部との接点が少なく閉鎖的であった 就職に関するサポートが不十分だった 経済的支援の内容が不十分だった 進学時の期待が満足されなかった 自分自身の問題や反省点が多かった その他 無回答	5 8 6 2 6 9 13 5 36	5.6% 8.9% 6.7% 2.2% 6.7% 10.0% 14.4% 5.6% 40.0%	5.6% 8.9% 6.7% 2.2% 6.7% 10.0% 14.4% 5.6% 40.0%	6.3% 8.3% 6.3% 2.1% 6.3% 6.3% 22.9% 6.3% 35.4%	2.9% 11.8% 8.8% 2.9% 5.9% 11.8% 2.9% 5.9% 47.1%	12.5% 0.0% 0.0% 0.0% 12.5% 25.0% 12.5% 0.0% 37.5%
有効回答数(N)	90	82	91.1%	91.1%	48	34	8
Q34 博士後期課程を修了さ れる際、博士号を取得 している予定ですか	予定あり 予定なし 無回答	7 1	7.8% 1.1%	7.8% 1.1%	10.4% 2.1%	5.9% 0.0%	100.0% 0.0% 0.0%

Q35	有効回答数(N)	合計	所属課程			分野		
			学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
						48	34	8
現時点で満期退学等 で博士号を取得せず に修了される場合の理 由	博士号取得前に就職が決定	90	37	41.1%	41.1%	47.9%	26.5%	62.5%
	無回答	10	11.1%	11.1%	8.3%	17.6%	0.0%	
	修業年限の超過	43	47.8%	47.8%	43.8%	55.9%	37.5%	
	非選択	37	41.1%	41.1%	41.7%	35.3%	62.5%	
	選択	10	11.1%	11.1%	14.6%	8.8%	0.0%	
	無回答	43	47.8%	47.8%	43.8%	55.9%	37.5%	
	経済的困難	35	38.9%	38.9%	43.8%	32.4%	37.5%	
	選択	12	13.3%	13.3%	12.5%	11.8%	25.0%	
	無回答	43	47.8%	47.8%	43.8%	55.9%	37.5%	
	業務や家事等の学業以外の多忙	38	42.2%	42.2%	41.7%	44.1%	37.5%	
	非選択	9	10.0%	10.0%	14.6%	0.0%	25.0%	
	選択	43	47.8%	47.8%	43.8%	55.9%	37.5%	
	無回答	39	43.3%	43.3%	45.8%	35.3%	62.5%	
	健康上の理由	8	8.9%	8.9%	10.4%	8.8%	0.0%	
	無回答	43	47.8%	47.8%	43.8%	55.9%	37.5%	
	保育・介護等の家庭の事情	43	47.8%	47.8%	47.8%	35.3%	62.5%	
	非選択	4	4.4%	4.4%	2.1%	8.8%	0.0%	
	選択	43	47.8%	47.8%	47.8%	55.9%	37.5%	
	無回答	40	44.4%	44.4%	44.4%	44.1%	50.0%	
	研究課題への興味喪失	7	7.8%	7.8%	7.8%	0.0%	12.5%	
無回答	43	47.8%	47.8%	47.8%	55.9%	37.5%		
研究課題の実現が困難	32	35.6%	35.6%	35.6%	29.4%	37.5%		
非選択	15	16.7%	16.7%	16.7%	14.7%	25.0%		
選択	43	47.8%	47.8%	47.8%	55.9%	37.5%		
無回答	45	50.0%	50.0%	50.0%	41.2%	62.5%		
指導の欠如	2	2.2%	2.2%	2.2%	2.9%	0.0%		
非選択	43	47.8%	47.8%	47.8%	55.9%	37.5%		
無回答	44	48.9%	48.9%	48.9%	41.2%	50.0%		
非選択	3	3.3%	3.3%	3.3%	2.9%	12.5%		
選択	43	47.8%	47.8%	47.8%	55.9%	37.5%		
無回答								

	有効回答数(N)	合計	所属課程			分野		
			学士課程 (学部)	博士前期 (修士)課程	博士後期 (博士)課程、 5年一貫制	理学系	工学系	農学系
Q35-1 将来的に博士号を取る予定はありますか	はい いいえ どちらとも言えない	10 7 1 2			10 70.0% 10.0% 20.0%			

## 自由回答一覧

	課程	分野
Q6 現在、所属している課程を卒業・修了後に予定している進路として、あてはまるものをお一つ選んでください。⇒その他		
考えているが、答えを見つけていない	修士課程	理学系
ポスドク研究員	博士課程	理学系
留学	博士課程	工学系
研究員	博士課程	理学系
学振の特別研究員の継続	博士課程	理学系
他大学の研究員	5年一貫制の博士課程	理学系
今の仕事を続ける	博士課程	工学系
Q7 就職(希望)先は以下のどれですか。⇒その他		
病院などの医療機関	修士課程	理学系
国連	修士課程	理学系
未定。民間企業又は公務員	修士課程	工学系
個人事業主	修士課程	理学系
医療機関	博士課程	理学系
病院	修士課程	理学系
朝日新聞社	修士課程	理学系

Q8 希望する職種(入社後のあなたの仕事内容)は何ですか。⇒その他			
ITコンサル		修士課程	理学系
技術系行政官		修士課程	理学系
知的財産		博士課程	理学系
雑誌編集者		学士課程	理学系
運営		学士課程	理学系
プロジェクトマネジメント		修士課程	工学系
技術職又は研究・開発職		学士課程	工学系
広報・調査		博士課程	工学系
デザイナー		学士課程	理学系
インストラクター		学士課程	工学系
研究・開発職または技術職を考えている		学士課程	工学系
技術営業職		修士課程	工学系
SE		修士課程	理学系
司書		修士課程	理学系
コーディネーター		博士課程	工学系
設計		修士課程	工学系
金融専門職(アクチュアリー)		学士課程	理学系
遣伝カウンセラー		博士課程	理学系
研究・開発職または技術職		修士課程	理学系
海外事業部		学士課程	農学系
企画		学士課程	理学系
設計者		学士課程	工学系
Q9 あなたは進路選択の際、どのような条件を重視しますか。⇒その他			
自己実現できるか		学士課程	工学系
職場の環境		博士課程	理学系
自分がやりがいを持って働けるかどうか		博士課程	農学系
将来にわたり安定した収入が継続して見込めること		修士課程	理学系
会社の雰囲気		学士課程	理学系
海外との提携		博士課程	工学系
雰囲気		学士課程	理学系

SQ11-1 修士課程への進学を考えたことがある人に伺います。あなたが進学することを考えた理由は何ですか。⇒その他			
親にすすめられて		修士課程	理学系
研究職につくために必要だと思ったから		修士課程	理学系
推薦入試の打診を受けたため		修士課程	工学系
就職に有利		修士課程	工学系
研究を続けたかった		修士課程	工学系
理系としての教養を深めたかった		修士課程	工学系
理系は進学することが当たり前と思っていた		修士課程	理学系
学部4年の前半で進路を決められるほど研究に触れることができていなかった		修士課程	理学系
希望職に修士相当の能力が必要		修士課程	工学系
教員採用試験に落ちたため		修士課程	理学系
行けるのであれば行くべきものかと思っていたから		修士課程	工学系
研究が楽しそう		修士課程	理学系
いわゆる理系就職をしたい		修士課程	理学系
研究者としてやっていけるか試したい		修士課程	理学系
資格取得		修士課程	理学系
親の期待		修士課程	理学系
就職して研究や開発に携わりたかったため		修士課程	工学系
企業の研究職や技術職に就きたかったから		修士課程	工学系
周りの人に勧められた		修士課程	理学系
自分磨き		修士課程	工学系

SQ11-2 博士前期(修士)課程への進学を検討した際に懸念された事項は何ですか⇒その他		
社会に出る時期が遅れる		修士課程
外部受験をすることへの不安		修士課程
院に行くより、早めに就職して職場で経験を積んだ方が良いと思われた		修士課程
社会に出るのが20代後半になること		修士課程
世間体(女性の高学歴)		修士課程
特になし		修士課程
婚期の遅れ		修士課程
日本における研究職の重要性の認識の低さ		修士課程
特になし		修士課程
就職できたから		修士課程
卒業・就職が先延ばしされ、結婚や出産などで進むと就職してすぐに家庭に入るのはもったいない		修士課程
特に懸念事項はありませんでした		修士課程
なし		修士課程
自分の希望する職種において、早く就職した方が有利になるのかどうか		修士課程
歳を取ること		修士課程
特になし		修士課程
特になし		5年一貫制の博士課程
年齢		修士課程
研究室内の人間関係		修士課程
時間がかかる⇒就業可能年数が短くなる		修士課程
体調が悪かったので健康問題		修士課程
婚期の遅れ		修士課程
自身の年齢		修士課程
卒業時の自身の年齢		修士課程
特になし		修士課程
特になし		修士課程
終了後の年齢		修士課程



<p>SQ12-1 博士後期(博士)課程への進学を考えたことがある人に伺います。あなたが進学することを考えた理由は何ですか⇒その他</p>			
自分の研究テーマのゴールを自分で見届けたいと思った	修士課程		理学系
その分野の研究が好きだったから	修士課程		理学系
先生が優しい	修士課程		工学系
専門を身につけてずっと働き続けたいから	修士課程		理学系
研究を続けたい	修士課程		工学系
自分の研究を完成させたい	修士課程		理学系
内定がとれない	修士課程		理学系
評価されている環境にいたい	修士課程		理学系
カリキュラムの設定上	博士課程		理学系
<p>SQ12-2 博士後期(博士)課程への進学を検討した際に懸念された事項は何ですか⇒その他</p>			
研究環境	博士課程		理学系
卒業する年齢	修士課程		工学系
進学先(修士課程と同じでいいのか、海外の大学院を検討)	博士課程		理学系
一般の企業で働く経験もなかった	修士課程		理学系
婚期の遅れ	修士課程		理学系
卒業時の自身の年齢	修士課程		工学系

SQ12-3 博士後期(博士)課程への進学ではなく、就職することを考える理由は何ですか。⇒その他				
親にお金を出してもらったのが申し訳ないと感じる	学士課程			工学系
一度社会に出てから、学ぶべきことを考えたい	学士課程			工学系
博士に進んで、社会で活躍できるのはほんの一握りであるから。また、経済的余裕もないので	修士課程			理学系
早く自立した大人になって、親を安心させたかった	学士課程			工学系
現在、日本の就職環境の非グローバル化	博士課程			工学系
同世代の人のギャップが大きすぎる	修士課程			理学系
博士課程への進学は金銭的に余裕がないと考えたため	修士課程			工学系
早く仕事をして社会に貢献したい	修士課程			理学系
進学後の学費や生活費の心配	博士課程			理学系
文系就職を希望しており、後期課程までいくと希望企業の年齢制限から、入社試験を受けられないので	学士課程			理学系
研究ではなく、働くことを通して自分の専門を活かしたかったから	修士課程			理学系
就職先で経験を積みたい	修士課程			工学系
就職先で自分のやりたいことがある	修士課程			理学系
修士課程もしたことないから自分に研究が合うか分からない	学士課程			工学系
博士後期(博士)課程進学以外の道を考えたことがないので、この問いにはあてはまらない	博士課程			工学系
博士課程に所属している	博士課程			理学系
学部だけでなく勉強が不十分だと考えるが、修士課程まで学べば十分だと考えた	学士課程			理学系
経済的に厳しい	学士課程			理学系
年齢の心配	修士課程			工学系
授業料などのお金の問題があるため	学士課程			工学系
博士課程に進むメリットがわからない	修士課程			工学系
やりたいことができるのは就職の道だった	修士課程			工学系
歳をとる	修士課程			理学系
研究に興味がない	修士課程			工学系
経済的に進学できない	学士課程			理学系
教員免許が取れたらすぐに働きたい	学士課程			理学系
自分の専門以外にも興味のあるものがある	学士課程			工学系
学費等金銭面の不安	学士課程			理学系
博士課程は社会人になっても挑戦できるので、一旦働いてから考えようと思ったため	修士課程			工学系
就職活動に向けて院に進んだだけなので	修士課程			工学系

Q15-1 あなたの身近に博士号をもった人はいいますか。それはどなたですか。⇒その他

部活の先輩	学士課程	工学系
他大の友人	博士課程	理学系
他大学の研究者ら	博士課程	理学系
友人、知人	修士課程	理学系
友人(海外)	博士課程	工学系
大学の職員さん	学士課程	工学系
友人	学士課程	工学系
知人	学士課程	理学系
サークルの先輩	学士課程	理学系
職場の先輩	博士課程	理学系
友達	修士課程	工学系
研究室外の学内外の教員、先輩、友人	博士課程	工学系
サークルの先輩、学会で出会う他大学の教員等	博士課程	理学系
職場の先輩	博士課程	理学系
大学時代の部活の先輩	博士課程	理学系
科学教室で知り合った大学の研究員の方	修士課程	理学系
恋人、知人	博士課程	理学系
彼氏	学士課程	工学系
サークルの先輩	学士課程	理学系
友人	博士課程	工学系
サークルの先輩	学士課程	理学系
部活の先輩	学士課程	工学系
友人	博士課程	工学系
父の会社の後輩	修士課程	工学系
研究室の卒業生や他大学の教員	博士課程	工学系
近所の人	修士課程	工学系
友人	博士課程	理学系
学会などで知り合った他大学の先輩や教員	修士課程	理学系
サークルOB	修士課程	工学系
他研究室の先輩	学士課程	工学系
他学部の先輩	学士課程	理学系
九大の別の専攻の友達	修士課程	工学系

同じ授業を受けたクラスメート	修士課程	工学系
高校時代の教員	博士課程	理学系
友人	修士課程	理学系
部活の先輩	修士課程	工学系
他大学の友人	博士課程	工学系
他大学の友人	博士課程	理学系
所属するサークルの先輩	修士課程	理学系
アルバイト先の上司	修士課程	理学系
サークルの先輩	修士課程	理学系
友人	博士課程	工学系
インターンシップ先の社員	修士課程	理学系
サークルOG	修士課程	工学系
Q17 あなたは、進路選択に対して、誰のアドバイスを重視しますか⇒その他		
好きなことをやって生きている人	修士課程	工学系
社会人の知人、友人	修士課程	理学系
親戚	修士課程	理学系
中等教育のときの恩師	博士課程	理学系
高校時代の担任	修士課程	工学系
アルバイト先(飲食店)の店長。すでに実社会に出て働いていらっしやり、人をよく観察している	修士課程	工学系
親戚	修士課程	理学系
価値観に共感できる尊敬している人など	博士課程	工学系
高校時代の恩師	修士課程	理学系
SQ20-3 海外研修(研究)の受け入れ期間はどこでしたか⇒その他	修士課程	理学系
医療機関	修士課程	工学系

SQ21-3 留学の受け入れ機関はどこでしたか。⇒その他		
なし	学士課程	理学系
小学校、中学校	学士課程	工学系
大学院内の研究室	博士課程	理学系
現地の高校	修士課程	工学系
現地の高校	修士課程	工学系
高等専門学校	修士課程	理学系
高校	学士課程	工学系
公的研究所	修士課程	理学系
企業の修士号プログラム	博士課程	工学系
一般的な高校	学士課程	理学系
公立高校	修士課程	農学系
研修先の高校	学士課程	理学系
高校	博士課程	工学系
SQ22-3 インターシップの受け入れ機関はどこでしたか。⇒その他		
市立図書館	修士課程	工学系
病院	学士課程	理学系
大学の先生の研究所	学士課程	工学系
NPO	学士課程	理学系
NPO	学士課程	理学系
ベンチャー企業	修士課程	工学系
Q29 大学院選択において、何を重視しましたか(修士課程)		
将来拠点にしたい地域にあること	修士課程	農学系
共学であること	修士課程	理学系
海外であること	博士課程	工学系
研究設備が充実していること	修士課程	理学系
知り合いの紹介	修士課程	理学系
大学院試験免除対象だったこと	修士課程	工学系
特になし	修士課程	工学系
Q29 大学院選択において、何を重視しましたか(博士課程)		
研究に必要な分析環境が整っていること	博士課程	理学系
一流の研究の基礎や姿勢が学べること	5年一貫制の博士課程	理学系
同じ研究室で進学すれば学振DC1を取れる可能性が高かった	博士課程	理学系

Q31 博士前期(修士)課程に進学し課程を継続するために利用した資金種別は何ですか⇒その他		
特になし		修士課程
リーディング大学院プログラムからの奨励金		修士課程
日本国からの支援		修士課程
リーディング大学院 学修奨励金		修士課程
奨学金(総額のうち3分の2貸与)		修士課程
Q31 博士後期(博士)課程に進学し課程を継続するために利用した資金種別は何ですか⇒その他		
財団法人からの支援		博士課程
大学のプロジェクト資金(リーディング大学院の奨励金)		博士課程
大学からの助成金		博士課程
研究所の給料		博士課程
Q32 大学院での修学に関して良かった点(修士課程)⇒その他		
何もない		修士課程
研究に対してやりきったという達成感		修士課程
留学できた		修士課程
将来的に研究職に就くという新たな考えに至った		修士課程
忍耐力がついた		修士課程
プレゼンテーション能力を高められた(学会や研究室での発表によって)		修士課程
博士課程進学へのキャリアパスができた		修士課程
留学できた		修士課程
Q32 大学院での修学に関して良かった点(博士課程)⇒その他		
メンタルが強くなった		博士課程
視野が広がりキャリアが開けた		博士課程

Q33 大学院(修士課程)での修学に関して、不満点⇒その他			
初年度で整備が整っているとはいえない	修士課程		工学系
奨学金返還免除の審査基準がおかしい	修士課程		工学系
特になし	修士課程		農学系
研究に対して退屈を感じた	修士課程		工学系
挫折を感じた際のサポートが無かった	修士課程		工学系
運動不足	修士課程		工学系
特になし	修士課程		工学系
同期の研究に対する意識が低いと感じた	修士課程		工学系
所属が中途半端なため施設利用などで制限がかけられた	修士課程		理学系
あまり不満はなかった	修士課程		理学系
特になし	修士課程		工学系
特になし	修士課程		工学系
特になし	修士課程		工学系
特になし	修士課程		理学系
特になし	修士課程		理学系
自分が大学院で教育を受ける学生なのか、大学院という研究機関で(賃金無しで)雇われている労働者なのかかわからなくなることが多かった	修士課程		工学系
特になし	修士課程		工学系
指導教員との関係が微妙だった	修士課程		工学系
ありません	修士課程		理学系
習得分野に偏りを感じた	修士課程		工学系
周囲の学生のモチベーションが低かった	修士課程		工学系
研究室全体の雰囲気合わなかった	修士課程		工学系
ワークライフバランスが酷かった	修士課程		理学系
指導教員のアカハラに悩んだ	修士課程		理学系
特になし	修士課程		工学系
特になし	修士課程		工学系
特になし	修士課程		工学系

Q33 大学院(博士課程)での修学に関して、不満点⇒その他			
奨学金返還免除の審査基準がおかしい		博士課程	工学系
日本語はあまりわからない		博士課程	工学系
キャリアパスが上手く描けない		博士課程	理学系
あまり不満はない		博士課程	工学系
特になし		博士課程	理学系
特になし		博士課程	理学系
子育てをしながらの修学に対するサポートが不十分		博士課程	理学系
後輩指導の負担が増える		博士課程	工学系
オーバードクターには経済的支援がないのが大変でした		5年一貫制の博士課程	理学系
特になし		博士課程	工学系
後輩・男だらけの環境、嫉妬だらけで疲れる		博士課程	理学系
Q35 現時点で満期退学等で博士号を取得せずに終了される場合、その理由は何ですか⇒その他			
その予定はない		博士課程	農学系
満期退学は考えていない		博士課程	理学系
特になし		博士課程	工学系



発行月：平成27年12月  
発行：国立大学法人 お茶の水女子大学  
〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1  
TEL：03-5978-5775

---



お茶の水女子大学  
Ochanomizu University

国立大学法人お茶の水女子大学 リーディング大学院推進センター  
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

TEL 03-5978-5775

E-MAIL [leading-ocha@cc.ocha.ac.jp](mailto:leading-ocha@cc.ocha.ac.jp)

URL <http://www-w.cf.ocha.ac.jp/leading/>